

認可外の居宅訪問型保育事業等に係る
研修の実施に関する調査研究
報告書

令和3年3月



公益社団法人全国保育サービス協会

認可外の居宅訪問型保育事業等に係る研修の実施に関する調査研究 概要

1 研究の目的

幼児教育・保育の無償化を契機として創設された、認可外の居宅訪問型保育事業等に関する基準（資格・研修受講等）を当該保育に従事する全国の保育者ができるだけ早期に満たすことができるように、研修体制を整える必要がある。しかし、地域によっては、居宅訪問型保育に特化した研修が行われていないなど、研修機会の確保が困難である場合も多いことが課題となっている。

居宅訪問型保育は子どもの家庭等における個別保育という特性を有しており、家庭外に設けられた保育施設での集団保育とは異なる諸条件や留意事項を踏まえて保育に当たることが必要とされる。とりわけ認可外の居宅訪問型保育事業については、対象児童の年齢や利用時間帯、利用形態等が多様である。そのため、保育士、看護師の有資格者や集団保育を前提とする子育て支援員研修修了者であっても、認可外の居宅訪問型保育の特性を学ぶことが必要であり、習得すべき研修内容を明確にする必要がある。さらには、認可外の居宅訪問型保育者へのフォローアップ研修や現任研修も必要であり、この内容についても検討する必要がある。

これらのことから、多様な場面での必要性が認知されつつある認可外の居宅訪問型保育事業の質の担保を目的とし、研修内容の明確化と研修機会の確保方策について検討する調査研究を実施する。

2 研究の方法

（1）検討委員会、作業部会の設置

認可外の居宅訪問型保育事業並びに研修に造詣の深い有識者、事業者からなる検討委員会及び作業部会を設置し、4回の検討委員会、8回の作業部会を開催した。

検討委員会・作業部会 委員名簿

委員長	検討委員会	作業部会	氏名	所属
	○		網野 武博	現代福祉マインド研究所 所長
	○	○	岩久 由香	公益社団法人全国保育サービス協会 元理事
		○	岩清水 高尚	さくら会堂 システム事業部
	○	○	尾木 まり	子どもの領域研究所 所長 公益社団法人全国保育サービス協会 理事
◎	○		草川 功	聖路加国際病院 小児科医長 公益社団法人全国保育サービス協会 会長
	○		小泉 左江子	東京純心大学 特任准教授
	○		坂田 哲人	大妻女子大学 専任講師
	○	○	堺沢 玲子	(株) トットメイト 代表取締役 公益社団法人全国保育サービス協会 理事
		○	盛山 利紀	サンフラワー・A (株) 代表取締役 公益社団法人全国保育サービス協会 理事
	○	○	丸山 祐子	スマートシッター株式会社 代表取締役

(2) 認可外の居宅訪問型保育事業等に係る研修内容の検討

- 1) 有資格者や子育て支援員研修修了者を対象とする補足研修の内容（カリキュラム）の検討並びにテキストの作成
- 2) 定期的なフォローアップ研修の内容検討

(3) e-ラーニング活用による研修機会の確保方策の検討

- 1) 様々な媒体を活用した研修の有効性、修了評価の方策の検討
 - ① オンラインによる研修の実施方法の検討
 - ② 実施方法別メリット・デメリットの検討
 - ③ 認可外の居宅訪問型保育事業にこの方法を導入する際に必要となる修了評価の方法の検討
- 2) 映像等を盛り込んだe-ラーニングの試作版の作成

認可外の居宅訪問型保育事業に特化した研修内容について、映像等を盛り込んだe-ラーニングの試作版を作成する。
- 3) e-ラーニング試作版を活用する研修の実施による検証

公益社団法人全国保育サービス（ACSA）主催研修（ベビーシッター養成研修、ベビーシッター現任研修）におけるライブ配信の実施と検証

3 研究のまとめと今後の課題

(1) 認可外の居宅訪問型保育事業等に係る研修内容の検討

認可外の居宅訪問型保育事業にかかる研修として、保育士や看護師の有資格者、また、子育て支援員研修（地域保育コース）の修了者で、訪問型保育に特化した研修を受講していない者が受講することを推奨する「補足研修」として、①訪問型保育者の業務の流れ、②子ども家庭福祉における訪問型保育のシラバスを作成し、テキストを作成した上で、DVDを作成した。

また、フォローアップ研修、現任研修については、認可外の居宅訪問型保育者としての働き方はその頻度や時間数もさまざまであるため、経験年数で区切るのではなく、すべての現任の保育者を対象とした研修を定期的、継続的に行うことが必要である。その内容として、基礎的分野については、最近の児童福祉行政、子どもの心身の発達と保育、子どもの健康管理、安全の確保とリスクマネジメント、特別に配慮を要する子どもへの対応、保護者理解と対応、実技講習として、乳幼児の事故への対応や、あそび・子どものケアなどをあげた。これらは認可外保育施設従事者向けの研修として、自治体等が行う研修を受講することも可能であると考えられる。

さらに、上記の研修を居宅訪問型保育に特化した内容とする研修も考えられる。認可外の居宅訪問型保育については、対象児童の年齢が幅広い点や、保育する時間帯、子どもの状態もさまざまであるという特性に配慮した研修が必要となる。

認可外の居宅訪問型保育に特化したフォローアップ・現任研修の内容として、③さまざまな訪問型保育、④訪問型保育者の使命と役割、⑤訪問型保育における保護者への支援、⑥事例検討などをあげ、③さまざまな訪問型保育、④訪問型保育者の使命と役割については、シラバスを作成し、テキストを作成した上で、DVDを作成した。

（２）e-ラーニング活用による研修機会確保方策の検討

認可外保育施設指導監督基準の改正に伴い、認可外の居宅訪問型保育者は保育士または看護師、その資格を有していない場合は、指定された研修の受講を終了することが必要となった。しかし、全国的にそれらの研修が実施されていないことから、e-ラーニングの活用を視野に入れ、研修機会の確保方策を検討した。なお、本調査研究で言う e-ラーニングとは、e-ラーニングを広義に捉え、集合研修における映像教材の活用、DVD 等のメディアに収録された講義動画の視聴、講義のライブ配信（遠隔地の会場への配信や個人への配信を含む）などの手法を広く包含した学習方法として検討を行った。

これらの研修は、保育士、看護師の有資格者ではない方が受講する研修であり、認可外の居宅訪問型保育者としての従事要件（基礎資格）となる研修であるため、以下を満たしていることが求められる。

- ①本人が受講していることを確認できる（本人確認）
- ②受講態度に問題がないこと（講義の間、受講していることが確認できる）
- ③従来から行われている対面の集合研修と同様の学習効果が得られていることが確認できる修了評価が行える

この視点に基づき、e-ラーニングを活用した研修方法を検討した結果、メイン会場で行われる講義をライブ配信によるリモート会場への配信と、講師がスタジオで講義をし、個人にライブ配信する２つの方法を試行し、上記の必要要件を満たすことができるか検証を行った。また、その研修の中で、１．で作成したDVDの一部を映写し、評価を得た。

公益社団法人全国保育サービス協会が実施した第１回～第３回の養成研修、現任研修について、アンケートの結果やふりかえりシートの評価、また、受講者や会場を設定した事業者等の意見を総合的に検討した。リモート会場へのライブ配信や個人配信の学習効果を検討した結果、全３回の研修実施を通して、受講態度、習熟度等には違いは見られておらず、ライブ配信による集合会場での研修や個人配信は有効であると考えられる。

この効果が得られた要因として、講師がライブで話している講義を受けていることや演習や実技を通して、個人配信であっても、一緒に学んでいる人がいることを実感できたことがあげられる。とりわけ個人へのライブ配信では、コロナ禍の集合研修では実施できなかったグループディスカッションなどが可能となった点も大きかった。

ただし、自由意見等にもあげられた映像や音声の技術的トラブルを回避する体制の確立が必要なのは言うまでもない。また、今回の受講者の属性として会員事業者に所属する保育者が多かった点、また、認可外保育施設指導監督基準の改正により、早期に研修修了することが必要な保育経験者が多く参加していることから、今後対象者が一般に拡大され、初任者を対象とする研修に変わった際に、同様の結果が出るとは限らず、研修実施体制の課題の解消に向けて今後も取り組むことが必要である。

（３）今後の認可外の居宅訪問型保育事業に係る研修

今回の調査研究を通じて、認可外の居宅訪問型保育事業に係る研修を行うにあたり、ライブ配信の手法を活用することにより、東京で実施する研修を全国各地で受信でき、また、研修の質も

担保されることが明らかとなった。それを実行する上で整えなければならない運営体制について今後さらに検討を深めることが必要である。

とりわけ保育士や看護師の資格を有していない人が受講すべき研修については、本人確認や受講態度の確認、修了評価が必要になることから、e-ラーニング活用の中でも、ライブ配信であれば実施可能と考えられる。また、その配信先を必要とする地方自治体に広げることも可能であるし、地方自治体に情報提供の協力を要請することにより、研修を必要とする個人に研修を届けることが可能となる。

一方、フォローアップ研修や現任研修のような資質向上を目指して、基礎資格の上に積み上げていく研修については、オンデマンドの研修方法も有効であると考えられる。今回作成した、DVD教材については、ACSAのホームページ上で公開し、自由に閲覧することにもつなげ、保育者の自己研鑽に資することも可能である。

また、保育現場では一人で保育することの多い認可外の居宅訪問型保育者同士が情報交換をしたり、事例を共に検討するような機会も必要であることから、フォローアップ研修や現任研修でも個人へのライブ配信の活用が期待される。

目 次

I 研究目的	1
II 研究の方法	2
1. 検討委員会の設置	2
2. 認可外の居宅訪問型保育事業等に係る研修内容の検討	4
3. e-ラーニング活用による研修機会の確保方策の検討	4
4. 研究フロー	6
5. 結果の公表	6
III 研究の結果	9
1. 認可外の居宅訪問型保育事業等に係る研修内容の検討	9
(1) 有資格者や子育て支援員研修修了者を対象とする補足研修の内容（カリキュラム）の検討 並びにテキストの作成	9
(2) 定期的なフォローアップ研修の内容検討	20
2. e-ラーニング活用による研修機会の確保方策の検討	27
(1) 様々な媒体を活用した研修の有効性、修了評価の方策の検討	27
(2) 映像等を盛り込んだ e-ラーニングの試作版の作成	31
(3) e-ラーニング試作版を活用する研修の実施による検証	37
1) 研修実施状況	37
2) 運営体制	44
3) 研修実施に関するアンケート	45
i) 事業者への調査の結果	45
ii) 研修受講者へのアンケートの結果	51
iii) e-ラーニング試作版の評価について	76
4) 修了評価の検討	79
5) ライブ配信と今後の課題	87
6) 地方自治体の研修実施の意向	88
IV 研究のまとめと今後の課題	91
1. 認可外の居宅訪問型保育事業等に係る研修内容の検討	91
2. e-ラーニング活用による研修機会確保方策の検討	91
3. 今後の認可外の居宅訪問型保育事業に係る研修	92
参考資料	95

I 研究目的

幼児教育・保育の無償化を契機として創設された、認可外の居宅訪問型保育事業^{*1}等に関する基準（資格・研修受講等）^{*2}を当該保育に従事する全国の保育者ができるだけ早期に^{*3}満たすことができるように、研修体制を整える必要がある。しかし、地域によっては、居宅訪問型保育に特化した研修が行われていないなど、研修機会の確保が困難である場合も多いことが課題となっている。さらには、今年度のように、新型コロナウイルス感染症の拡大により、集合研修の開催が困難となることを今後は想定した研修実施計画が必要である。

居宅訪問型保育は子どもの家庭等における個別保育という特性を有しており、家庭外に設けられた保育施設での集団保育とは異なる諸条件や留意事項を踏まえて保育に当たることが必要とされる。とりわけ認可外の居宅訪問型保育事業については、対象児童の年齢や利用時間帯、利用形態等が多様である。そのため、保育士、看護師の有資格者や集団保育を前提とする子育て支援員研修修了者であっても、認可外の居宅訪問型保育の特性を学ぶことが必要であり、習得すべき研修内容を明確にする必要がある（これを補足研修と呼ぶ）。さらには、認可外の居宅訪問型保育者へのフォローアップ研修や現任研修も必要であり、この内容についても検討する必要がある。

これらのことから、多様な場面での必要性が認知されつつある認可外の居宅訪問型保育事業の質の担保を目的とし、研修内容の明確化と研修機会の確保方策について検討する調査研究を実施する。

認可・認可外を含む居宅訪問型保育事業に係る研修は、研修機会に地域格差が大きいことが明らかであり、研修受講の機会が少ない地方での研修機会の確保は喫緊の課題である。また、事業者による自社研修も頻度や内容にバラツキが大きいことから、本調査研究を通じて、必要となる研修内容を明確にし、認可外の居宅訪問型保育事業に従事する保育者が研修を受講しやすい体制を早期に構築することにつながることを期待される。

*1 認可外保育施設指導監督基準で言う「認可外の居宅訪問型保育事業」とは、一般的なベビーシッター事業、すなわち、保護者からの依頼に応じて、保護者の希望する時間に、希望する場所で子どもの保育を行うものである。

*2 「認可外保育施設指導監督基準」では、認可外の居宅訪問型保育事業に従事する保育者は保育士もしくは看護師の資格を有する者又は都道府県知事が行う保育に従事する者に関する研修を修了したものであること、と規定している。

①都道府県、市町村等が実施する居宅訪問保育事業基礎研修、家庭的保育事業基礎研修

②都道府県、市町村等が実施する子育て支援員研修（地域保育コース）

③公益社団法人全国保育サービス協会が行うベビーシッター養成研修、ベビーシッター現任研修

④指定保育士養成施設が実施する公益社団法人全国保育サービス協会が定める「認定ベビーシッター」資格取得に関する科目の履修

注：下線は、居宅訪問型保育事業、または、訪問型保育に特化した研修内容。

*3 1に示す研修修了については下記の経過措置が設けられている。

○企業主導型ベビーシッター利用者支援事業におけるベビーシッター派遣事業に従事する保育者： 2021（令和3年）3月31日まで

○幼児教育・保育の無償化の対象となる認可外の居宅訪問型保育事業に従事する保育者：
2024（令和6年）9月30日まで

II 研究の方法

1. 検討委員会の設置

本調査研究事業においては、認可外の居宅訪問型保育に従事する保育者が必要となる研修内容や全国的な実施状況に地域格差が大きい認可外の居宅訪問型保育の研修の実施体制を検討することを目的とし、認可外の居宅訪問型保育事業並びに研修に造詣の深い有識者、事業者からなる検討委員会及び作業部会を設置した。

検討委員会・作業部会 委員名簿

委員長	検討委員会	作業部会	氏 名	所 属
	○		網野 武博	現代福祉マインド研究所 所長
	○	○	岩久 由香	公益社団法人全国保育サービス協会 元理事
		○	岩清水 高尚	さくら会堂 システム事業部
	○	○	尾木 まり	子どもの領域研究所 所長 公益社団法人全国保育サービス協会 理事
◎	○		草川 功	聖路加国際病院 小児科医長 公益社団法人全国保育サービス協会 会長
	○		小泉 左江子	東京純心大学 特任准教授
	○		坂田 哲人	大妻女子大学 専任講師
	○	○	堺沢 玲子	(株) トットメイト 代表取締役 公益社団法人全国保育サービス協会 理事
		○	盛山 利紀	サンフラワー・A (株) 代表取締役 公益社団法人全国保育サービス協会 理事
	○	○	丸山 祐子	スマートシッター株式会社 代表取締役

事務局

長崎 真由美	公益社団法人全国保育サービス協会 事務局長
西本 徹	公益社団法人全国保育サービス協会 事業管理部次長

開催状況 検討委員会

開催状況	議 題
第 1 回 令和 2 年 8 月 18 日（火） 14 時～16 時	1. 研究の目的・方法、内容の確認 2. 全体計画の確認 3. 補足研修等の内容、担当者決定 4. 今後の予定、その他
第 2 回 令和 2 年 10 月 15 日（木） 14 時～16 時	1. 調査研究事業の進捗状況報告 ・認可外の居宅訪問型保育事業等に係る研修内容の検討 ・e-ラーニング活用による研修機会の確保方策の検討 2. e-ラーニング活用による研修における検証のポイントの確認 3. その他
第 3 回 令和 3 年 1 月 12 日（火） 14 時～16 時	1. 調査研究事業の進捗状況報告 ・認可外の居宅訪問型保育事業等に係る研修内容の検討 2. ライブ配信等研修の実施状況について 第 1 回、第 2 回 ライブ配信の方法、実施状況、評価 3. 第 3 回 ライブ配信の実施計画について 4. その他
第 4 回 令和 3 年 3 月 17 日（水） 14 時～16 時	1. 認可外の居宅訪問型保育事業等に係る研修内容の検討 報告 2. ライブ配信（個人配信）の実施状況、評価 報告 3. 報告書について

開催状況 作業部会

第 1 回	2020年8月18日 14時～16時	検討委員会と同時開催 研究方法、研究内容の検討、確認
第 2 回	2020年9月3日 14時～16時	補足研修の内容検討、フォローアップ研修の内容検討 e-ラーニング試作品制作準備
第 3 回	2020年9月4日 10時～12時	様々な媒体を活用した研修の有効性等の検討（1）
第 4 回	2020年9月18日 20時～21時	フォローアップ研修の内容検討
第 5 回	2020年10月15日 13時～14時	e-ラーニング試作品制作に向けての準備、確認事項
第 6 回	2020年12月25日 14時～15時	様々な媒体を活用した研修の有効性等の検討（2）
第 7 回	2021年2月5日 10時～11時	様々な媒体を活用した研修の有効性等の検討（3） フォローアップ研修（試作品制作準備）
第 8 回	2021年3月19日 16時～18時	様々な媒体を活用した研修の有効性の検討（4）

2. 認可外の居宅訪問型保育事業等に係る研修内容の検討

(1) 有資格者や子育て支援員研修修了者を対象とする補足研修の内容（カリキュラム）の検討並びにテキストの作成

① 保育士・看護師の有資格者や、子育て支援研修修了者が習得することが必要となる「補足研修」について、認可外の居宅訪問型保育の特徴、集団保育との違い、個人宅等で保育を行う際に踏まえるべき倫理等の内容を抽出し、シラバスを作成した上で、研修で活用できるテキストを作成する。

② 保育士や看護師の有資格者と子育て支援員研修修了者が受講すべき研修内容の違いを明らかにする。

(2) 定期的なフォローアップ研修の内容検討

認可外の訪問型保育に従事する者が定期的なフォローアップ研修で習得することが必要と思われる研修内容を検討する。

3. e-ラーニング活用による研修機会の確保方策の検討

(1) 様々な媒体を活用した研修の有効性、修了評価の方策の検討

① オンラインによる研修の実施方法の検討

② 実施方法別メリット・デメリットの検討

③ 認可外の居宅訪問型保育事業にこの方法を導入する際に必要となる修了評価の方法の検討

(2) 映像等を盛り込んだe-ラーニングの試作版の作成

認可外の居宅訪問型保育事業に特化した研修内容について、映像等を盛り込んだe-ラーニングの試作版を作成する。

(3) e-ラーニング試作版を活用する研修の実施による検証

公益社団法人全国保育サービス（ACSA）主催研修（ベビーシッター養成研修、ベビーシッター現任研修）におけるライブ配信の実施と検証

企業主導型ベビーシッター利用者支援事業におけるベビーシッター養成研修、ベビーシッター現任研修において、会場での集合・対面研修をウェブ会議システムの活用により、他の会場へのライブ配信を実施し、アンケート、受講状況のモニタリング、修了評価としてのふりかえりシート等の提出等により、ライブ配信による研修の実効性の検証を行った。その中で、(2) で作成したe-ラーニングの試作版を映写し、受講者の評価を得る。

なお、研修については、企業主導型ベビーシッター利用者支援事業にかかる事業費で実施し、本調査研究事業では検証に要する費用を支出した。参加者数は表の通りである。

表 (公社) 全国保育サービス協会実施「養成研修」「現任研修」実施状況

回	研修種別	日程	メイン会場	受講形態	参加者数
第1回	養成研修	R2年10月21日、22日、23日	ワイム貸 会議室四 谷三丁目	メイン会場	42
				事業者会場	69
	現任研修	R2年11月10日、11日、12日		メイン会場	45
				リモート会場	24
				事業者会場	13
第2回	養成研修	R2年11月25日、26日、27日	アットビ ジネスセ ンター東 京八重洲 センター	メイン会場	56
				リモート東京	29
				リモート大阪	19
				事業者会場	38
	現任研修	R2年12月16日、17日、18日		メイン会場	57
				リモート東京	29
				リモート大阪	17
				事業者会場	31
第3回	養成研修	R3年2月27日、22日、24日	ACSAスタ ジオより ライブ 配信 のみ	事業者会場	35
				個人配信	218
	現任研修	R3年3月5日、8日、9日		事業者会場	30
				個人配信	209

*参加者数は一部科目受講者等も含む。

アンケートの内容

【事業者向け】 第1～第3回は、ACSA会員事業者が用意した会場（自社会議室や貸し会議室）へ配信を行い、受信状況等に関してアンケートを実施した。

I 準備段階での困難性

II 技術面での困難性 PCの設定、受信時の映像の状況、音声の状況、ウェブカメラの設置

III 当日受付・出欠管理 各科目毎の出欠確認 その他

IV 受講中の受講者の様子 講義内容、演習や実習の指示のわかりやすさ、実技訓練他

【個人向け】

- 1 各科目毎の集中度、わかりやすさ （映像教材、実技がある場合はそれぞれについて回答）
- 2 受講の状況（受講方法、受講場所）
- 3 ライブ配信による受講についての自由意見
- 4 属性 現在の働き方・経験年数

提出物

ふりかえりシート

【映像教材試作版への評価】

- 1 集中して視聴できたか
- 2 わかりやすかったか
- 3 講義の中で映像教材を使用することへの意見

【自治体向けアンケート】

- 1 (1) 今年度の認可外の居宅訪問型保育者向けの研修の実施状況
(2) 今後の認可外の居宅訪問型保育者向けの研修の実施予定
- 2 (1) 公益社団法人全国保育サービス協会実施の養成、現任研修 ライブ配信による導入意向
(2) 公益社団法人全国保育サービス協会実施の養成、現任研修 ライブ配信による個人配信
の情報提供の可能性
- 3 (1) 補足研修、フォローアップ研修用DVD、テキストの活用可能性
(2) 補足研修、フォローアップ研修用DVD、テキストの入手希望

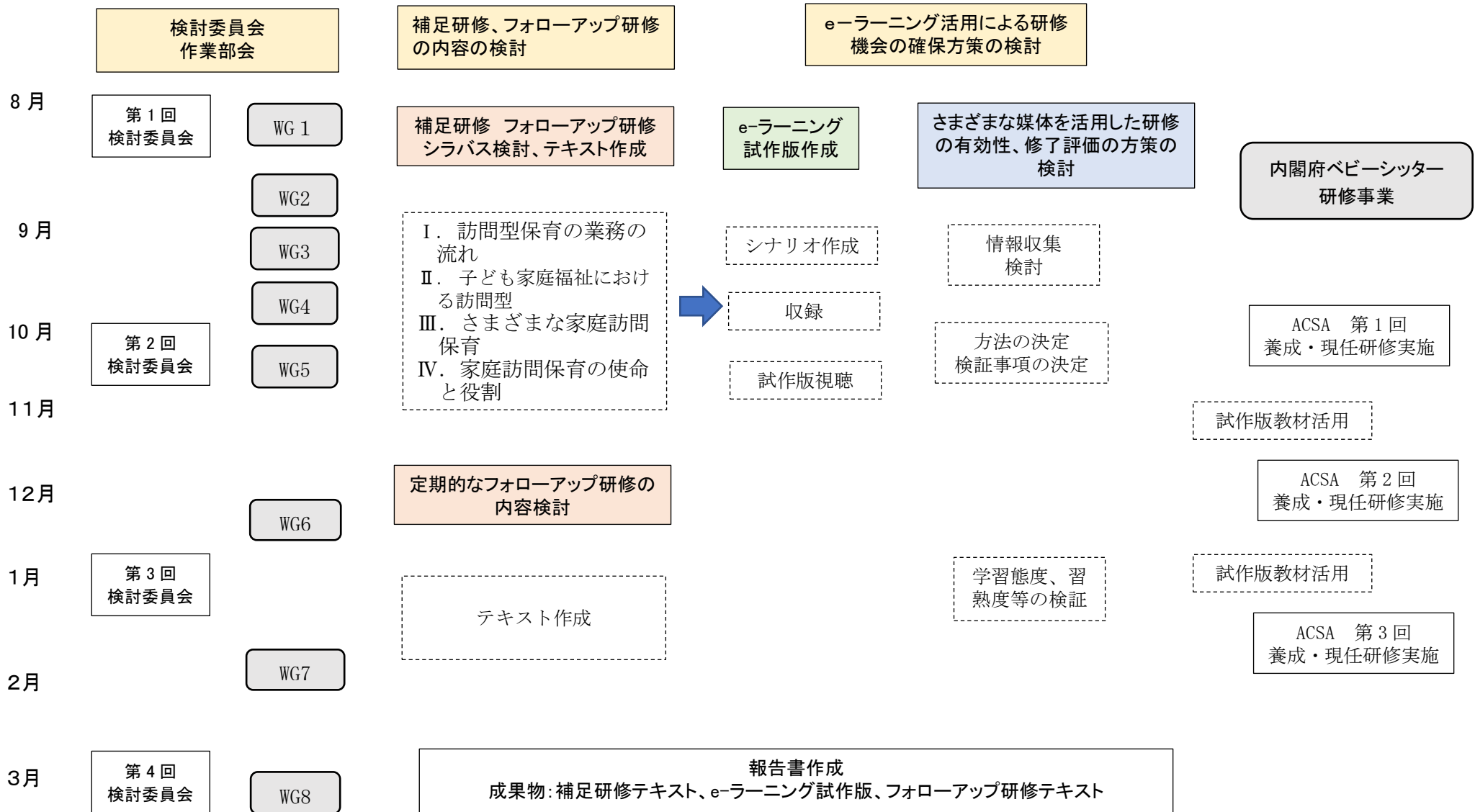
4. 調査研究フロー

次ページに示す通りである。

5. 結果の公表

本調査研究の結果については、報告書、試作版映像教材共に公益社団法人全国保育サービス協会のホームページ上で公開する。

調査研究フロー



Ⅲ 研究の結果

1. 認可外の居宅訪問型保育事業等に係る研修内容の検討

(1) 有資格者や子育て支援員研修修了者を対象とする補足研修の内容 (カリキュラム) の検討並びにテキストの作成

認可外の居宅訪問型保育事業者に係る研修内容を検討するにあたり、認可外の居宅訪問型保育事業に従事する者が、保育士または看護師の有資格者でない場合に、研修受講が義務づけられている以下の研修について、その研修内容及び保育概要（対象、利用形態等）の整理をする。

「認可外保育施設指導監督基準」では、認可外の居宅訪問型保育事業に従事する保育者は保育士もしくは看護師の資格を有する者又は都道府県知事が行う保育に従事する者に関する研修を修了したものであること、と規定されている。保育士または看護師の資格を有していない者が受講修了すべき研修としては下記のものがあげられる（以下、下線が訪問型保育に特化した研修）。

- ①都道府県、市町村等が実施する居宅訪問保育事業基礎研修、家庭的保育事業基礎研修
- ②都道府県、市町村等が実施する子育て支援員研修（地域保育コース）
- ③公益社団法人全国保育サービス協会が行うベビーシッター養成研修、ベビーシッター現任研修
- ④指定保育士養成施設が実施する公益社団法人全国保育サービス協会が定める「認定ベビーシッター」資格取得に関する科目の履修

1) 「居宅訪問型保育事業基礎研修」と公益社団法人全国保育サービス協会が実施する「ベビーシッター養成研究、現任研修」との比較

このうち、地域型保育事業に位置づけられる居宅訪問型保育事業に従事する保育者に受講が義務づけられている「①都道府県、市町村等が実施する居宅訪問型保育事業基礎研修」と企業主導型ベビーシッター利用者支援事業により実施されている「③公益社団法人全国保育サービス協会が行う養成研修、現任研修」の違いを整理する(表1-1)。

表1-1 研修の対象となる保育、研修内容の比較 ①
「居宅訪問型保育事業基礎研修」と「ベビーシッター養成研修・現任研修」

	①都道府県、市町村等が実施する居宅訪問型保育事業基礎研修	③公益社団法人全国保育サービス協会が行う養成研修、現任研修
保 育 の 対 象	3号認定(保育の必要性が認められた3歳未満児)を基本とする	特に年齢に制限なし (乳児から学童までが多い)
事業者	認可事業者	都道府県に届出(認可外の居宅訪問型保育事業)をした法人、個人
保育 内 容	保育所保育指針に準じ、居宅訪問型保育事業の特性に留意して実施	保護者の要望に沿って行われる。子どもの家での保育以外に、送迎なども行われる。

利用時間帯、時間数、頻度	認可保育所と同様に、平日の朝から夕方までの時間帯で1日8時間を基本とする保育を継続的に提供	保護者の要望に基づいて行われる事業であり、利用時間はさまざまである。中でも、夕方以降の短時間（2～3時間）の利用が多い実態がある。
研修内容の違い	「多様な保育研修事業実施要綱」に基づく「居宅訪問型保育事業基礎研修」。16科目（任意科目を除く19時間）＋実践演習（6時間）	居宅訪問型保育事業基礎研修に対応する科目に加え、「家庭訪問保育の体系と研修内容」（30分）、「保育マインド」（60分）、「一般型家庭訪問保育の業務の流れ」（90分）、「さまざまな家庭訪問保育」（90分）を実施。実践演習として6科目（7.5時間）を実施している。

認可外の居宅訪問型保育事業における保育の対象年齢や保育内容は多様であることから、居宅訪問型保育事業の基礎研修の内容を基本としつつ、対象年齢や利用形態、利用時間帯が多様であることを考慮し③公益社団法人全国保育サービス協会が行うベビーシッター養成研修、現任研修で実施される下記の講義内容を認可外の居宅訪問型保育事業に従事する保育者に受講を推奨する内容に含めることが適当である。

○認可外の訪問型保育者向け研修の講義内容に含めることが望ましい科目

一般型家庭訪問保育の業務の流れ(90分)

保育マインド(60分)

さまざまな家庭訪問保育(90分)

2) 「居宅訪問型保育事業基礎研修」と「子育て支援員研修地域保育コース」との比較

次に、「居宅訪問型保育事業基礎研修」と「子育て支援員研修地域保育コース」（地域型保育選択）の研修内容を比較する。（表1-2）

表1-2 研修の対象となる保育や研修内容の比較 ②

「居宅訪問型保育事業基礎研修」と「子育て支援員研修（地域保育コース）」

	①都道府県、市町村等が実施する居宅訪問型保育事業基礎研修	②都道府県、市町村等が実施する子育て支援員研修（地域保育コース）* 地域型保育を選択した場合
保育の対象	3号認定（保育の必要性が認められた3歳未満児）を基本とする	3号認定（保育の必要性が認められた3歳未満児）を基本とする
事業者	認可事業者	認可事業者
保育内容	保育所保育指針に準じ、居宅訪問型保育事業の特性に留意して実施	子どもの家庭外の施設で行われる集団保育
利用時間帯、時間数、頻度	認可保育所と同様に、平日の朝から夕方までの時間帯に1日8時間を基本とする保育を継続的に提供	認可保育所と同様に、平日の朝から夕方までの時間帯に1日8時間を基本とする保育を継続的に提供

研 修 内 容 の 違 い	「乳幼児の生活と遊び」 「乳幼児の発達と心理」 「乳幼児の食事と栄養」 「小児保健Ⅰ」、「小児保健Ⅱ」 「心肺蘇生法」 「特別な配慮を要する子どもへの対応」 「子ども虐待」	○左欄の7科目は基本的に同様の内容で講義されていると判断できる 「子ども虐待」は、基本研修「児童虐待と社会的養護」に相当
	「安全の確保とリスクマネジメント」	○この科目は同じ名称の科目であっても、同様の内容と判断できない。 ⇒集団保育の場でのリスクマネジメントが前提となった科目設定
	「居宅訪問型保育の概要」 「居宅訪問型保育保育内容」 「居宅訪問型保育における環境整備」 「居宅訪問型保育の運営」 「居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項」 「居宅訪問型保育における保護者への対応」	○左欄の6科目について、同じ名称の科目はなく、また、いずれも、地域型保育を前提とした内容になっており、同様の内容と判断できない。

* 地域保育コースには、「地域型保育」、「一時預かり事業」、「ファミリー・サポート・センター」の選択科目があり、上記の比較は全国的に実施率が高い「地域型保育」の内容に基づいて検討している。

両者ともに、地域型保育事業に位置づけられた保育に従事する保育者を前提とした研修であるが、子育て支援員研修に訪問型保育に特化した内容は全く含まれていないので、下記の内容を含めることが望ましい。

○認可外の訪問型保育者向け研修の講義内容に含めることが望ましい科目

居宅訪問型保育事業基礎研修より

- 「居宅訪問型保育の概要」
- 「居宅訪問型保育保育内容」
- 「居宅訪問型保育における環境整備」
- 「居宅訪問型保育の運営」
- 「居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項」
- 「居宅訪問型保育における保護者への対応」

公益社団法人全国保育サービス協会実施「養成研修」「現任研修」より

「一般型家庭訪問保育の業務の流れ」(90分)

「保育マインド」(60分)

「さまざまな家庭訪問保育」(90分)

なお、「居宅訪問型保育事業の運営」については、居宅訪問型保育事業に特化した内容であるため、「一般型家庭訪問保育の業務の流れ」で対応が可能である。

3) 保育士・看護師の有資格者と子育て支援員研修修了者が受講すべき研修内容の違い

保育士並びに看護師資格を有する者については、それぞれの実務経験や実務期間中に受講した研修等もあることから、それぞれ習得している知識や技術が異なると考えられる。

しかし、保育所保育指針もおおむね 10 年に一回改定されていることを考慮すれば、保育士資格を有している場合も、資格取得後のさまざまな変化や状況を理解している訳ではないと言える。また、保育や子どもを取り巻くさまざまな情報のアップデートが必ず必要である。例えば、2015 年度から施行されている子ども・子育て支援新制度についてや、近年の居宅訪問型保育の展開について学ぶ機会がなかった可能性も考えられる。

そのため、有資格者であっても、資格を有していない子育て支援員研修の修了者も、基本的に学ぶべき内容は同じで良いのではないかと考えられる。もちろん、その内容の理解度に差が生じる可能性はあるが、特に認可外の居宅訪問型保育に特化した科目や、近年の子ども家庭福祉や保育制度に関する内容（子どもの権利、子ども虐待、子ども・子育て支援新制度等）、対人援助技術等について習得する必要があると考えられる。

さらには、学んだことのある内容であっても、学ぶ時点での保育者の理解力が異なる可能性もあると、学ぶ度に違う気づきを得る可能性もある。また、保育に関わるさまざまな情報のアップデートも必ず必要になることから、保育士の有資格者も子育て支援員研修受講修了者も認可外の居宅訪問型保育事業に従事する際に受講することが望ましい科目は共通ととらえて良いと考える。

なお、看護師資格を有している者についても同様である。

4) 補足研修として必要な科目・内容の検討

以上、1)、2)、3)の研修科目の比較や検討を踏まえ、それぞれの研修事業の研修カリキュラムを比較すると、表 1-3 のようになる。ピンクは同等とみなして問題ないと考えられる科目、紫は同じ科目名でも内容が異なると考えられる科目、そして、緑色は居宅訪問型保育事業基礎研修の科目ではないが、認可外の居宅訪問型保育に従事する者を対象とする補足研修(対象：保育士、看護師の有資格者、子育て支援員研修地域保育コース修了者)に必ず盛り込むことが必要な科目である。

これらを考慮し、補足研修として必要な科目を

① 訪問型保育の業務の流れ

② 子ども家庭福祉における訪問型保育

の 2 科目として表 1-4、表 1-5 のように整理した。

また、そのシラバスを 表 1-6、表 1-7 に示す。

さらに、シラバスに基づき作成したテキストについては、別冊に示す。

なお、シラバス、テキスト、DVD については、認可外の居宅訪問型保育事業を「訪問型保育」として定義し、訪問型保育に従事する保育者を「訪問型保育者」と呼ぶこととし、テキストの冒頭で説明している。

表 1-3 居宅訪問型保育事業基礎研修科目と他の研修科目の比較

	規定 時間	居宅訪問型 保育事業	公益社団法人全国保育 サービスが実施する研修		子育て支援員研修	
		基礎研修	養成研修	現任研修	地域保育コース	
					(地域型保育)	(一時預かり)
1 家庭訪問保育の体系と研修内容			○			
2 保育者として身につけたい保育マインド			○			
3 居宅訪問型保育の概要	60	○		○	△地域型保育の概要	△一時預かり事業の概要
4 乳幼児の生活と遊び	60	○	○		○	○
5 乳幼児の発達と心理	90	○	○		○	○
6 乳幼児の食事と栄養	60	○		○	○	○
7 小児保健Ⅰ	60	○	○		○	○
8 小児保健Ⅱ	60	○		○	○	○
9 心肺蘇生法(実技講習)	120	○		○	○	○
10 居宅訪問型保育の保育内容	120	○		○	△地域型保育の保育内容	△一時預かり事業の保育内容
11 居宅訪問型保育における環境整備	60	○		○	△地域保育の環境整備	
12 居宅訪問型保育の運営	60	○		○	△地域型保育の運営	△一時預かり事業の運営
13 安全の確保とリスクマネジメント	60	○	○		○	○
14 居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項	90	○		○	△保育者の職業倫理と配慮事項	
15 居宅訪問型保育における保護者への対応	90	○		○	△地域型保育における保護者への対応	△一時預かり事業における保護者への対応
16 子ども虐待	60	○	○		○ 基本研修「児童虐待と社会的養護」	○ 基本研修「児童虐待と社会的養護」
17 特別に配慮を要する子どもへの対応	90	○		○	○	○
18 実践演習Ⅰ 保育技術(お世話編)	1～2日 (グループ 討議90)	○	○			
19 実践演習Ⅱ 保育技術(遊び編)		○	○	○		
20 一般型家庭訪問保育の業務の流れ			○			
21 さまざまな家庭訪問保育			○			
22 実習又は実務経験					見学実習2日	

ピンクは同等とみなして問題ないと考えられる科目

紫は同じ科目名でも内容が異なると考えられる科目

緑色は認可外の居宅訪問型保育に従事する者を対象とする補足研修(対象：保育士、看護師の有資格者、子育て支援員研修地域保育コース修了者)やフォローアップ研修に盛り込むことが必要な科目

表 1-4

必要とされる研修内容と補足研修科目①

「訪問型保育の業務の流れ」

居宅訪問型保育事業基礎研修等

補足研修科目

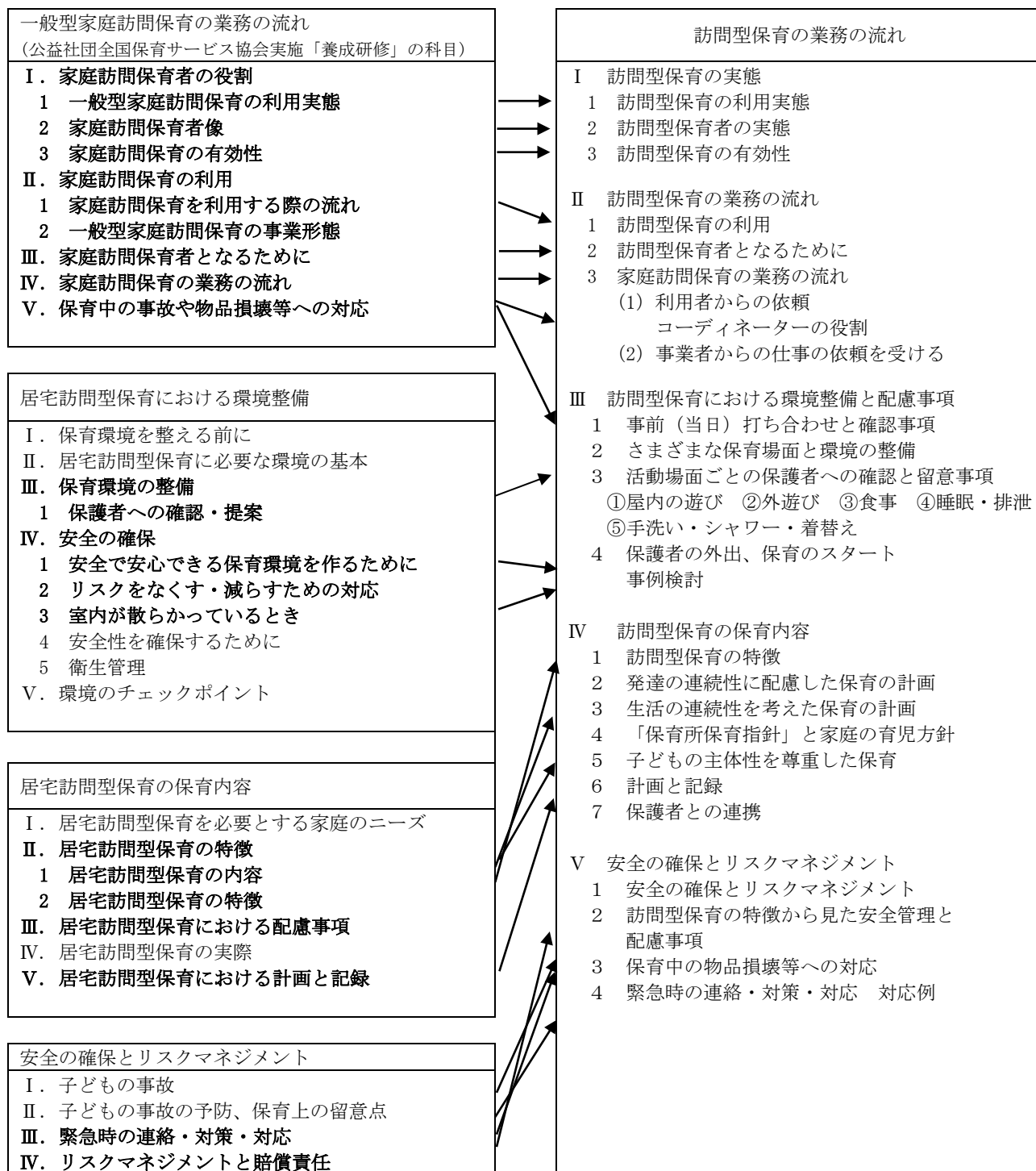


表 1-5

必要とされる研修内容と補足研修科目②

「子ども家庭福祉における訪問型保育」

居宅訪問型保育事業基礎研修	補足研修科目
居宅訪問型保育の概要 I. 児童家庭福祉における居宅訪問型保育の社会的背景、経緯、歴史 II. 訪問型保育の実態 1 利用実態から見る特徴 2 訪問型保育の展開 III. 子ども・子育て支援新制度の概要 1 子ども・子育て支援新制度の仕組み 2 施設型保育・地域型保育の利用の仕組み 3 地域型保育事業の概要 IV. 居宅訪問型保育事業 V. 地域子ども・子育て支援事業における居宅訪問型保育の展開 VI. 居宅訪問型保育の有効性と課題	子ども家庭福祉における訪問型保育 I 訪問型保育の歴史的経緯と現状 1 訪問型保育の歴史 2 ベビーシッター事業の誕生・発展と公的助成 3 私的契約に基づく保育と公的保育の違い II 子ども・子育て支援新制度の概要 1 子ども・子育て支援新制度の仕組み 2 子ども・子育て支援給付の利用の仕組み 3 地域型保育給付事業の概要 III 居宅訪問型保育事業 1 居宅訪問型保育の定義 2 居宅訪問型保育の基準 3 居宅訪問型保育の有効性と課題 IV 訪問型保育者の職業倫理 1 訪問型保育者の役割 (1) 訪問型保育者の基本的役割：保育士の専門性 (2) 居宅訪問型保育者の専門性と要件 (3) 認可外の居宅訪問型保育事業の保育従事者の要件 2 訪問型保育者としての基本的姿勢：保育マインド 3 訪問型保育者としての基本的姿勢：子どもの最善の利益を考慮する保育 4 訪問型保育者の職務とマナー 5 訪問型保育者としての職業倫理 (1) 保育者に求められる人間性、専門性、倫理観 (2) 子ども・子育て支援法及び家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準 6 訪問型保育における保護者への対応と職業倫理 (1) 秘密保持義務 (2) 訪問型保育における子育てアドバイスの留意点
居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項 I. 居宅訪問型保育者としての基本姿勢と職業倫理 1 居宅訪問型保育者の役割 2 居宅訪問型保育者としての基本姿勢 (1) 保育マインド (2) 子どもの最善の利益を考慮する保育 (3) 居宅訪問型保育者の職務とマナー 3) 居宅訪問型保育者としての職業倫理 II. 自己管理、自己評価、第三者評価 III. 地域や保育所等との関係 IV. 居宅訪問型保育事業者と行政との関係	
居宅訪問型保育における保護者への対応 I. 居宅訪問型保育における保護者支援の必要性 II. さまざまな家庭における家族とのかかわり方 1. 信頼関係に基づく保護者支援 2. 個人情報、プライバシーの保護 3. さまざまな家庭における保護者支援 III. 居宅訪問型保育における子育てアドバイス 1 相談・助言の原則 2 子育てアドバイスの留意点 IV. 保護者への対応 ー事例を通して考える	

居宅訪問型保育事業基礎研修シラバスは
 平成 27 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業
 「居宅訪問型保育の研修内容に関する研究」で
 作成したシラバスを参照した。

表 1-6 認可外の居宅訪問型保育に従事する保育者のための補足研修

シラバス①

<科目名> ① 訪問型保育の業務の流れ (講義 90 分)
<受講対象> ○保育士、看護師の有資格者で、訪問型保育に特化した研修を未受講の方 ○認可外の居宅訪問型保育事業の従事者としての要件を満たすために、子育て支援員研修（地域保育コース）を修了した方
<目的> 1. 訪問型保育の業務の流れを理解する。 2. 訪問型保育の配慮事項を理解する。
<内容> I 訪問型保育の実態 訪問型保育の利用実態から訪問型保育のニーズを理解するとともに、訪問型保育者の実態より、訪問型保育者としての働き方や課題などを理解する。 1 訪問型保育の利用実態 2 訪問型保育者の実態 3 訪問型保育の有効性 II 訪問型保育の業務の流れ 1 訪問型保育の利用 - ベビーシッターなどを利用するときの留意点（厚生労働省） 2 訪問型保育者となるために 3 家庭訪問保育の業務の流れ (1) 利用者からの依頼 - コーディネーターの役割 (2) 事業者からの仕事の依頼を受ける III 訪問型保育における環境整備と配慮事項 1 事前（当日）打ち合わせと確認事項 2 さまざまな保育場面と環境の整備 3 活動場面ごとの保護者への確認と留意事項 ①屋内の遊び ②外遊び ③食事 ④睡眠・排泄 ⑤手洗い・シャワー・着替え 4 保護者の外出、保育のスタート - 事例検討 IV 訪問型保育の保育内容 1 訪問型保育の特徴 2 発達の連続性に配慮した保育の計画 3 生活の連続性を考えた保育の計画 4 「保育所保育指針」と家庭の育児方針 5 子どもの主体性を尊重した保育 6 計画と記録 7 保護者との連携

V 安全の確保とリスクマネジメント

- 1 安全の確保とリスクマネジメント
- 2 訪問型保育の特徴から見た安全管理と配慮事項
- 3 保育中の物品損壊等への対応
- 4 緊急時の連絡・対策・対応 対応例

<研修に当たっての考え方>

訪問型保育の業務の流れが理解できるように、実際に訪問型保育者がかかわる保育の部分だけではなく、利用者が訪問型保育を依頼するプロセスや事業者の役割なども理解できるようにする。

また、実際の保育に関しては、保育開始前に確認しておくべき内容や事故防止のための配慮事項に触れた上で、具体的な保育内容を学ぶ。さらには、保育中の安全確保とリスクマネジメントの重要性に触れ、緊急時の対応方法などを学ぶ。

表 1-7 認可外の居宅訪問型保育に従事する保育者のための補足研修
シラバス②

<科目名> ② 子ども家庭福祉における訪問型保育 (講義 90 分)
<受講対象> ○保育士、看護師の有資格者で、訪問型保育に特化した研修を未受講の方 ○認可外の居宅訪問型保育事業の従事者としての要件を満たすために、子育て支援員研修地域保育コースを修了した方
<目的> 1. 子ども家庭福祉における訪問型保育の役割を理解する。 2. 訪問型保育者として厳守することが求められる照合倫理を学ぶ。
<内容> - I 訪問型保育の歴史的経緯と現状 1 訪問型保育の歴史 2 ベビーシッター事業の誕生・発展と公的助成 3 私的契約に基づく保育と公的保育の違い - II 子ども・子育て支援新制度の概要 1 子ども・子育て支援新制度の仕組み 2 子ども・子育て支援給付の利用の仕組み 3 地域型保育給付事業の概要 - III 居宅訪問型保育事業 1 居宅訪問型保育の定義 2 居宅訪問型保育の基準 3 居宅訪問型保育の有効性と課題 - IV 訪問型保育者の職業倫理 1 訪問型保育者の役割 (1) 訪問型保育者の基本的役割:保育士の専門性 (2) 居宅訪問型保育者の専門性と要件 (3) 認可外の居宅訪問型保育事業の保育従事者の要件 2 訪問型保育者としての基本的姿勢:保育マインド 3 訪問型保育者としての基本的姿勢:子どもの最善の利益を考慮する保育 (1) 子どもの最善の利益の定義 (2) 子どもの権利保障の二つの方向性 (3) 子どもの最善の利益を考慮する 4 段階 4 訪問型保育者の職務とマナー

5 訪問型保育者としての職業倫理

(1) 保育者に求められる人間性、専門性、倫理観

全国保育士会倫理綱領

看護者の倫理綱領

(2) 子ども・子育て支援法及び家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準

○家庭的保育事業者等の職員の一般的要件（家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準（以下、設備運営基準と表記） 第 8 条

○職員による虐待等の禁止（設備運営基準 第 12 条）

○秘密保持義務（設備運営基準 第 20 条第 1 項、第 2 項）

○苦情への対応（設備運営基準 第 21 条第 1 項、第 2 項）

○保護者との連携（設備運営基準 第 26 条）

6 訪問型保育における保護者への対応と職業倫理

(1) 秘密保持義務

(2) 訪問型保育における子育てアドバイスの留意点

<研修に当たっての考え方>

訪問型保育の歴史的経緯と、子ども家庭福祉における位置づけを理解することがまず一つ目の大きな目的である。保育制度については毎年少なからず変更があり、訪問型保育についての制度上の位置づけも多様に展開されているため、それに合わせて、研修内容を修正・追加していくことが必要である。

同時に、訪問型保育者が特に学びを深めるべき内容として、訪問型保育者としての職業倫理の習得が必要である。

(2) 定期的なフォローアップ研修の内容検討

社会保障審議会児童部会子どもの預かりサービスの在り方に関する専門委員会 議論のとりまとめ「認可外の居宅訪問型保育事業の資格・研修受講等に関する基準の創設等について」（2019年7月10日）では、基準を満たすための研修に加えて、保育に関する最新の情報をフォローするためのフォローアップ研修の必要性に触れている。また、子ども・子育て支援法の特定教育・保育施設等の指導指針では集団指導と実地指導の組合せの手法が明示されているが、認可外の居宅訪問型保育事業において、利用乳幼児宅での実地指導は困難であることから、年に1回以上集団指導を行うことが提案されている。個人事業主としての訪問型保育者が増加する現状では、フォローアップ研修は、こうした集団指導の場で活用することも考えられ、どのような内容や方法が有効であるかを検討する。

認可外保育施設指導監督基準において、保育士、看護師等の資格を有していない者に受講修了が義務づけられている研修で、フォローアップ研修や現任研修に規定があるのは、家庭的保育者等研修と子育て支援員研修であり、以下のように定められている。

家庭的保育者等研修

【フォローアップ研修】 家庭的保育の経験年数2年未満の者

(目的)

- ・基礎研修において修得した内容を実践した上での、疑問・悩みの解消
- ・関係する行政機関との連携関係の構築
- ・家庭的保育者間の連携関係の構築

(内容)

家庭的保育者からの相談・質問を中心とした研修

[例]

- ・保育内容の相談（異年齢保育等）
- ・避難経路の確保、避難訓練等の計画
- ・記録等の書類の作成方法
- ・経理方法等の指導 など

【現任研修】 すべての家庭的保育者

科目名	時間
最近の児童福祉行政	1時間
家庭的保育の運営・管理	2時間
子ども（3歳未満児）の心身の発達と保育	3時間
子ども（3歳未満児）の健康管理	3時間
子ども（3歳未満児）の栄養管理	3時間
子ども（3歳未満児）の安全と環境	3時間
保護者理解と対応	3時間

時間合計 18 時間

子育て支援員研修

フォローアップ研修（基本研修・専門研修）

対 象 者	経験年数2年未満の者
目 的	子育て支援員研修において、習得した内容と各事業に従事し、日々の実践を通じて生じた疑問や悩みの解消や関係機関との連携のあり方など問題解決への支援を図る。
内 容	業務に携わる中で生じた相談・質問を中心としたもの。
時間数等	・年2回程度 ・1回2時間程度
そ の 他	現任研修の内容が重複する場合等には、一体的に実施する形態も可

子育て支援員研修

現任研修（基本研修・専門研修）

対 象 者	全ての従事者（経験年数問わず）
目 的	各事業の従事者としての資質の向上を図るために必要となる、基礎的分野から事業の特性に応じた専門分野における必要な知識・技術を習得する。
内 容	〔基礎的分野〕 ・最近の児童福祉の概要 ・子どもの発達・遊びの理解 ・子ども・保護者対応、緊急時の対応 ・子どもの虐待 ・障害児への理解 等 〔専門分野〕 ・各事業の特性に応じた研修内容とし、基礎分野と組み合わせて実施する形態も可 ・スーパービジョンによる事例の検討 等
時間数等	各事業の特性に応じた回数・時間数を設定。
そ の 他	フォローアップ研修の内容が重複する場合等には、一体的に実施する形態

これらを参照すると、フォローアップ研修の対象は経験2年未満の者とされている。一方、全ての従事者を対象とする現任研修では特に経験年数が問われていない。認可外の居宅訪問型保育事業に従事する保育者は、仕事をする頻度もさまざまであるため、経験年数で区切るのではなく、すべての保育従事者を対象とすることが望ましいと考える。

研修内容としては、保育者として習得が必要な研修内容や適宜情報の更新が必要な研修内容として、以下があげられる。これを基礎的分野と整理する。

【基礎的分野】

最近の児童家庭福祉行政

子どもの心身の発達と保育

0歳～3歳未満児、3歳～5歳、小学生等
年齢区分別の学びが必要となる。

子どもの健康管理

安全の確保とリスクマネジメント

事故対応・緊急時対応

特別な配慮を要する子どもへの対応

保護者理解と対応

実技講習 乳幼児の事故への対応

実技講習 遊び・子どものケア

乳児、1～3歳未満児、3歳～5歳、小学生

【基礎的分野】については、保育一般について学びを深めるというとらえ方と、訪問型保育に特化した研修としてのとらえ方の両方がある。保育一般についての研修機会は自治体による認可外保育施設従事者向けの研修などが実施されていることから、受講機会はある程度確保される。一方、訪問型保育を前提としたさまざまな学びの機会を現任研修として提供してきた例としては、公益社団法人全国保育サービス協会（ACSA）の実践例としては下記があげられる。

表 2-1 公益社団法人全国保育サービス協会「専門研修」

「感染症と保育サービス」(平成 21 年度)
「家庭訪問保育における病児・病後児保育～感染症を中心に」(平成 24 年度)
「家庭訪問保育における 0 歳児保育研修」(平成 25 年度)
「家庭訪問保育における病児・病後児保育研修会 ～低年齢児に多い病気や気になる症状」(平成 25、27 年度)
「家庭訪問保育における慢性疾患児保育研修会」(平成 26 年度)
「家庭訪問保育におけるリスクマネジメント」(平成 28、29 年度)
「保育者のためのメンタルヘルス ～あなたがイキイキと輝けるヒントを お伝えします～」(平成 30 年度)

これらについては、現在のところ、全国展開の研修は実施されておらず、東京などでの実施が中心となっている。今後、e ラーニングの活用により、受講機会が拡大する可能性はある。

さらに、訪問型保育に特化した研修内容として以下の内容が考えられる。これらは、公益社団法人全国保育サービス協会が実施する「ベビーシッター養成研修」「ベビーシッター現任研修」の中で、「補足研修」に含まれなかった科目である。補足研修として実施することも可能であるが、フォローアップ研修あるいは現任研修として位置づけることも可能である。

とりわけ、事例検討等については、ある程度経験を積み、さまざまな事例を経験してから、参加する機会があることが望ましい。訪問型保育者は基本的に保育の現場では 1 人で保育を行っており、研修の機会に同じ保育に従事する保育者と演習やグループ討議等を通じて、意見交換、情報交換の機会があることが望ましい。

【訪問型保育に特化した研修内容】

- ①さまざまな訪問型保育
- ②訪問型保育者の使命と役割
- ③訪問型保育における保護者への支援
- ④事例検討

また、「ベビーシッター養成研修」「ベビーシッター現任研修」の科目を一部履修することも、今後の研修実施体制により受講機会の拡大が可能となれば、従事要件を満たすための研修受講としてばかりではなく、現任研修として学び直しの機会としても活用できると考えられる。

次ページに①さまざまな訪問型保育、②訪問型保育者の使命と役割のシラバスを示す。

表 2-2

フォローアップ研修 シラバス①

＜科目名＞ さまざまな訪問型保育 （60 分）
＜受講対象＞ ○保育士、看護師の有資格者で、訪問型保育に特化した研修を未受講の方 ○認可外の居宅訪問型保育事業の従事者としての要件を満たすために、子育て支援員研修地域保育コースを修了した方 ○その他、訪問型保育にすでに従事している方
＜目的＞ 1. 訪問型保育における、さまざまな保育の形態を知る。 2. それぞれの保育を実施する際の、留意点について学ぶ
＜内容＞ I さまざまな訪問型保育の利用 1 訪問型保育を利用する子ども 2 訪問型保育における保育の形態 II さまざまな訪問型保育の実際 1 産後ケア (1) 産後ケアの必要性 (2) 新生児のケアと特徴 (3) 母親の心身のケア ①産褥期の母体の変化 ②マタニティーブルーズ ③産後うつ病 (4) 家事支援 2 病児・病後児保育 (1) 病児・病後児保育とは (2) 病児・病後児保育における留意点 (3) 医療機関や保護者との連携の重要性 3 障害児保育 (1) 障害児保育とは (2) 障害のとらえ方の変化と動向 (3) 障害児保育における訪問型保育者の役割 (4) 障害児保育における留意点 (5) 専門機関との連携 4 きょうだいの保育 (1) 異年齢のきょうだいの保育 (2) 多胎児の保育

<研修に当たっての考え方>

訪問型保育の特性は、対象年齢が 0 歳児から小学生くらいの年齢までが対象となることもあり、その保育内容も保護者や利用児童のニーズに応じてさまざまである。この講義では、その中でも特徴的な 4 つの保育形態を取り上げて、配慮事項なども交えて学ぶ。

この講義については、初学者のみならず、経験を積んだ現任者となってから学ぶことにより、保育の特徴の違いにも気づきながら学ぶことが可能となる。

表 2-3

フォローアップ研修 シラバス②

＜科目名＞ 訪問型保育者の使命と役割（講義・演習 60～90 分）											
＜受講対象＞ ○訪問型保育にすでに従事しているすべての方 ○保育士、看護師の有資格者で、訪問型保育に特化した研修を未受講の方 ○認可外の居宅訪問型保育事業の従事者としての要件を満たすために、子育て支援員研修地域保育コースを修了した方											
＜目的＞ 1. 訪問型保育者の使命と役割を理解する。 2. 訪問型保育で保育者が出会うさまざまな事例への対応方法を学ぶ。 3. 具体的な事例を通して、対応方法を学ぶ。											
＜内容＞											
I 訪問型保育者の使命と役割 1 使命と役割を果たすためには、目的の理解が必要 2 訪問型保育の目的 3 3つの目的 ー求められている役割を明確に											
II 訪問型保育者が出会うさまざまなケースとその対応 1 訪問時に困ったケース 2 困ったとき、迷ったときの対応 (1) 事業者に報告、相談 (2) 事業者の役割 (3) 家族（保護者）とのコミュニケーション - ー保護者との信頼関係を築くために 1) 保育者の態度 2) 信頼関係を築く 3) 家族との信頼を深める話し方 ①聴き上手であること ②保護者に対してふさわしい言葉遣いをする ③家族の指示を理解していることを示す ④感謝の言葉を忘れずに ⑤要望を断るとき ー要望を断るときの伝え方											
III 訪問型保育の事例と対応 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top;">＜契約が守られないケース＞</td><td>事例 1 帰宅予定時間になっても保護者が戻ってこない</td></tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">＜体調不良時の対応＞</td><td>事例 2 発熱時の判断</td></tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">＜子どもの様子が気になる＞</td><td>事例 3 嘘をつく子ども</td></tr> <tr> <td></td><td>事例 4 発達障害の可能性のある子ども</td></tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">＜保護者の様子が気になる＞</td><td>事例 5 産後のうつ症状があるケース</td></tr> </table>		＜契約が守られないケース＞	事例 1 帰宅予定時間になっても保護者が戻ってこない	＜体調不良時の対応＞	事例 2 発熱時の判断	＜子どもの様子が気になる＞	事例 3 嘘をつく子ども		事例 4 発達障害の可能性のある子ども	＜保護者の様子が気になる＞	事例 5 産後のうつ症状があるケース
＜契約が守られないケース＞	事例 1 帰宅予定時間になっても保護者が戻ってこない										
＜体調不良時の対応＞	事例 2 発熱時の判断										
＜子どもの様子が気になる＞	事例 3 嘘をつく子ども										
	事例 4 発達障害の可能性のある子ども										
＜保護者の様子が気になる＞	事例 5 産後のうつ症状があるケース										

＜研修に当たっての考え方＞

- 訪問型保育はさまざまな子ども、さまざまな家庭を訪問して行われるが、そこで訪問型保育者が出会うさまざまなケースへの対応方法を学ぶことが目的である。現在、保育制度上さまざまな訪問型保育があることから、その日担当する保育がどの制度に位置付けられたものか、また子どもや保護者のニーズを的確にとらえて業務にあたることが必要である。
- 現任の訪問型保育者が参加する場合は、グループディスカッションなどの方法を取り入れて、90分程度の研修として組立て実施することも可能である。

2. e-ラーニング活用による研修機会の確保方策の検討

(1) 様々な媒体を活用した研修の有効性、修了評価の方策の検討

1) 研修の実施状況と e-ラーニング活用

認可外保育施設指導監督基準の改正により、認可外の居宅訪問型保育事業に従事する保育者（保育士、看護師の有資格者以外）に研修受講が義務づけられたが、東京都を除いて、認可及び認可外の居宅訪問型保育者向けの実施頻度は決して高くない。公益社団法人全国保育サービス協会（以下、「ACSA」と表記する）が実施する「ベビーシッター養成研修」「ベビーシッター現任研修」についても、東京都で年間3回、その他の地方都市（大阪市、名古屋市、福岡市等需要の高い都市）での開催が年間3回程度という頻度で行われているが、地方都市での開催は実施が期待されているにもかかわらず、ここ数年参加者数が非常に少ない傾向が見られており、参加申込者が少なすぎる場合に費用対効果の面から計画した研修を中止せざるを得ない状況もある。

また、都道府県等の地方自治体による研修については、東京都以外では認可事業としての居宅訪問型保育事業を導入する自治体で研修が実施されるにすぎない状況がある。なお、東京都においては、東京都独自の施策である「ベビーシッター利用支援事業」を実施しているため、居宅訪問型保育事業基礎研修を年間7回（2020年度実績）実施している。

さらには、ベビーシッター事業者以外にマッチングサイトを活用した個人事業主の保育者が増える実態があり、事業者が比較的多く存在する都市部以外の地域にも受講が必要な保育者が広がっている。

このように研修受講を必要とする需要は全国にあるにもかかわらず、対象が分散していることや、まとまった人数となり得ない状況等を考慮すると、認可外の居宅訪問型保育者向けの研修機会を確保するための方法として考えられるのが、e-ラーニングの仕組みの活用である。

インターネットの普及に伴い、わが国では2000年頃からe-ラーニングが導入されているが、社内研修や民間の資格取得、あるいは教育分野等での活用が広がりつつある。とりわけ2020年初頭からの新型コロナウイルス感染拡大により、外出自粛や非常事態宣言発令等を受け、休校となった学校から提供されるオンラインの授業やweb会議システムを活用した研修等が飛躍的に普及したと言える。

厚生労働省では、保育士等キャリアアップ研修をe-ラーニングで実施する方法等に関する調査研究会による「調査研究協力者会議における議論のとりまとめ」（平成31年1月9日）や「不正防止対策検討会における議論のとりまとめ」（平成31年3月13日）において、e-ラーニングの活用が検討されている。また、子ども・子育て支援推進調査研究事業では、「子育て支援員研修におけるe-ラーニングの受講方式の活用等に関する研究」（平成30年度）、「子育て支援員研修及び放課後児童支援員認定資格研修におけるe-ラーニング活用等による受講促進等に関する調査研究」（2019年度）、「子育て支援員研修及び放課後児童支援員認定資格研修における研修の開催及び受講の促進等に関する調査研究」（2020年度）により、子育て支援研修や放課後児童支援員認定資格研修におけるe-ラーニング活用が検討されている。

いずれも、受講と必要とされる研修の受講機会拡大を目的とするところが、本調査研究事業と共通する点である。一方、認可外の居宅訪問型保育事業の従事者に対する研修が上記の研修と異なる点は、現状では研修の実施主体が限られていること並びに受講対象者についても、キャリアアップ研修や子育て支援員研修と比較すると、決して多くはないことが想定される。つまり、大きな会場で大人数を集める研修を何回も実施することよりも、限られた回数での研修を如何に広い地域に点在する受講者に受講してもらえるシステムとして構築することが可能か、その方策が求められていると言える。

なお、eラーニングは狭義には、「インターネットを通じて教材を自由受講するもの、またはインターネットによって定時配信された教材を受信するもので、受講者が自由に閲覧することを想定した学習方法」¹であり、受講者が受講する時間、場所を自由に設定することが可能な学習方法(オンデマンド)である。本調査研究事業においては、前述の厚生労働省が実施した調査研究事業と同様に、eラーニングを広義に捉え、集合研修における映像教材の活用、DVD等のメディアに収録された講義動画の視聴、講義のライブ配信(遠隔地の会場への配信や個人への配信を含む)などの手法を広く包含した学習方法として定義づけ、検討を行うこととする。

2) eラーニングを活用した研修の実施方法

まず、eラーニングを活用したオンライン研修と従来から実施している、集合型のオフライン研修について比較すると次ページの図のようになる。オンライン研修の場合は、会場確保や会場設定、参加者数(最低人数、最大人数のいずれも)、地域性、集客性に左右されることなく、それぞれの需要に応じた開催を設定できるメリットが大きい。

ただし、オンライン配信の場合は、安定した接続に基づく安定した配信サービス、参加人数(規模)、使いやすさ、セキュリティ対策、技術面でのサポート体制などを考慮することが必要になる。

現在、認可外の居宅訪問型保育事業の研修が全国で必要に応じて実施されていない現状を考慮すると、大人数が参集する複数の会場を対象にオンラインで研修をすることよりも、少人数が参集する全国各地の小会場を対象とすることが想定される。

また、現在最も必要とされているのは、認可外の居宅訪問型保育者として受講が義務づけられている研修であり、ACSAが実施する「ベビーシッター養成研修」(以下、「養成研修」と記す)、「ベビーシッター現任研修」(以下、「現任研修」と記す)を想定すると、下記の諸条件を満たす必要があると考えられる。

1. 保育士、看護師の有資格者ではない方が受講する研修であり、認可外の訪問型保育者としての従事要件となる研修であるため、以下を満たしていることが求められる。

- ①本人が受講していることを確認できる(本人確認)
- ②受講態度に問題がないこと(講義の間、受講していることが確認できる)
- ③従来から行われている対面の集合研修と同様の学習効果が得られていると
修了評価が行えること

¹ 「調査研究協力者会議における議論のとりまとめ」(平成31年1月9日)、厚生労働省委託研究、保育士等キャリアアップ研修をeラーニングで実施する方法等に関する調査研究会

そのため、大勢の参加者を対象とできるウェビナー²や、動画をYOUTUBE等にアップして、運営者より提供されたパスワード等を入力することにより視聴が可能となる方法ではなく、可能な限り、対面で受講するときと同様の受講環境の確保と学習効果が担保できる体制が必要となる。

とりわけ、訪問型保育については、保育者が一人で保育を行うことが多く、また、対象年齢に低年齢児も含まれることから、認可外の居宅訪問型保育者の基礎的資格とも言える研修受講については、対面での集合研修が適切であるという声も十分に考慮する必要がある。

そこで、e-ラーニングを活用した研修の実施方法については、できるだけ対面で行われる集合型の研修と同等の品質と学習効果が担保できる方法が望ましい。講義ももちろんであるが、演習や実習が含まれる科目もあるため、それらが適切に行える方法であることが望ましい。

そこで、研修の実施方法として考えられる以下の方法について、次ページの表で比較検討を行った。

- A. オフライン(従来型)
- B. オフライン(映像教材DVDを集合会場で視聴)
- C. オンライン(ライブ配信 集合研修) ウェビナー使用
 オンライン(ライブ配信 集合研修) 双方向制web会議システム使用
- D. オンライン(ライブ配信 個人配信) ウェビナー使用
 オンライン(ライブ配信 個人配信) 双方向制web会議システム使用
- E. オンデマンド

その結果は表3-1に示す通りであるが、認可外の居宅訪問型保育者として受講が義務づけられている研修を実施するに当たり、ライブ配信によるオンラインでの研修で、ミーティング機能を活用した方法が適していると考え、試行的に実施することとした。

² ウェブ上で行われるセミナーを意味する造語である。参加者規模を大きく設定することが可能であるが、ミーティング機能がないため、受講者は手揚げやチャットを使つての質疑応答はできるが、視聴者の顔や名前が表示されず、ブレイクアウトルーム等の活用による演習を実施することもできない。

表3-1 研修実施形態別諸条件、課題

方法		オフライン		オンライン				
		従来方式	映像教材視聴	ライブ配信（集合研修）		ライブ配信（個人配信）		オンデマンド
				ウェビナー	ミーティング	ウェビナー	ミーティング	
場所		会場での実施	地方自治体等が用意した会場での実施	メイン会場からのライブ配信を、その他の会場で受信		メイン会場からのライブ配信を、個人宅等の都合の良い場所で受講		受講者が都合の良い場所で受講可
運営体制		会場確保、講師日程調整、講師謝金、旅費、運営スタッフ他	会場確保、機器の準備、運営スタッフ	会場確保、運営スタッフの配置		運営側に受講状況の管理体制が必要		初期投資（コンテンツ作成）、受講状況の管理システムの導入が必要
				メイン会場またはスタジオからの配信				
日程・時間		3日間×2コース (ACSA養成・現任研修の場合)	適宜設定可能	メイン会場と同日程同時刻に受講				都合の良い時間に受講が可能 運営側で受講期間の設定も可能
実施頻度		年間6回程度	随時開催可能	メイン会場と同頻度で開催が可能				受講者の都合に合わせた受講が可能
利便性				個人でライブ配信を受信できる環境がない 受講者が受講可能		会場まで出かけ行く必要がない。移動時間、旅費等の軽減。		
受講者	演習への参加	○	○	×	○	×	○	×
	モチベーションの維持	講師の生の講義 他の受講者や運営者がその場にいる。	全講義の映像視聴は集中力の維持が困難	配信であっても講師の生の講義を受講。 集合会場で一緒に受講する人の存在や運営者がいることにより、集中できる。		配信であっても講師の生の講義を受講。 講師の働きかけ次第で、自分に向けて講義が行われている臨場感が感じられる		全講義映像視聴は集中力の維持が困難
	不正防止	不要	不要	不要	不要	監視体制が必要	監視体制が必要	不正防止対策が必要
	修了評価	受講態度、提出物	受講態度、提出物	受講態度、提出物	受講態度、提出物	受講態度、提出物	受講態度、提出物	提出物
期待される効果		従来と同じ研修の質が担保できる	研修実施を希望する地方自治体に広がっていくことが可能	研修受講希望者がいる地域や事業者に広がっていくことが可能		研修受講を希望する個人に広がっていくことが可能		
その他		新型コロナウイルス感染症等の影響を受け、実施が不可能になる。				PC等の機器があり、インターネット環境があることが必要		復習等の反復学習が可能

（２）映像等を盛り込んだ e-ラーニングの試作版の作成

１（１）、（２）で検討した補足研修、フォローアップ研修の中から、下記の４本の試作版映像教材を作成した。それぞれの構成を表４-1に示す。

表４-1

補足研修	訪問型保育の業務の流れ（80分）
	子ども家庭福祉における訪問型保育（90分）
フォローアップ研修	さまざまな訪問型保育（60分）
	訪問型保育者の使命と役割（70分）

１）試作版映像教材制作上の配慮事項

試作版映像教材を制作する上で配慮した点は、まず、講義内容をチャプター形式で構成し、１つの章あるいは項を10～15分程度の長さにして制作したことである。これは視聴者が集中して見ることができる長さに配慮したもので区切りなしに60分あるいは90分の講義が継続的に行われるよりも、短い単位を積み重ねていく構成で制作した。

また、セクションごとにまとめやふりかえりを促すコメントを入れたり、視聴者にテーマについて考えてもらうワークや、事例を検討する時間（1～2分）を組み込んでいる場面もある。

さらに、90分の映像教材では、30分程度に1回休憩やふりかえりの時間が入るように考慮して作成した。

２）試作版映像教材の活用方法

①一般への公開

試作版映像教材については、公益社団法人全国保育サービス協会のホームページ上で公開（YOUTUBE等で視聴できるようにする）することにより、一般の視聴が可能となる。認可外の居宅訪問型保育事業に従事する保育者の自己研鑽として視聴することや、保育事業者が自社研修の一環として視聴する機会を設けたり、あるいは保育者に視聴を推奨することも可能となる。基本的に随時視聴が可能となるため、研修を受講する機会を拡大することにつながることを期待される。

②地方自治体担当課への提供

試作版映像教材をDVDとして制作し、都道府県、政令指定都市、中核市等に配布し、認可外の居宅訪問型保育事業者への集団指導等の場面や独自に開催する研修などで活用していただくことが可能となる。

映像教材を映写するだけの活用方法もあるが、視聴後にグループディスカッション等の時間を設けて、視聴した内容や日頃の訪問型保育業務について情報交換等の時間を持つ方法も可能である。

③研修講義での活用

試作版映像教材は章単位形式で構成されているため、講師が行う講義の中で部分的に映像を活用することが可能である。その効果として、講義の充実があげられるが、他の講師による専門的な講義内容を活用できることや、講義のメリハリともなり、受講者の気分転換や集中を喚起するきっかけにもなることが期待される。

補足研修
訪問型保育の業務の流れ DVD 構成

構成	時間	内容
導入	2分 30 秒	講義の目的、講義の進め方
I 訪問型保育の 特徴	8 分 51 秒	利用実態 利用者 保育者 有効性
II 訪問型保育の 業務の流れ	11 分 55 秒	1 家庭訪問保育の利用 利用するときの留意点 2 家庭訪問保育者となるために 3 家庭訪問保育の業務の流れ (1)事業者が利用の依頼を受ける コーディネーターの役割と重要性 (2)事業者から仕事の依頼を受ける
	2分	ふりかえり 1
III 訪問型保育の 環境整備と配慮事項	13 分 14 秒	1 事前打ち合わせと確認事項 2 さまざまな保育場面と環境の整備 3 活動場面ごとの保護者への確認と留意事項 4 保護者の外出、保育のスタート
	7 分 22 秒	事例検討1、2
IV 訪問型保育の 保育内容	15 分 26 秒	1. 訪問型保育の特徴 2. 発達の連続性に配慮した保育の計画 3. 生活の連続性を考えた保育の計画 4. 「保育所保育指針」と家庭の育児方針 5. 子どもの主体性を尊重した保育 6. 計画と記録 7. 保護者との連携
V 安全の確保と リスクマネジメント	16 分 22 秒	1. 安全の確保とリスクマネジメント 2. 訪問型保育の特徴から見た安全管理と 配慮事項 3. 保育中の物品損壊等への対応 4. 緊急時の連絡・対策・対応 対応例
学びのポイント、まとめ	50 秒	まとめとふりかえり
	1 時間 19 分	

補足研修
子ども家庭福祉における訪問型保育 DVD 構成

構成	時間	内容
導入	4 分 46 秒	・講義の目的
I 訪問型保育の歴史的経緯と現状	10 分 55 秒	1 家庭訪問保育の歴史：保育士の源流としての乳母 2 ベビーシッター事業の誕生・発展と公的助成 3 私的契約に基づく保育と公的保育の違い
II 子ども・子育て支援新制度の概要	10 分 15 秒	1 子ども・子育て支援新制度の仕組み 2 子ども・子育て支援給付の利用の仕組み 3 地域型保育給付事業の概要 4 地域子ども・子育て支援事業の概要
III 居宅訪問型保育事業	9 分 21 秒	1 居宅訪問型保育の定義 2 居宅訪問型保育の基準 3 居宅訪問型保育の有効性と課題
	2 分	インターミッション 1
IV 訪問型保育者の職業倫理 1 訪問型保育者の役割	8 分 01 秒	(1) 訪問型保育者の基本的役割 (2) 居宅訪問型保育者の専門性と要件 (3) 認可外の居宅訪問型保育事業の保育従事者の要件
2 訪問型保育者としての基本的姿勢：保育マインド	5 分 7 秒	保育マインド
3 訪問型保育者としての基本的姿勢：子どもの最善の利益を考慮する保育	15 分 10 秒	子どもの最善の利益を考慮する保育 (1) 子どもの最善の利益の定義 (2) 子どもの権利保障の二つの方向性
	2 分	インターミッション 2
	6 分 10 秒	(3) 子どもの最善の利益を考慮する 4 段階
4 家庭訪問保育者の職務とマナー	2 分 54 秒	家庭訪問保育者の職務とマナー
5 訪問型保育者としての職業倫理	7 分 26 秒	(1) 保育者に求められる人間性、専門性、倫理観 ① 全国保育士会倫理綱領 ② 日本看護協会看護者の倫理綱領 (2) 子ども・子育て支援法及び家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準
6 訪問型保育における保護者への対応と職業倫理	5 分 29 秒	(1) 秘密保持義務 (2) 家庭訪問保育における子育てアドバイスの留意点
学びのポイント、まとめ	2 分 16 秒	
	1 時間 30 分	

フォローアップ研修
さまざまな訪問型保育 DVD 構成

構成	時間	内容
導入	2分 33 秒	・講義の目的
I さまざまな訪問型保育の利用	4 分 3 秒	1 訪問型保育を利用することも 2 訪問型保育における保育の形態
II さまざまな訪問型保育の実際	20 分 15 防	(1)産後ケアとその必要性 (2)新生児のケアと特徴 (3)母親の心身のケア (4)家事支援
1 産後ケア		ワンポイントアドバイス 産後ケア
		ふりかえり
2 病児・病後児保育	13 分 02 秒	(1)病児・病後児保育とは (2)病児・病後児保育における留意点 (3)医療機関や保護者との連携の重要性
		ワンポイントアドバイス 病後児保育
		ふりかえり
3 障害児保育	10 分 18 秒	(1)障害児保育とは (2)障害のとらえ方の変化と動向 (3)障害児保育における訪問型保育者の役割 (4)障害児保育における留意点 (5)専門機関との連携
		ワンポイントアドバイス 障害児保育
		ふりかえり
4 きょうだいの保育	8 分 34 秒	(1)異年齢のきょうだいの保育 (2)多胎児の保育
		ワンポイントアドバイス きょうだいの保育
学びのポイント まとめ	58 秒	学びのポイント まとめ
	59 分 43 秒	

フォローアップ研修
訪問型保育者の使命と役割 DVD 構成

構成	時間	内容
導入	2分 54 秒	講師紹介、講義の目的、講義の進め方
I 訪問型保育者の使命と役割	7 分 33 秒	○訪問型保育者の「使命」と「役割」とは ○訪問型保育事業の目的(自主基準より) ○さまざまな事業形態(私的契約～公的制度)の事業目的、保護者や子どものニーズを把握し、期待されるサービスを提供する必要性
II 訪問型保育で出会うさまざまなケースとその対応	8 分 25 秒	1 訪問時に困ったケース 利用家庭を訪問して出会う困ったケース 2 困ったときの対応 (1)事業者(コーディネーター)に報告、相談 事業者が対応、事業者が対応方法を指示
	5 分 49 秒	(2)事業者の役割 ・事業者に所属して訪問型保育者として働く意義 トラブルへの対応、保険、保育者養成
	14 分 35 秒	(3)家庭への対応 一子どもや保護者との信頼関係を築くために ①保育者の態度 ②信頼関係を築く ③家族との信頼を深める話し方
	24 秒	ここまでのふりかえり
III 訪問型保育の具体的な事例と対応	24 分 12 秒	事例紹介と対応例 5 事例(検討中) <契約内容が守られない> 1 無断延長で保護者と連絡がとれない場合 <病後児の対応> 2 発熱時の対応 <子どもの様子が気になる> 3 嘘をつく子ども 4 発達障害が疑われる子ども <保護者の様子が気になる> 5 母親に産後のうつ症状がある
学びのポイントまとめ	1分38秒	まとめとふりかえり
	70 分 7 秒	

(3) e-ラーニング試作版を活用する研修の実施による検証

本年度ACSAが実施予定であったベビーシッター養成研修、現任研修（内閣府ベビーシッター利用者支援事業の研修事業）については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、集合研修での実施が難しい状況に陥った。一方、内閣府ベビーシッター利用者支援事業におけるベビーシッター派遣事業（割引券）の従事者の研修受講修了の経過措置は2021年3月末日と定められており、全国に本研修を必要とする事業者、保育者が多く存在する状態であった。

この研修は通常、東京での開催年間3回、名古屋市、大阪市、福岡市等の地方都市での開催を年間2～3回程度実施しているが、本年度は東京での開催に限定し、地方都市でも受講できる会場を用意し、全国会場へのライブ配信を試行的に行い、運営体制や受講者の学習効果、修了評価について検討を加えることとした。

また、本研修では、2(2)の試作版も適宜活用し、評価を得ることとした。

1) 研修実施状況

研修はライブ配信の方法を取り入れ、東京のメイン会場で実施される研修を、他の場所に用意した会場に同時に配信する手法を取り入れた（第1回、第2回養成研修、現任研修）。他の場所に用意した会場とは、主催者（ACSA）が用意した別会場（都内及び地方）とACSA会員事業者が用意した会場（自社の会議室や貸し会議室等）であった。

また、第3回は第1回、第2回と同様の方法で令和3年1月に実施することが予定されていたが、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令されたことを受け、集合研修の開催が困難となったため、個人配信に切り替えて実施した。

講義後は、受講者の感想・評価、ふりかえりシートの提出を求め、研修方法やe-ラーニング教材の検証を行った。

実施概要は以下に示す通りである。

図 5-1 メイン会場で行う集合研修をライブ配信（第 1 回・第 2 回養成、現任）

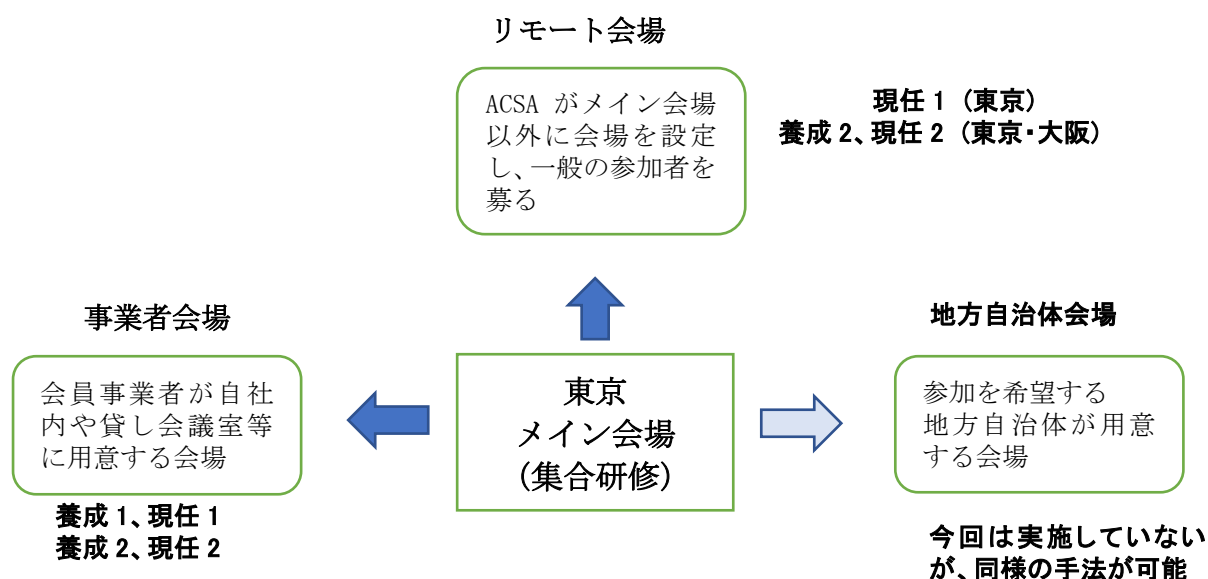
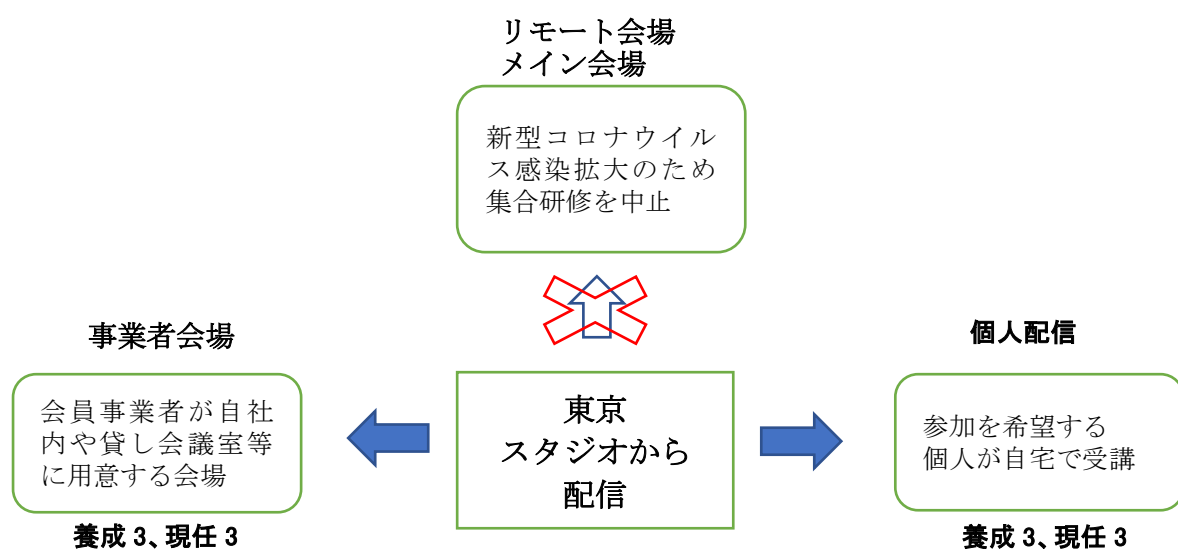


図 5-2 スタジオで講師が行う講義をライブ配信（第 3 回養成、第 3 回現任）



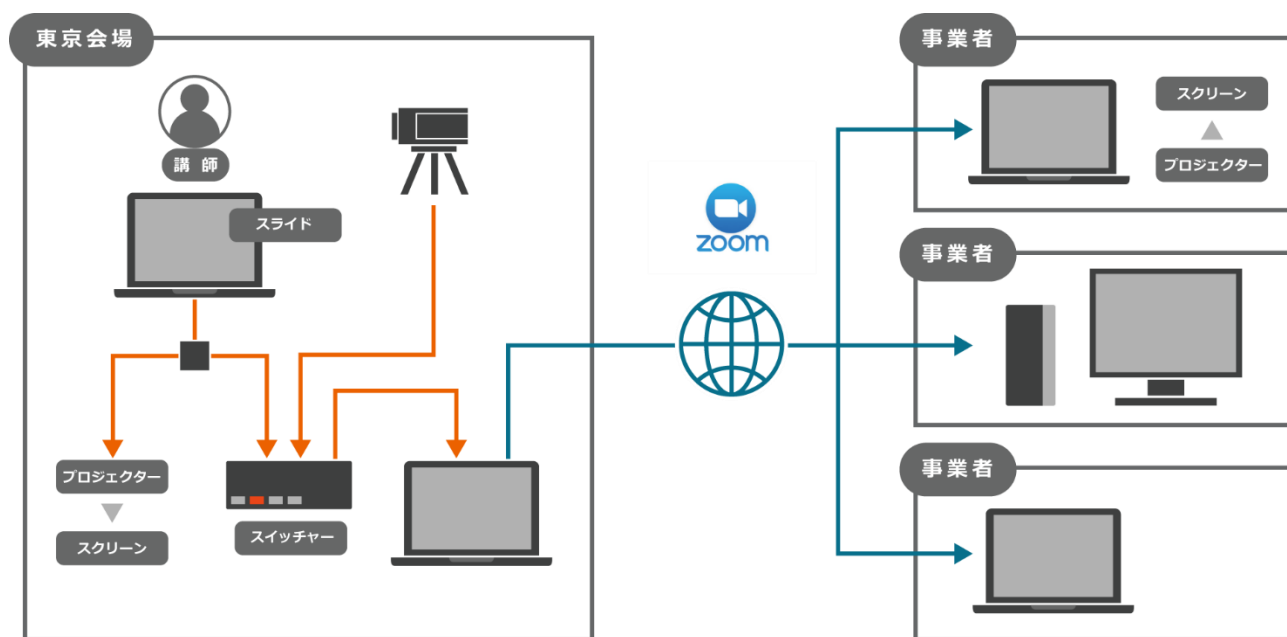
今後の展開と課題

ACSA や地方自治体が研修を実施しない地域の会員外の事業者、個人シッター等への研修をどう考えるか。



- ①ライブ配信による個人の受講を可能とする
- ②子育て支援員研修等の受講の後、本事業で試作版として作成した補足研修 DVD の視聴（YOUTUBE 等）を推奨する。

図 5-3 ライブ配信機器構成概略図(メイン会場と事業者会場 ハイブリッド方式)



第1回研修会ライブ配信

養成研修	2020年10月21日(水)- 23日(金)
現任研修	2020年11月10日(火)- 12日(木)
会場	ワイルド会議室四谷三丁目
スタイル	集合研修+オンライン研修のハイブリッド
ツール	Zoomミーティング
操作	さくら会堂システム事業部



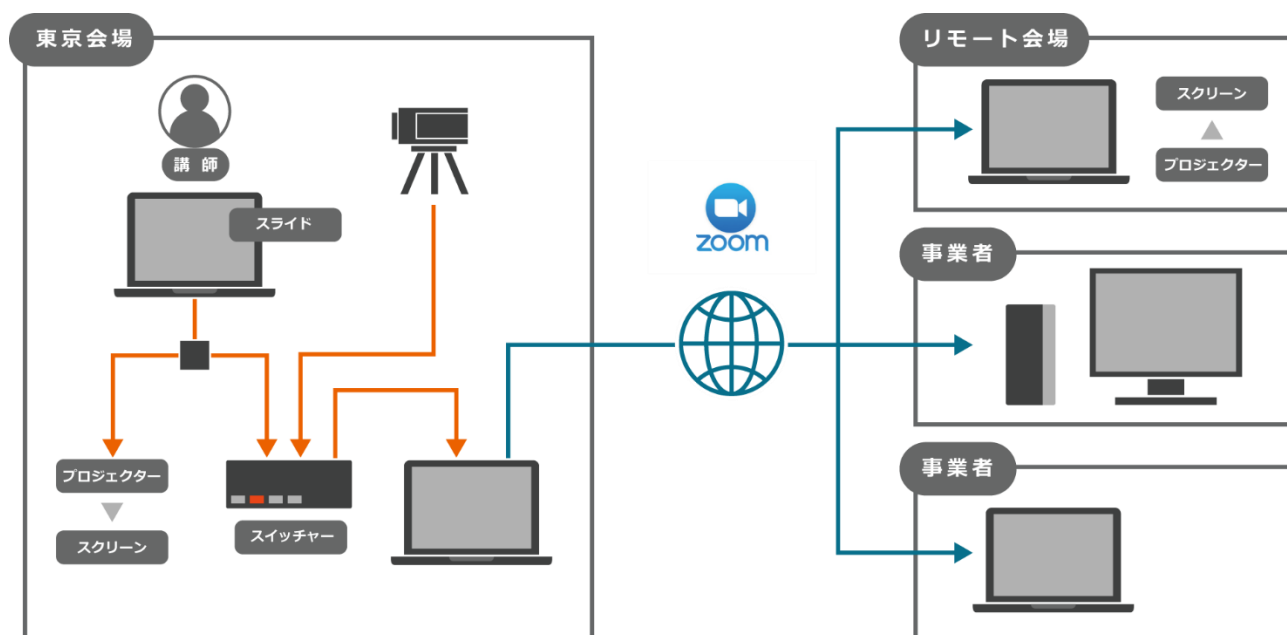
講師の講義環境

パワーポイントを操作するためのPCと、リモート会場の様子を見るためのモニターを演台脇に用意し、リモート会場の受講者にも語りかける。



図 5-4 ライブ配信機器構成概略図

(メイン会場とリモート会場事業者会場 ハイブリッド方式)

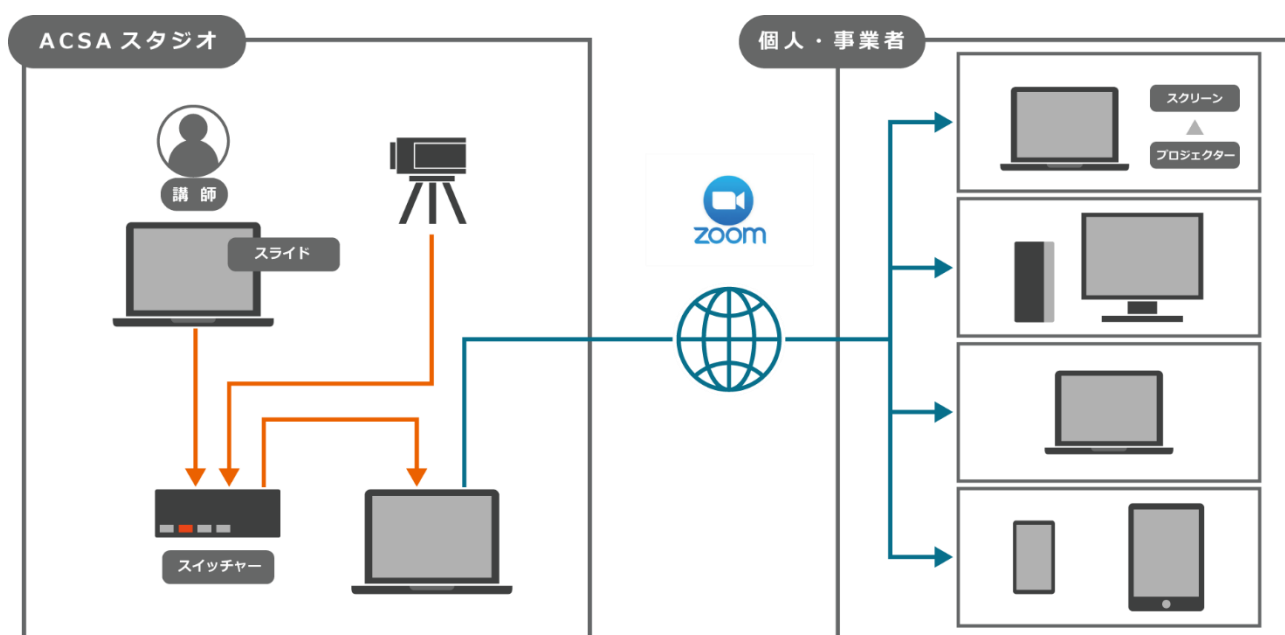


第2回研修会ライブ配信

養成研修	2020年 11月25日 (水)- 27日 (金)
現任研修	2020年 12月16日 (水)- 18日 (金)
会場	アットビジネスセンター東京駅八重洲通り
スタイル	集合研修+オンライン研修のハイブリッド
ツール	Zoomミーティング
操作	アットビジネスセンター



図 5-5 ライブ配信機器構成概略図（個人配信・事業者会場 フルオンラインスタイル）



第3回研修会ライブ配信

養成研修	2021年 2月17日(水) 22日(月) 24日(水)
現任研修	2021年 3月 5日(金) 8日(月) 9日(火)
会場	ACSA事務局配信スペース
スタイル	個人に向けてのライブ配信
ツール	Zoomミーティング+大規模ミーティング
操作	さくら会堂 システム事業部



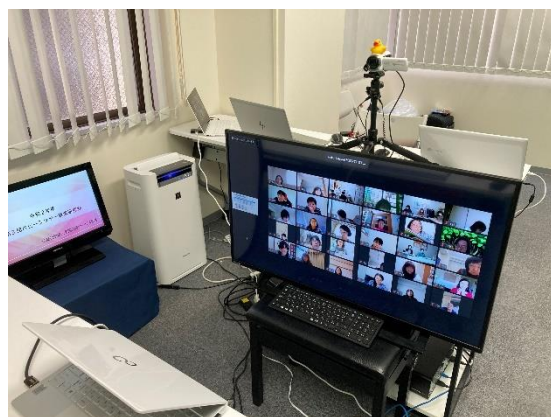


表 5-1 参加者数

回	研修種別	日程	メイン会場	受講形態	参加者数
第1回	養成研修	R2年10月21日、22日、23日	ワйм貸会議室 四谷三丁目	メイン会場	42
				事業者会場 8事業者	69
				計	111
	現任研修	R2年11月10日、11日、12日	ワйм貸会議室 四谷三丁目	メイン会場	45
				リモート会場（東京）	24
				事業者会場 5事業者	13
				計	82
第2回	養成研修	R2年11月25日、26日、27日	アットビジネスセンター東京八重洲センター	メイン会場	56
				リモート会場（東京）	29
				リモート会場（大阪）	19
				事業者会場 11事業者	38
				計	142
	現任研修	R2年12月16日、17日、18日	アットビジネスセンター東京八重洲センター	メイン会場	57
				リモート会場（東京）	29
				リモート会場（大阪）	17
				事業者会場 9事業者	31
				計	134
第3回	養成研修	R3年2月27日、22日、24日	ACSAスタジオより ライブ配信のみ	事業者会場 12事業者	35
				個人配信	218
				計	253
	現任研修	R3年3月5日、8日、9日	ACSAスタジオより ライブ配信のみ	事業者会場 11事業者	30
				個人配信	209
				計	239

2) 運営体制

①技術的サポート

ライブ配信を行うにあたり、web 会議システム ZOOM を活用し、各会場への配信を行うにあたり、技術的サポートを得られるスタッフを配置した(第 1 回、第 3 回、さくら会堂システム事業部、第 2 回アットビジネスセンター)。

技術スタッフの主な作業内容は、以下の通りであった。

- ・撮影・配信機材の設営
- ・研修開始前、配信中の音声や映像のチェック
- ・受講者の入室許可
- ・受講者のマイクをミュートする等の音声サポート
- ・講師のビデオ撮影
- ・講義内容に合わせた配信映像の切り換え
- ・パワーポイントへの講師映像の表示（ワイプ）切り換え
- ・動画再生サポート 他

②研修の実施体制 ライブ配信を実施する上で必要となった業務

i) 人的配置

配信オペレーター兼カメラマン 配信作業

配信サポートスタッフ 受講者チェック／配信モニター

ii) ライブ配信を実施する上で必要となった業務

- ・講義中の画像、音声チェック、ミーティング入室へのサポート
- ・講義開始前に、リモート会場や事業者会場と画像や音声のチェック
(演習等での発表もあるため、リモート会場側からの音声が届くように双方向のやりとりが可能となるように設定)
- ・個人配信：受講者には、ZOOM の接続の仕方や操作法等を説明した、受講案内「オンライン研修 ライブ配信受講ガイド」を配布し、研修開催の前日に午前 10 時から 16 時までの間、接続テストを行った。

また、受講ガイドに問合せ先の電話番号を記載し、研修当日の入出時のトラブルに対応した。特に、養成研修初日は接続できない受講者が多く、時間を要した。

- ・個人配信においては、受講者の入退室管理、演習時のブレイクアウトルームの管理

iii) 本人確認の手法

- ・メイン会場・リモート会場：ACSA のスタッフを配置し、受付を行った。
- ・事業者会場：事前に提出する申込書に写真を貼付してもらい、休憩時間等を活用し、ウェブカメラを通じて、ACSA のスタッフが本人確認をした。
- ・個人配信：事前に提出する申込書に写真を貼付してもらい、講義中に ACSA のスタッフが写真と照らし合わせをすることにより、本人確認を行った。

iv) 受講態度のモニター

①メイン会場・リモート会場：ACSA の職員を配置し、受講態度を観察した。

②事業者会場：

- ・会場にあるウェブカメラを受講者が写るように配置する。
- ・座席表の作成を依頼した。
- ・会場の担当者（事業者）と連絡を取り合い、必要に応じてカメラの向けを変えてもらう。
- ・メイン会場の PC を操作し、スクリーンショットを 1 科目毎に撮影し、その映像から受講状況を確認できるようにした。

③個人配信：講義中にモニターする。画面上に受講番号を入力してもらう。休憩時間等を通じて、カメラに顔が映るように調整してもらい、随時モニターできるようにしておいた。また画像を録画し、終了後に受講状況の確認をした。

3) 研修実施に関するアンケート

アンケートについては、事業者会場で立ち会った担当者（事業者）に対して、受信状況や受講者の受講態度等についてアンケートを実施した。また、受講者に対しては、各科目に集中することができたか（集中度）、わかりやすかったか（わかりやすさ）について、5～1 までの 5 段階評価（5 を最高評価とする）で選んでもらった。第 3 回では、講義で視聴した映像教材や、演習、実技訓練等についても評価を得た。これにより、視聴上のトラブルがなく、集中して受講できたかどうか、また、講義内容そのものや講義や実技、演習の指示が適切に伝わったかどうかを確認した。

i) 事業者への調査の結果

事業者が用意した会場における受信環境は表 5-2-1～5-2-5 に示す通りであった。

表 5-2-1 受講環境 パソコン

	第2養成	第2現任	第3養成	第3現任
ノートパソコン	10 90.9%	8 88.9%	8 72.7%	7 70.0%
デスクトップパソコン	1 9.1%	1 11.1%	3 27.3%	3 30.0%
その他	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%
事業者数	11	9	11	10

表 5-2-2 受講環境 ディスプレイ

	第2養成	第2現任	第3養成	第3現任
パソコンディスプレイ	3 27.3%	1 11.1%	4 36.4%	4 40.0%
外部パソコンディスプレイ	2 18.2%	2 22.2%	2 18.2%	2 20.0%
プロジェクター	5 45.5%	5 55.6%	4 36.4%	4 40.0%
その他(テレビモニター)	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%
事業者数	11	9	11	10

表 5-2-3 受講環境 カメラ

	第2養成	第2現任	第3養成	第3現任
パソコン内蔵カメラ	7 63.6%	5 55.6%	10 90.9%	7 70.0%
外部カメラ	4 36.4%	4 44.4%	2 18.2%	3 30.0%
事業者数	11	9	11	10

表 5-2-4 受講環境 スピーカー

	第2養成	第2現任	第3養成	第3現任
パソコン内蔵スピーカー	4 36.4%	2 22.2%	3 27.3%	3 30.0%
外部スピーカー	7 63.6%	7 77.8%	7 63.6%	6 60.0%
イヤフォン(ヘッドフォン)	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	1 10.0%
その他(大型テレビモニター内蔵)	1 9.1%	0 0.0%	2 18.2%	1 10.0%
事業者数	11	9	11	10

表 5-2-5 受講環境 マイク

	第2養成	第2現任	第3養成	第3現任
パソコン内蔵マイク	7 63.6%	5 55.6%	7 63.6%	7 70.0%
カメラ内蔵マイク	4 36.4%	3 33.3%	1 9.1%	1 10.0%
イヤフォン内蔵マイク	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	1 10.0%
外部マイク	1 9.1%	1 11.1%	2 18.2%	1 10.0%
事業者数	11	9	11	10

事業者が用意する会場にライブ配信した時の状況について、事業者の運営担当者に回答してもらった結果、準備段階で大変だったこと（表 5-3）は、受講者からの申込受付や ACSA への申込手

続きが多くあげられた。また、回によっては会場確保や必要機材の確保が困難だった様子もうかがえる。これらは準備期間が十分にあれば、解消できることと考えられる。

表 5-3 準備段階で大変だったこと（複数回答）

	第1養成	第1現任	第2養成	第2現任	第3養成	第3現任
受講者の申込受付	5 62.5%	0 0.0%	2 18.2%	0 0.0%	6 54.5%	4 40.0%
ACSAへの受講申込手続き	4 50.0%	2 40.0%	4 36.4%	1 11.1%	5 45.5%	5 50.0%
座席表作成等の準備	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%
会場確保	3 37.5%	2 40.0%	6 54.5%	3 33.3%	1 9.1%	1 10.0%
必要機材の確保	2 25.0%	1 20.0%	6 54.5%	1 11.1%	1 9.1%	2 20.0%
研修の運営管理者の確保	2 25.0%	1 20.0%	3 27.3%	3 33.3%	1 9.1%	1 10.0%
事業者数	8	5	11	9	11	10

また、ライブ配信を受信するためのPC等機器の設定（表 5-4）については、第1回養成研修、現任研修で問題があったとする回答が他の回よりも多いが、第3回では皆無になっていた。必ずしも同じ事業者が参加しているとは限らないが、回を重ねる毎に受講者側の問題は少なくなっている。

例えば、演習の発表時の音声が出なかったり、無線で不安定だったことが次の回には解消できていた様子が記述からうかがえた。

表 5-4 ライブ配信を受信するためのPC等の設定

	第1養成	第1現任	第2養成	第2現任	第3養成	第3現任
問題なかった	6 75.0%	4 80.0%	10 90.9%	8 88.9%	11 100.0%	10 100.0%
問題があった	2 25.0%	1 20.0%	1 9.1%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%
事業者数	8	5	11	9	11	10

受信時の映像の状況（表 5-5）は回を重ねるごとに安定してきているが、画像が見にくい時もあり、特に第2回養成では画像が停止するトラブルが起こっている。ライブ配信の状態の指摘と共に、パワーポイントの文字サイズの見にくさへの指摘もあった。特に、本年度については集合会場ではソーシャルディスタンスを保つことが求められ、スクリーンやPCの画面からかなり離れたところに座っている受講者もいたことが理由であるが、配信に備えたパワーポイント資料の文字サイズ等のフォーマットを揃える必要がある。

表 5-5 受信時の映像の状況（複数回答）

	第1養成	第1現任	第2養成	第2現任	第3養成	第3現任
特に問題なく見ることができた	5 62.5%	3 60.0%	4 36.4%	8 88.9%	9 81.8%	8 80.0%
画像が停止することがあった	1 12.5%	1 20.0%	4 36.4%	1 11.1%	1 9.1%	1 10.0%
画像が見にくいときがあった	3 37.5%	1 20.0%	2 18.2%	0 0.0%	1 9.1%	1 10.0%
その他	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
事業者数	8	5	11	9	11	10

音声について（表 5-6）は特に問題がなく聞くことができたのは約半数であり、音声が聞こえにくいときや途切れることがあったが、第3回まで続いてあげられている。映像の乱れや特に音声が聞こえないことは、受講意欲の低下につながるため、改善が急務である。自由記述には、講師による声量の違いへの指摘や、映像が替わったとき（動画から PPT 資料へ等）に音声が途切れることへの指摘もあった。特に第2回養成研修では、映像、音声共につながらない時間帯があり、その時の映像については、昼休み時間中等に流すことにより、受講者が視聴できるようにした。

表 5-6 受信時の音声の状況（複数回答）

	第1養成	第1現任	第2養成	第2現任	第3養成	第3現任
特に問題なく聞くことができた	4 50.0%	2 40.0%	2 18.2%	4 44.4%	5 45.5%	4 40.0%
音声が途切れることがあった	2 25.0%	0 0.0%	7 63.6%	0 0.0%	2 18.2%	2 20.0%
音声が聞こえにくいときがあった	4 50.0%	2 40.0%	7 63.6%	4 44.4%	6 54.5%	5 50.0%
事業者数	8	5	11	9	11	10

受講者の様子をメイン会場の運営管理者からモニターするために、事業者会場の web カメラで会場（受講者）を映すように依頼した。その結果（表 5-7）ではおおむね問題なく設置できていたが、一部全体を映すことができない会場があった。参加人数が多いときに起こりやすく、その場合は、カメラの角度を時々動かすなどの対応を依頼した。

その他、ライブ配信を受信時のトラブルについて尋ねたが、事前の接続テスト（映像、音声、事業者会場のマイクテスト）等があれば良かったという意見や、講義受信時の画面設定（スピーカービュー、ギャラリービュー等）の設定が旨く行えなかったという意見があげられていた。

また、受講中の受講者の様子については、集中して受講していたとの意見が多くあげられていた。その他には、講師がどこを話しているかわからなくなったり、パワーポイント資料の見にくさへの指摘などがあげられており、パワーポイントにテキストのページを表示することなどの指摘があった。

表 5-7 会場（受講者）を映写した画面の設置（複数回答）

	第1養成	第1現任	第2養成	第2現任	第3養成	第3現任
特に問題なく設置できた	6 75.0%	3 60.0%	9 81.8%	9 100.0%	10 90.9%	9 90.0%
適切な置き場所がなかった	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
受講者全体を写すことができなかった	1 12.5%	1 20.0%	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	1 10.0%
その他	1 12.5%	1 20.0%	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%
事業者数	8	5	11	9	11	10

当日の受付、出欠確認等については、本会場と同様に受講した科目毎に受講済み印を押す作業を事業者会場に依頼したが、特段の問題はなかった。

次に、演習や実習などの指示が明確に事業者会場の受講者に正確に伝わり、演習等がスムーズに行われたのかを確認した結果（表 5-8-1～5-9-4）を見ると、指示内容は受講者に伝わっているが、スムーズに行われたかどうかについては、スムーズに伝わらなかったとの回答も一定数見られた。受講者が自分たちで判断できないときに、会場にいる事業者の運営担当者に質問をしたかどうか（表 5-10）については、おおむね質問しなくてもよかったようであるが、質問されたとの回答も見られた。そのため、演習、実技等の進め方については、あらかじめ事業者会場の運営担当者に大まかな進行の流れを伝えておくことにより、準備ができるとの指摘もあった。また、講師の手元をわかりやすく映写してほしい等の意見もあった。

表 5-8-1 演習の指示内容は映像を通じて、受講者に伝わっていたか

	第1養成	第1現任	第2養成	第2現任	第3養成	第3現任
特に問題なく伝わっていた	8 100.0%	5 100.0%	10 90.9%	9 100.0%	11 100.0%	10 100.0%
何をしたら良いか伝わっていなかった	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
事業者数	8	5	11	9	11	10

表 5-8-2 演習時のグループ分けや移動

	第1養成	第1現任	第2養成	第2現任	第3養成	第3現任
特に問題なく伝わっていた	7 87.5%	5 100.0%	10 90.9%	9 100.0%	8 72.7%	9 90.0%
スムーズに進められなかった	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 27.3%	0 0.0%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%
事業者数	8	5	11	9	11	10

表 5-9-1 実技の指示内容は映像を通じて伝わっていたか 表 5-9-2 実技の進行情会

	第1養成	第2養成	第3養成
特に問題なく伝わっていた	8 100.0%	9 81.8%	11 100.0%
何をしたら良いか伝わってなかった	0 0.0%	2 18.2%	0 0.0%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%
事業者数	8	11	11

	第1養成	第2養成	第3養成
特に問題なく伝わっていた	6 75.0%	9 81.8%	11 100.0%
スムーズに進められなかった	2 25.0%	2 18.2%	0 0.0%
事業者数	8	11	11

表 5-9-3 心肺蘇生の指示内容は伝わっていたか

	第2現任	第3現任
特に問題なく伝わっていた	8 88.9%	10 100.0%
何をしたら良いか伝わってなかった	1 11.1%	0 0.0%
無回答	0 0.0%	0 0.0%
事業者数	9	10

表 5-9-4 心肺蘇生法実技の進行情会

	第2現任	第3現任
特に問題なく伝わっていた	8 88.9%	10 100.0%
スムーズに進められなかった	1 11.1%	0 0.0%
事業者数	9	10

表 5-10 演習や実技に関して、会場にいる運営担当者に質問等があったか。

	第1養成	第1現任	第2養成	第2現任	第3養成	第3現任
特に質問はなかった	8 100.0%	5 100.0%	10 90.9%	5 55.6%	9 81.8%	9 90.0%
質問があった	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 33.3%	1 9.1%	1 10.0%
特に問題なく伝わっていた	4 50.0%	0 0.0%	1 9.1%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%
何をしたら良いか伝わってなかった	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%
事業者数	8	5	11	9	11	10

会員事業者向けのアンケートの結果からは、ライブ配信による研修はとりわけ東京以外の地方の会員事業者に所属する訪問型保育者が研修を受講する機会につながった。また、都内の事業者会場も設けられていたが、コロナ禍の状況のなか、中央の会場まで出かけて行き、大きな集団の中で研修を受けるリスクが軽減されるメリットが指摘されていた。また、事業者にとっても受講者にとっても相互に顔を合わせる機会となり、一緒に講義を受講することにより、結束力が固まるということもメリットと捉えることができる。

ii) 研修受講者へのアンケートの結果

第1回～第3回養成研修（受講総数 506 名）並びに第1回～第3回現任研修（受講総数 455 名）の受講者に対して行ったアンケートの結果を以下に示す。参加者の属性は表 5-11、5-12 に示す通りである。現在の働き方としては、ベビーシッター事業者に所属またはベビーシッター事業者からの業務委託を受けて訪問型保育の仕事に従事している方が、88.1%を占めている。

また、経験年数は、3 年未満が 49.1%であり、約半数は経験 3 年以上の方であった。

なお、各回で養成研修、現任研修に同じ受講者が参加している割合は、第1回は 53.2%、第2回 76.6%、第3回 81.0%であった。

表 5-11 現在の働き方

		ベビー シッター 事業者に 所属	ベビー シッター 事業者か らの業務 委託	ファミリー サポート センター 会員とし て従事	シルバー 人材セン ター等地 域の団体 に登録	個人で 依頼を 受ける	マッチン グサイ トに登録	保育施設 で従事	今後は未 定	その他	無回答	総数
第 1 回	メイン会場	21	7	0	0	0	2	3	3	1	2	39
		53.8	17.9	0.0	0.0	0.0	5.1	7.7	7.7	2.6	5.1	100.0
	事業者会場	32	13	0	0	1	2	3	1	1	4	57
		56.1	22.8	0.0	0.0	1.8	3.5	5.3	1.8	1.8	7.0	100.0
第 2 回	メイン会場	30	12	1	0	0	1	2	1	1	3	51
		58.8	23.5	2.0	0.0	0.0	2.0	3.9	2.0	2.0	5.9	100.0
	リモート会場	21	14	0	0	0	1	1	2	0	4	43
		48.8	32.6	0.0	0.0	0.0	2.3	2.3	4.7	0.0	9.3	100.0
	事業者会場	28	3	0	0	0	0	1	2	0	1	35
		80.0	8.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	5.7	0.0	2.9	100.0
第 3 回	事業者会場	28	5	0	0	0	0	0	0	1	1	35
		80.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	2.9	100.0
	個人配信	100	69	0	0	1	4	3	2	1	37	217
		45.5	32.6	0.0	0.0	0.9	1.8	1.3	0.9	0.4	16.5	100.0
全体		260	123	1	0	2	10	13	11	5	52	477
		45.5	32.6	0.0	0.0	0.9	1.8	1.3	0.9	0.4	16.5	100.0

表 5-12 経験年数

		なし	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 7年未満	7年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上	無回答	総数
第1回	メイン会場	5	8	5	2	9	4	3	1	2	39
		12.8	20.5	12.8	5.1	23.1	10.3	7.7	2.6	5.1	100.0
	事業者会場	17	11	7	6	2	4	2	4	4	57
		29.8	19.3	12.3	10.5	3.5	7.0	3.5	7.0	7.0	100.0
第2回	メイン会場	4	9	7	10	5	4	5	3	4	51
		7.8	17.6	13.7	19.6	9.8	7.8	9.8	5.9	7.8	100.0
	リモート会場	6	15	13	3	0	0	2	0	4	43
		14.0	34.9	30.2	7.0	0.0	0.0	4.7	0.0	9.3	100.0
第3回	事業者会場	6	5	6	2	0	4	4	7	1	35
		17.1	14.3	17.1	5.7	0.0	11.4	11.4	20.0	2.9	100.0
	個人配信	2	3	6	3	0	8	6	6	1	57
		3.5	5.3	10.5	5.3	0.0	14.0	10.5	10.5	1.8	100.0
全体	事業者会場	18	36	53	27	15	11	12	8	37	217
		8.3	16.6	24.4	12.4	6.9	5.1	5.5	3.7	17.1	100.0
	個人配信	58	87	97	53	31	35	34	29	53	499
		11.6	17.4	19.4	10.6	6.2	7.0	6.8	5.8	10.6	100.0

また、個人配信（第3回養成）の受講場所並びに受信方法は表5-13、5-14の通りであり、自宅でPCで受信した受講者が多かった。

表5-13 受講方法

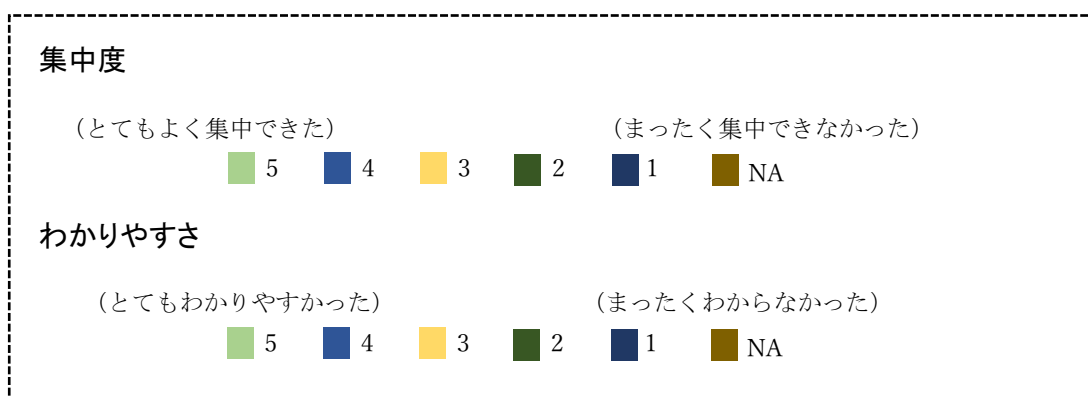
事業者が用意した会場	PC	タブレット	スマホ	無回答	総数
2	97	43	27	48	217
0.9	44.7	19.8	12.4	22.1	100.0

表5-14 受講場所

事業者が用意した会場	自宅	その他	無回答	総数
5	153	3	56	217
2.3	70.5	1.4	25.8	100.0

次に、養成講座、現任研修それぞれの科目（第3回については、演習、実技、視聴した映像教材等）について、受講者に集中することができたか（集中度）と、わかりやすかったか（わかりやすさ）について尋ねた結果を次ページ以降に示す。

質問は、5段階評価で聞いており、下記のように示している。



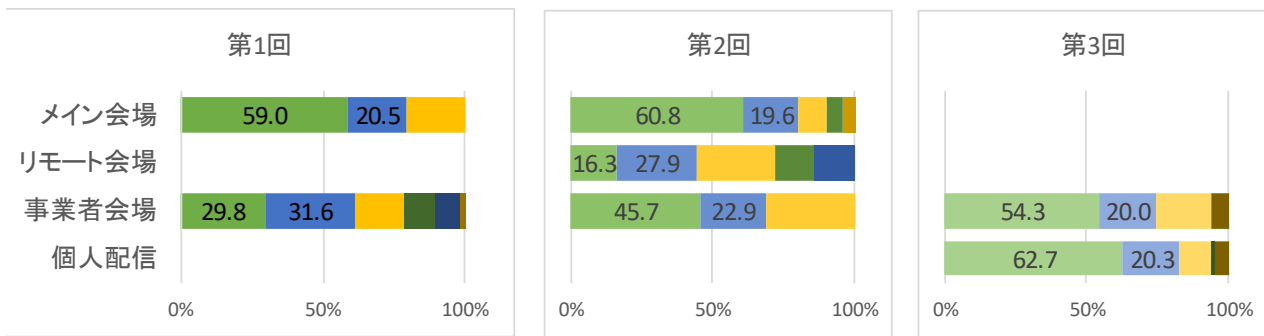
<比較のポイント>

各科目での比較のポイントは、まずは従来から行われている集合研修で、講師が生講義をするスタイルのメイン会場との違い（差）である。例えば、次ページに示す、オリエンテーションについては、研修初日の一番最初に置かれる科目であるが、接続の不安定さがアンケート結果にも反映されている。集中度は、画像の見えやすさや音声の聞こえやすさに影響を受けると考えられ、ひいてはわかりやすさにも影響を及ぼすと考えられる。また、その下の科目「一般型家庭訪問保育の業務の流れ」では、第2回に顕著に表れているが、リモート会場への接続にトラブルがあったことから、アンケート結果に差が表れている。

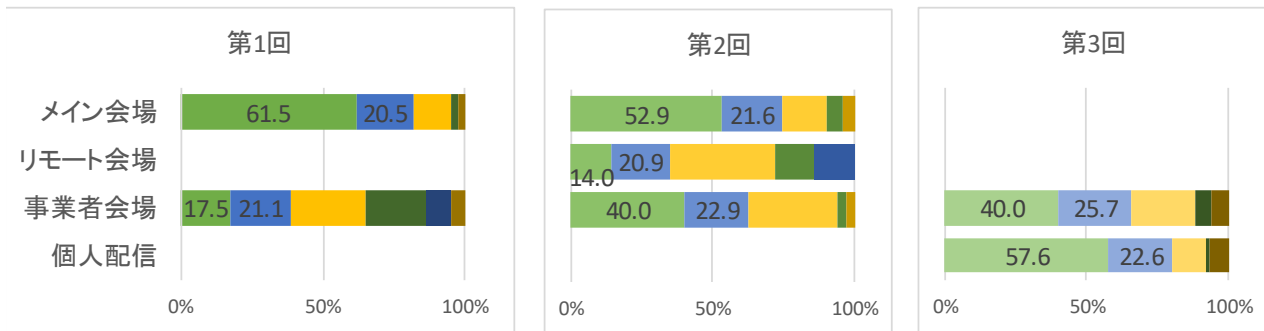
この結果は最も良い評価の5だけで比較をするのではなく、5、4の合計あるいは3まで含めて見た場合に会場別の差は少なく、科目によっては、メイン会場よりもリモート会場や個人配信の方が集中度やわかりやすさが高い割合の科目もある。とりわけ第3回については、講師がメイン会場で講義をしている様子を配信したのではなく、スタジオから受講者が映っているモニターに向かって講義をしていることから、より自分に向けて話しているように受け取りができた、資料や講師の手元が見やすかったという違いがあったと考えられる。

養成研修1

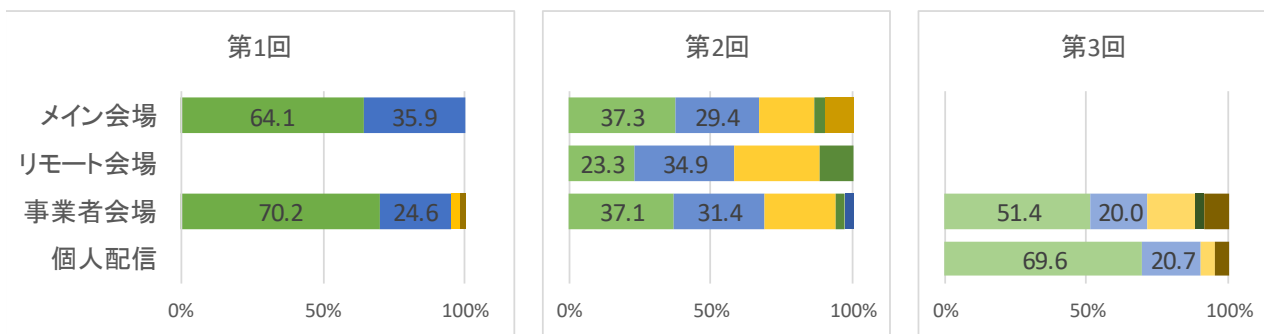
科目:オリエンテーション－家庭訪問保育の概要 集中度



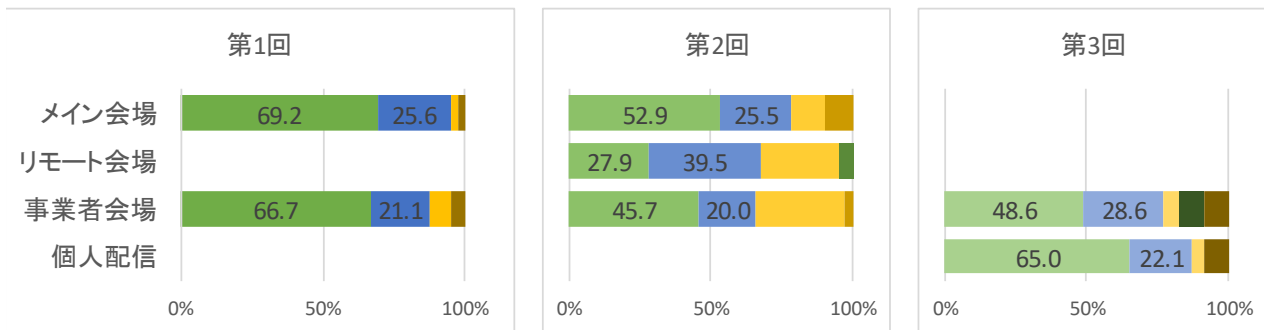
科目:オリエンテーション－家庭訪問保育の概要 わかりやすさ



科目:一般型家庭訪問保育の業務の流れ 集中度



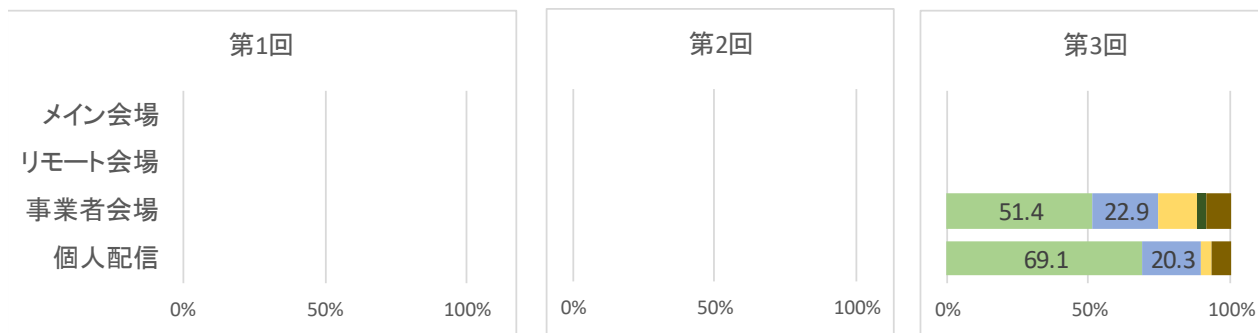
科目:一般型家庭訪問保育の業務の流れ わかりやすさ



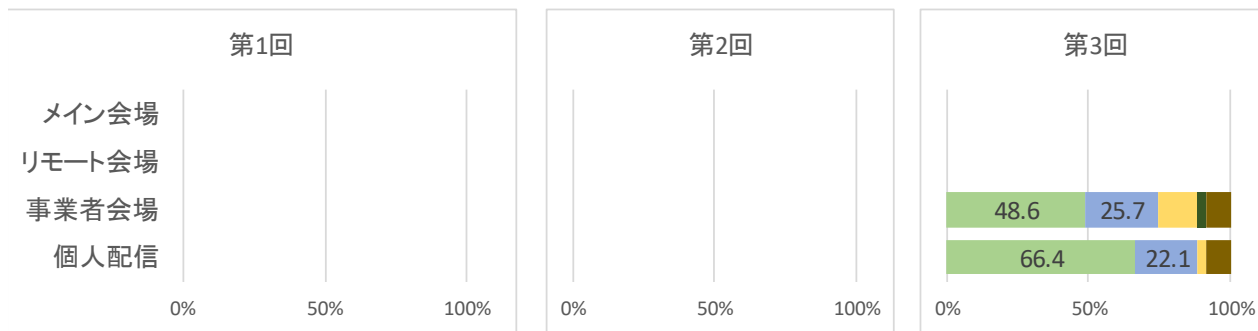
メイン会場 … 第1回 n=39 第2回 n=51 リモート会場 … 第2回 n=43
 事業者会場 … 第1回 n=57 第2回 n=35 第3回 n=35 個人配信 … 第3回 n=217

養成研修 2

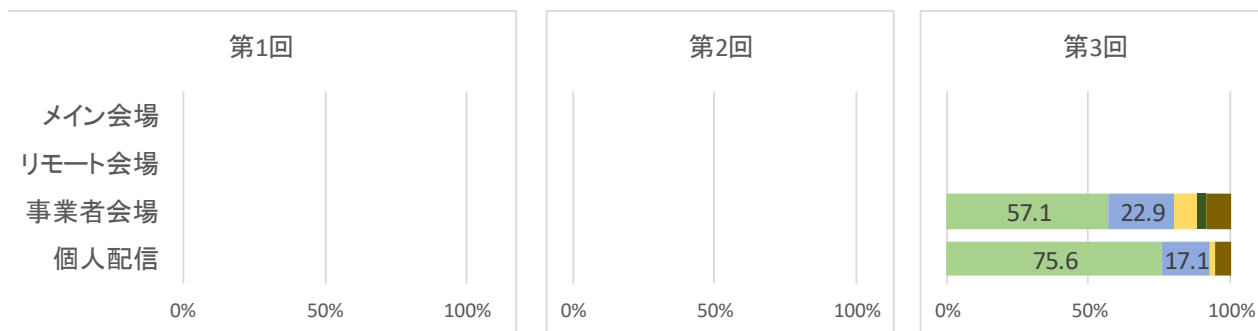
科目：一般型家庭訪問保育の業務の流れ 映像教材-利用実態 集中度



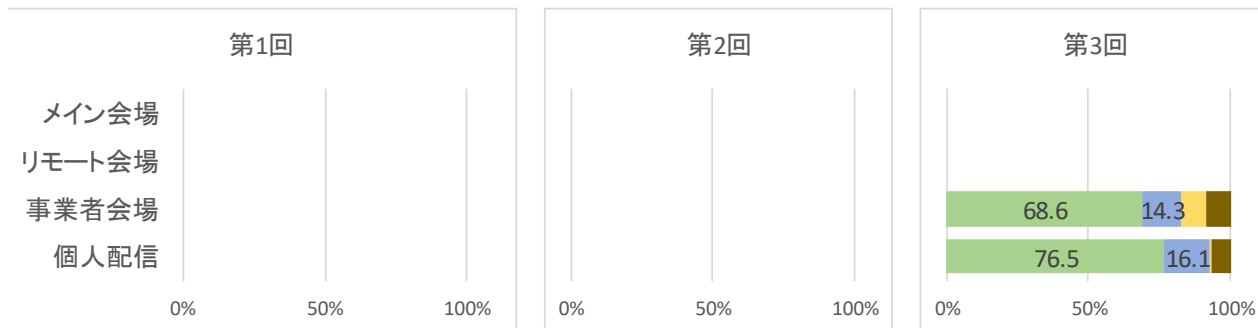
科目：一般型家庭訪問保育の業務の流れ 映像教材-利用実態 わかりやすさ



科目：一般型家庭訪問保育の業務の流れ 映像教材-家庭訪問保育 ベビーシッター 集中度



科目：一般型家庭訪問保育の業務の流れ 映像教材-家庭訪問保育 ベビーシッター わかりやすさ

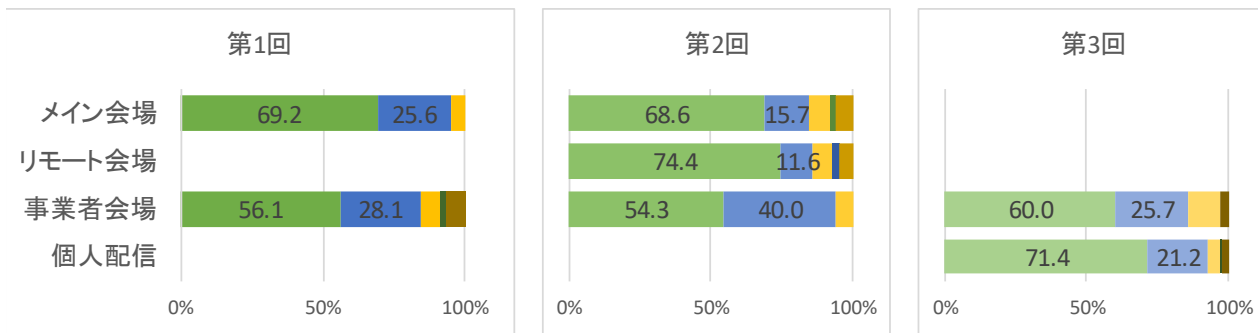


(とてもよく集中できた) 5 4 3 2 (まったく集中できなかった) 1 NA

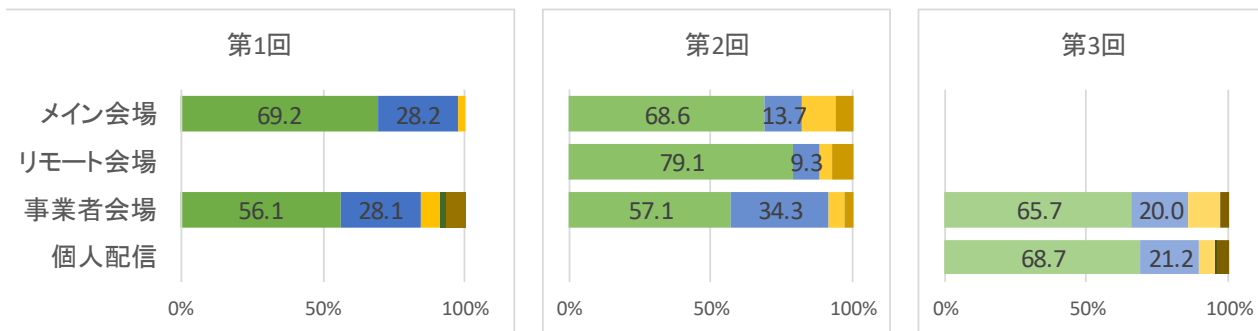
(とてもわかりやすかった) (まったくわからなかった)

養成研修 3

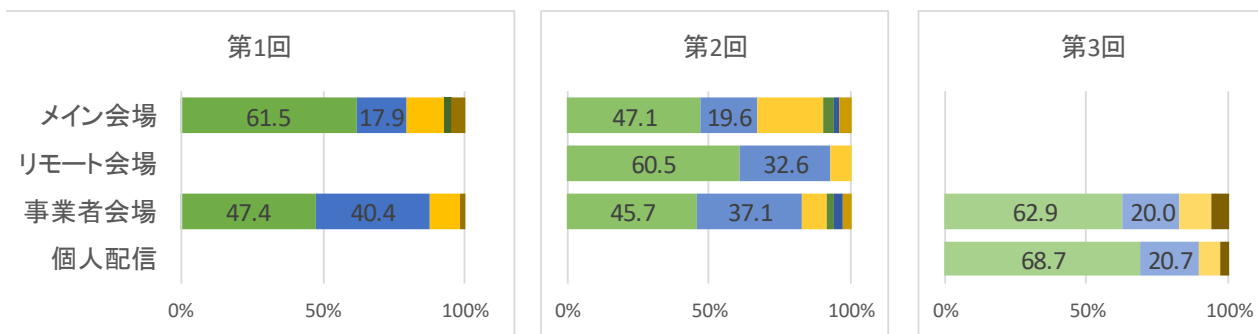
科目: 保育マインド－家庭訪問保育者の心得 集中度



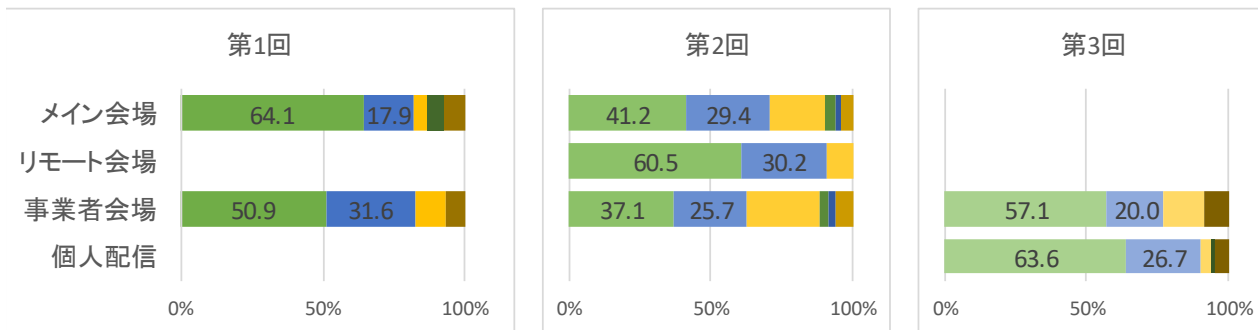
科目: 保育マインド－家庭訪問保育者の心得 わかりやすさ



科目: 乳幼児の生活と遊び 集中度



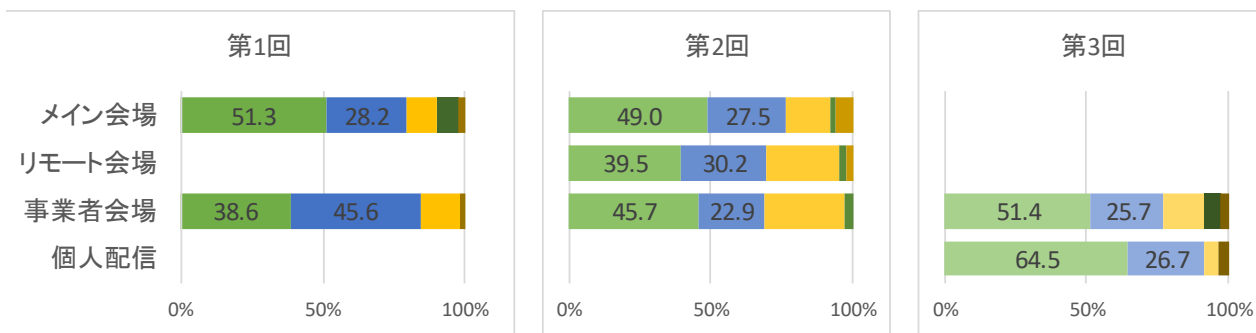
科目: 乳幼児の生活と遊び わかりやすさ



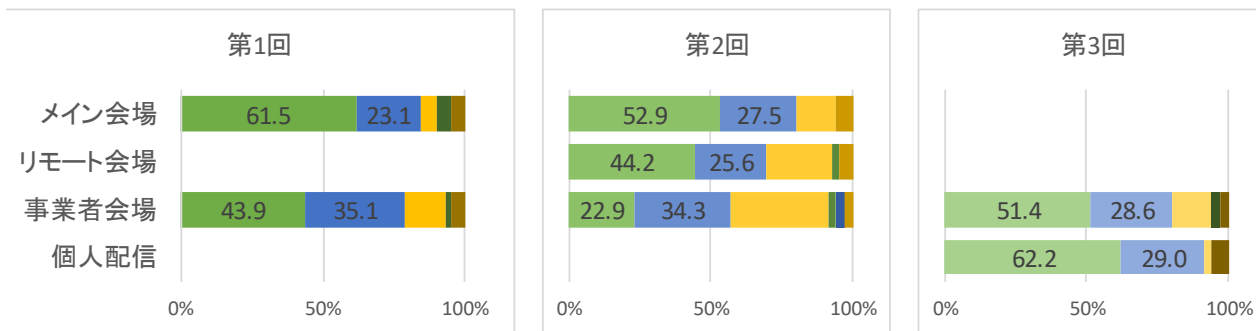
メイン会場 … 第1回 n=39 第2回 n=51 リモート会場 … 第2回 n=43
 事業者会場 … 第1回 n=57 第2回 n=35 第3回 n=35 個人配信 … 第3回 n=217

養成研修 4

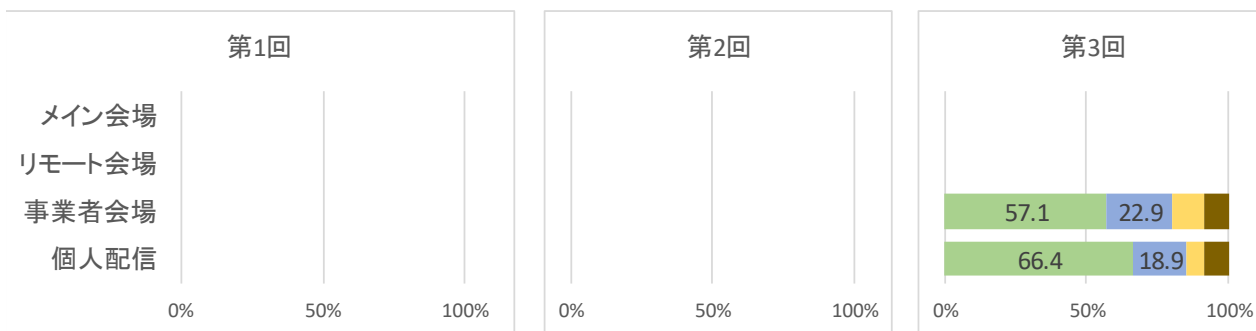
科目:乳幼児の発達 I - 乳幼児の発達と心理 集中度



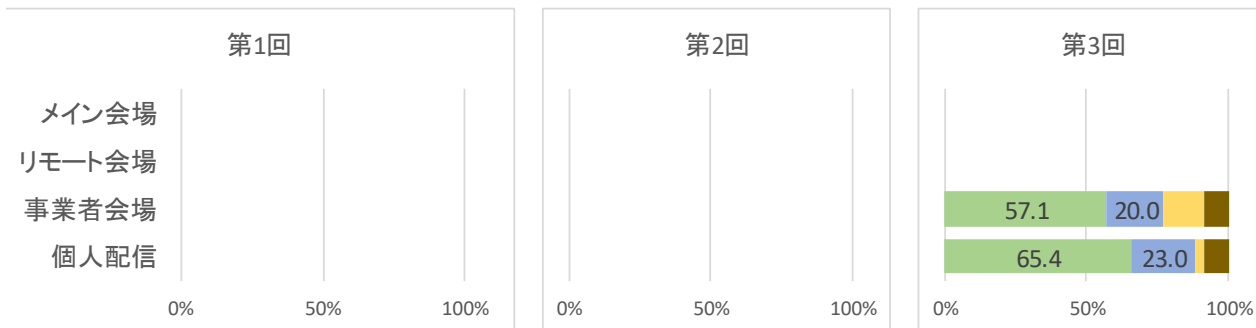
科目:乳幼児の発達 I - 乳幼児の発達と心理 わかりやすさ



科目:乳幼児の発達 I - 映像(乳児の発達) 集中度



科目:乳幼児の発達 I - 映像(乳児の発達) わかりやすさ

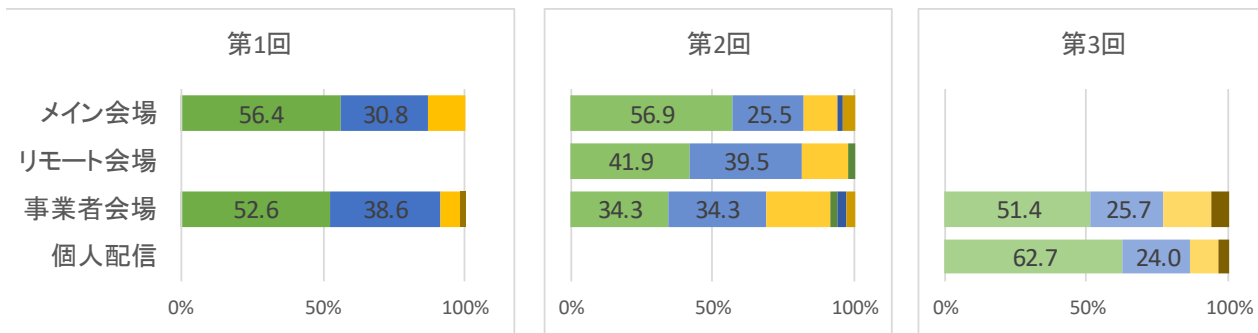


(とてもよく集中できた) 5 4 3 2 1 NA (まったく集中できなかった)

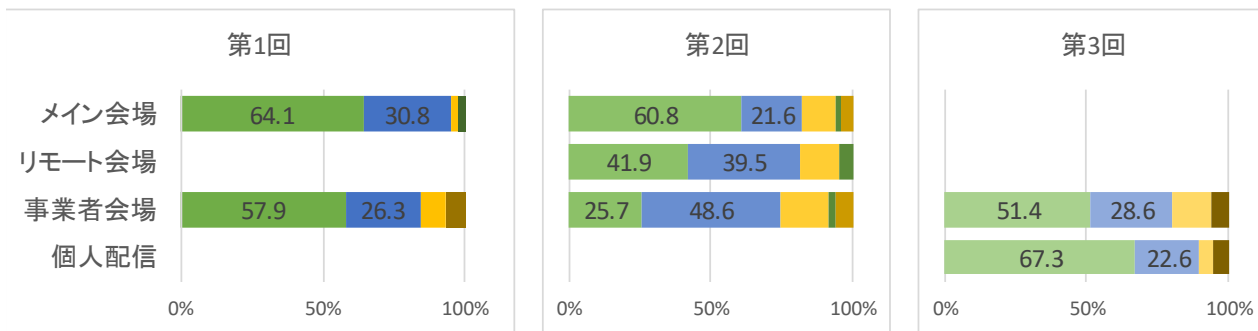
(とてもわかりやすかった) (まったくわからなかった)

養成研修 5

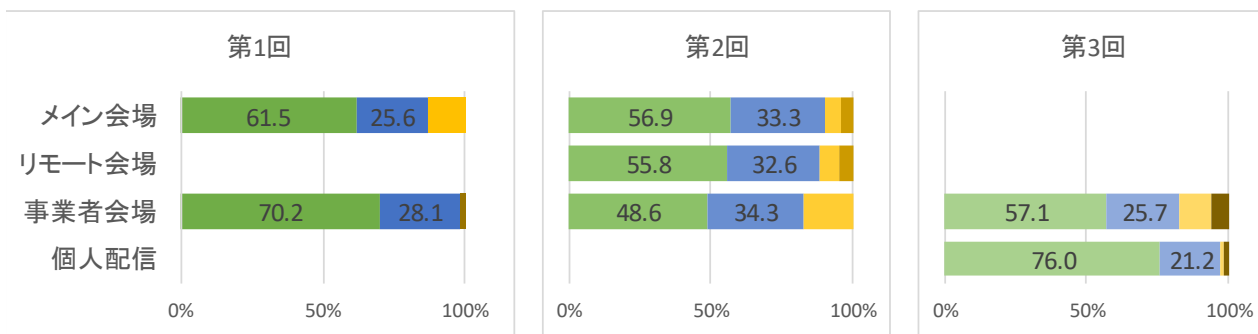
科目:小児保健Ⅰ－子どもの健康管理Ⅰ 集中度



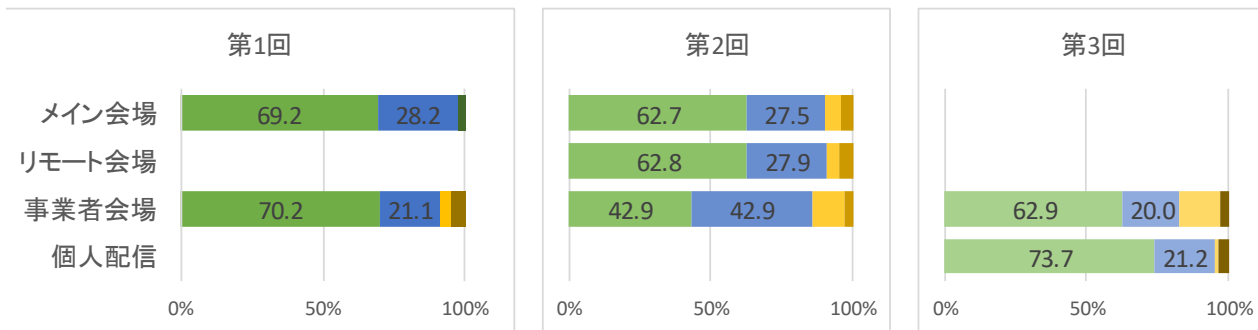
科目:小児保健Ⅰ－子どもの健康管理Ⅰ わかりやすさ



科目:事故安全－安全の確保とリスクマネジメント 集中度



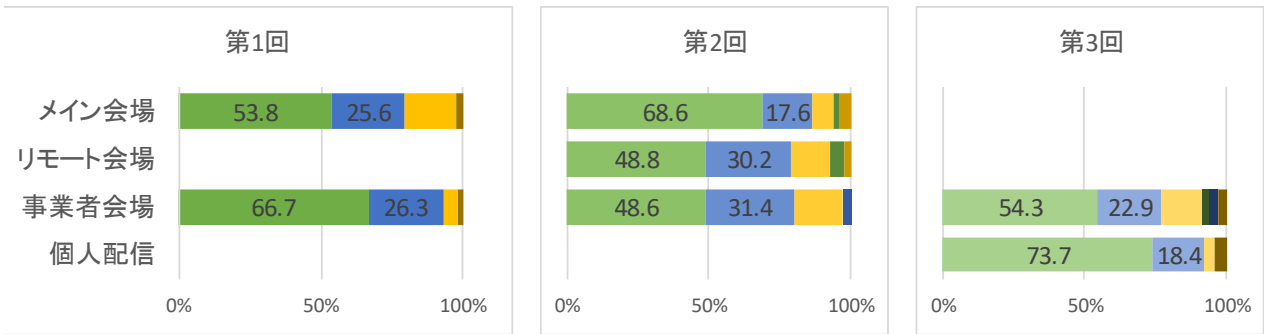
科目:事故安全－安全の確保とリスクマネジメント わかりやすさ



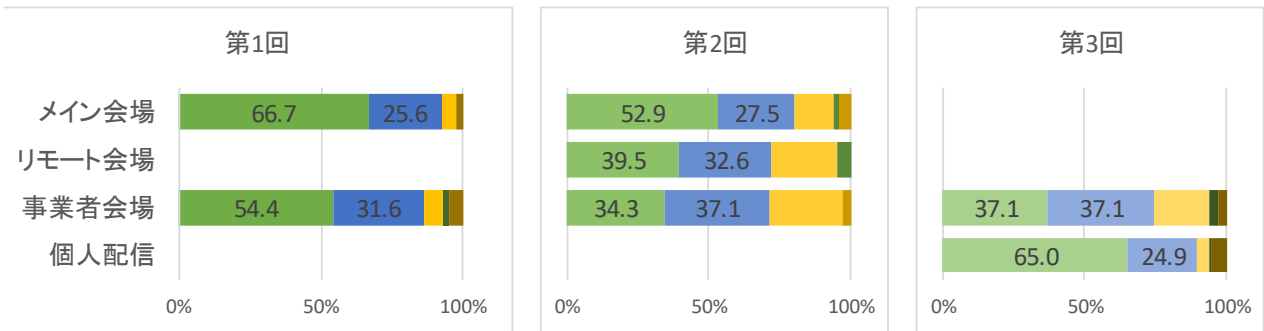
メイン会場 … 第1回 n=39 第2回 n=51 リモート会場 … 第2回 n=43
 事業者会場 … 第1回 n=57 第2回 n=35 第3回 n=35 個人配信 … 第3回 n=217

養成研修 6

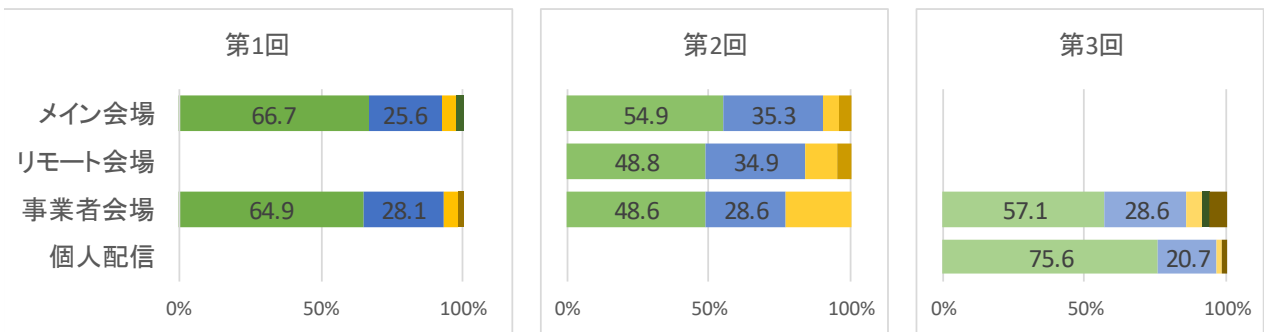
科目:子ども虐待 集中度



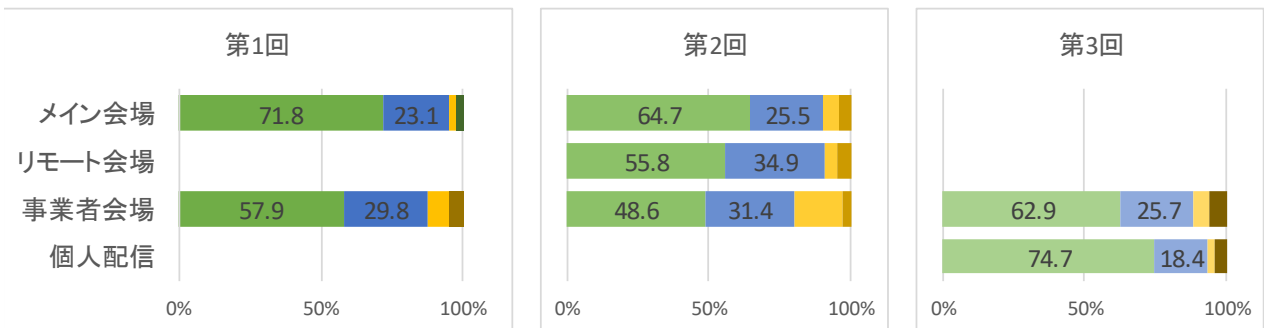
科目:子ども虐待 わかりやすさ



科目:さまざまな家庭訪問保育 集中度



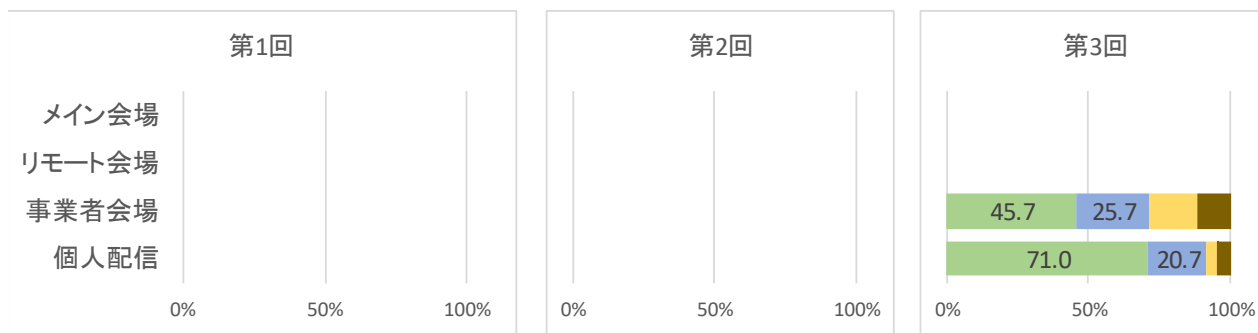
科目:さまざまな家庭訪問保育 わかりやすさ



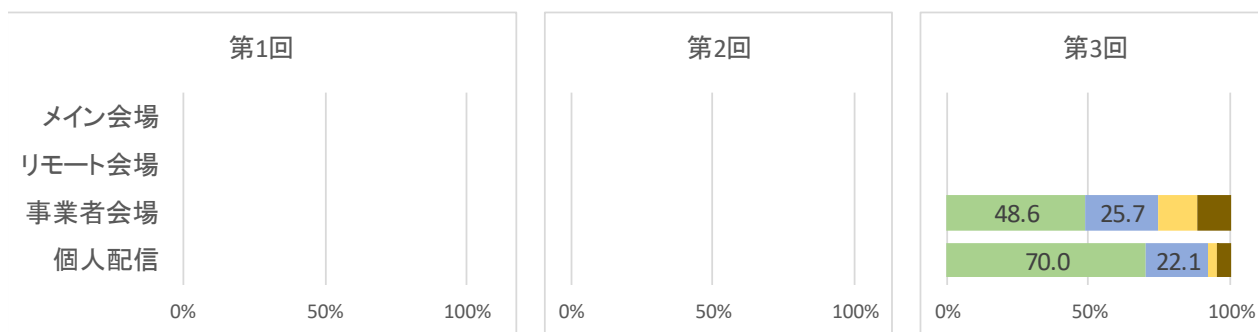
(とてもよく集中できた) 5 4 3 2 (まったく集中できなかった) 1 NA
 (とてもわかりやすかった) (まったくわからなかった)

養成研修 7

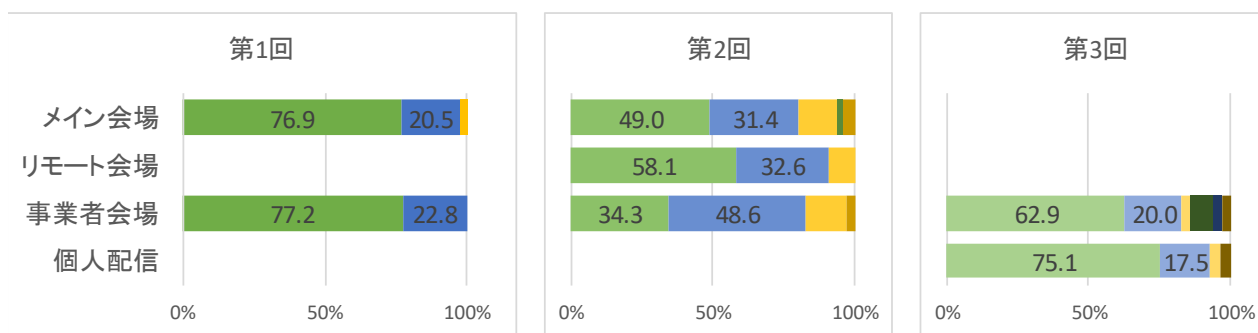
科目:さまざまな家庭訪問保育 映像教材－障害児保育 集中度



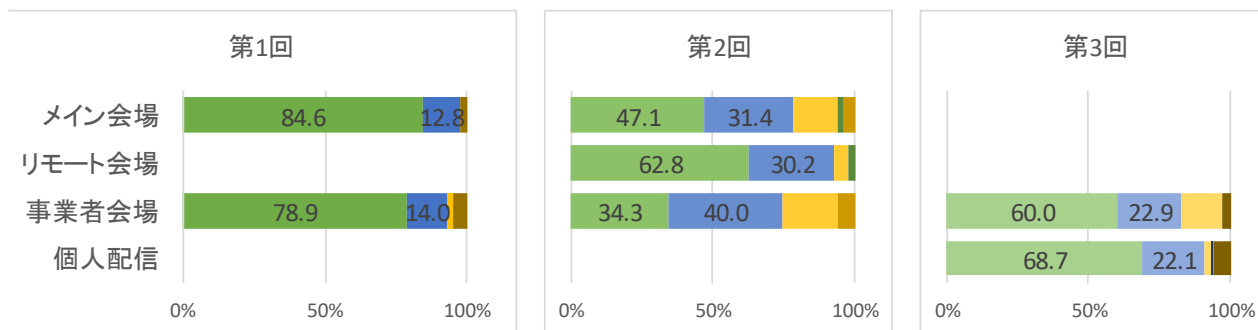
科目:さまざまな家庭訪問保育 映像教材－障害児保育 わかりやすさ



科目:保育技術 I－3歳未満のお世話 集中度



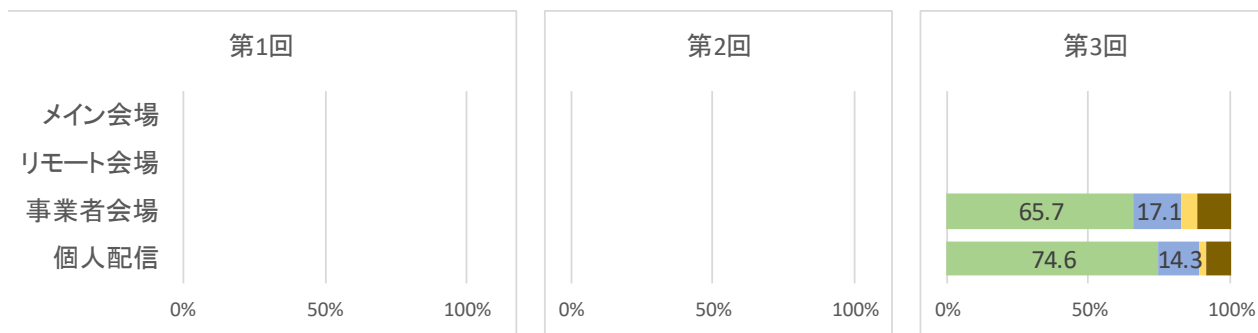
科目:保育技術 I－3歳未満のお世話 わかりやすさ



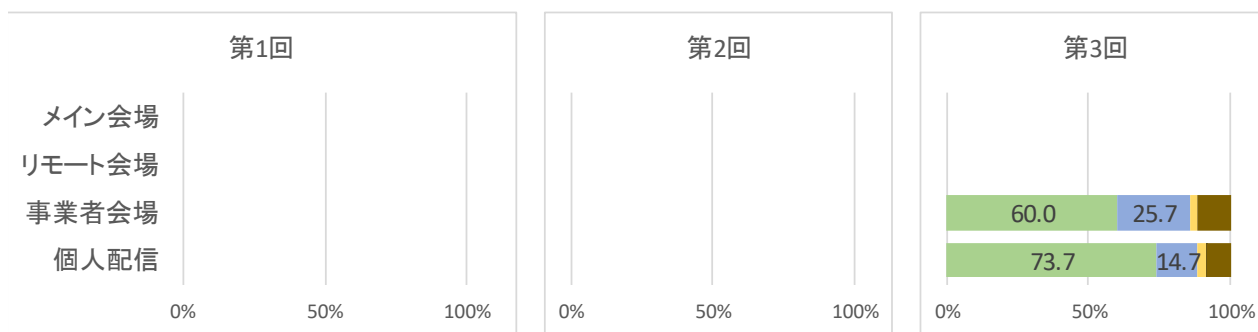
メイン会場 … 第1回 n=39 第2回 n=51 リモート会場 … 第2回 n=43
 事業者会場 … 第1回 n=57 第2回 n=35 第3回 n=35 個人配信 … 第3回 n=217

養成研修 8

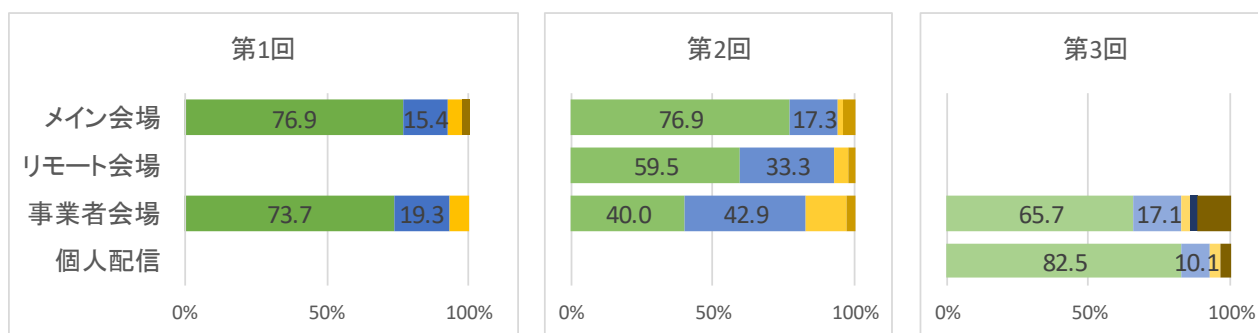
科目: 保育技術Ⅰ－3歳未満のお世話 映像教材－沐浴 集中度



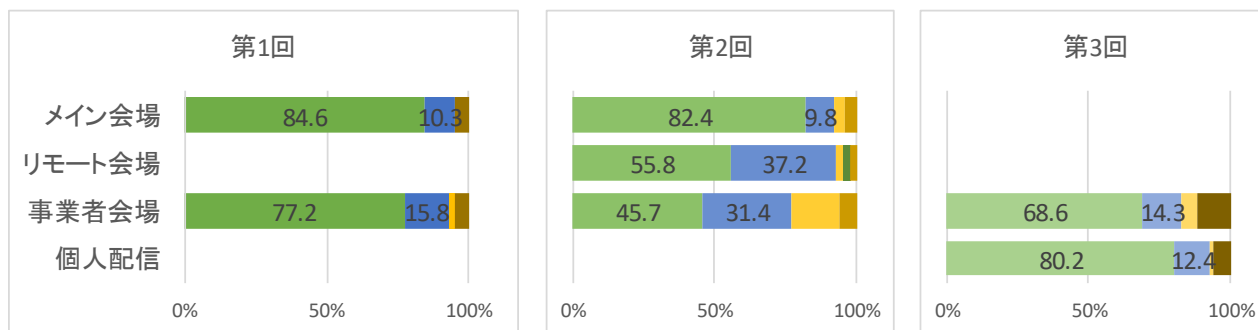
科目: 保育技術Ⅰ－3歳未満のお世話 映像教材－沐浴 わかりやすさ



科目: 保育技術Ⅱ－3歳未満の遊び 集中度



科目: 保育技術Ⅱ－3歳未満の遊び わかりやすさ

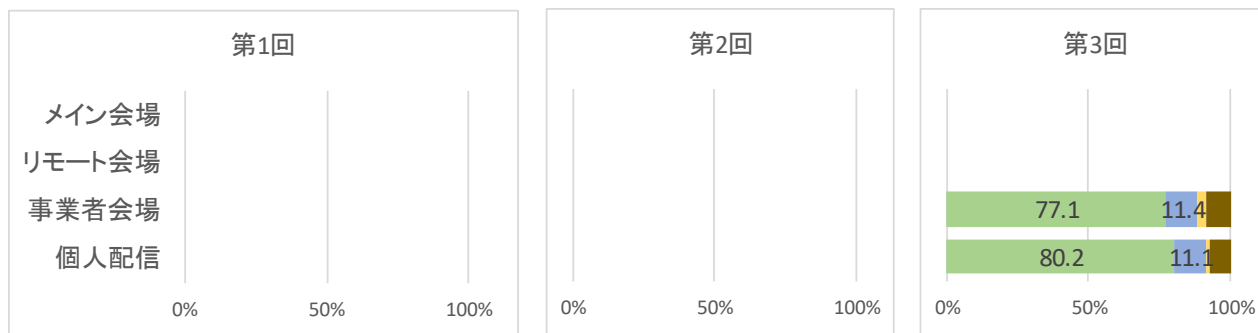


(とてもよく集中できた) 5 4 3 2 1 NA (まったく集中できなかった)

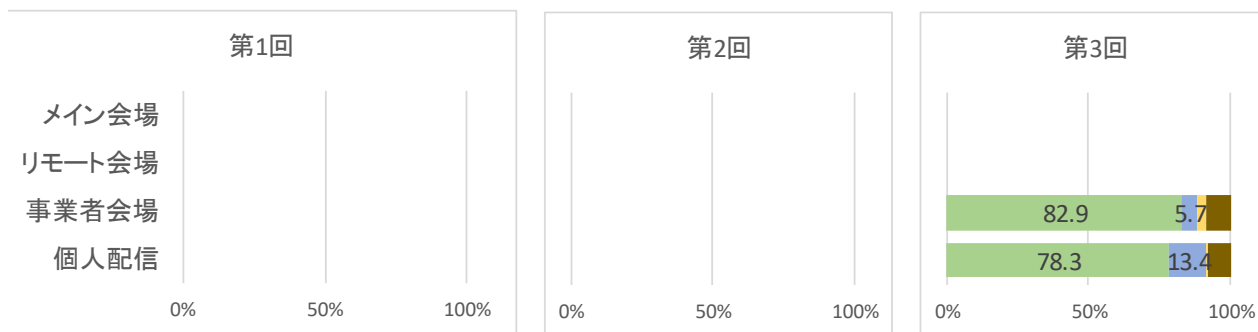
(とてもわかりやすかった) (まったくわからなかった)

養成研修 9

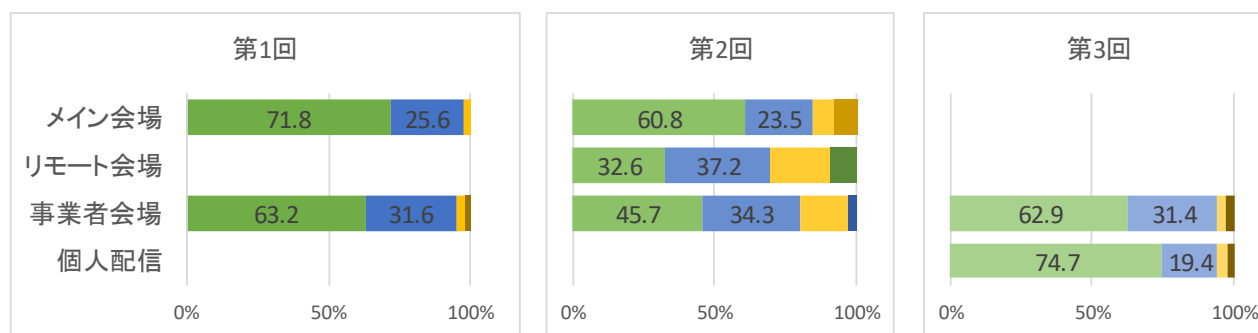
科目: 保育技術Ⅱ-3歳未満の遊び 実技-手作りおもちゃ・手遊び 集中度



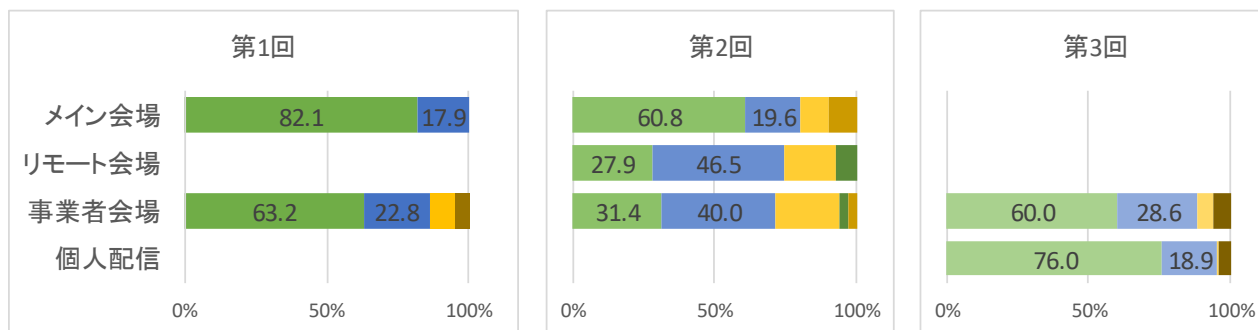
科目: 保育技術Ⅱ-3歳未満の遊び 実技-手作りおもちゃ・手遊び わかりやすさ



科目: 保育技術Ⅲ-けがと病気の対応 集中度



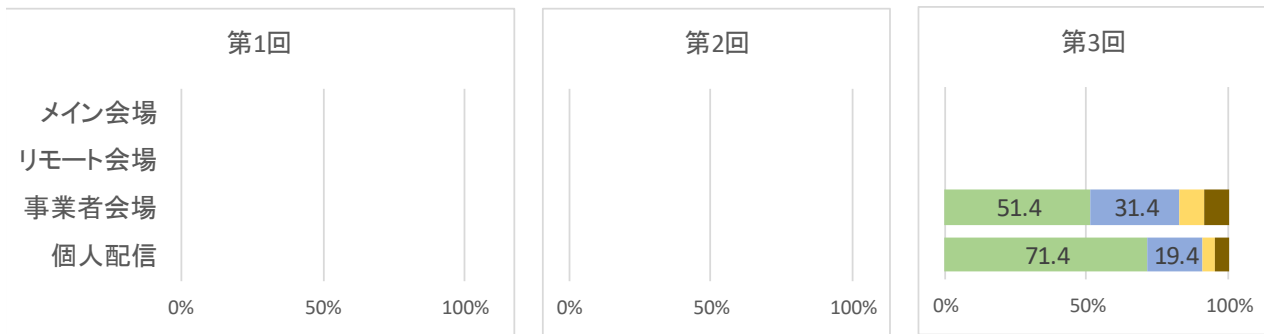
科目: 保育技術Ⅲ-けがと病気の対応 わかりやすさ



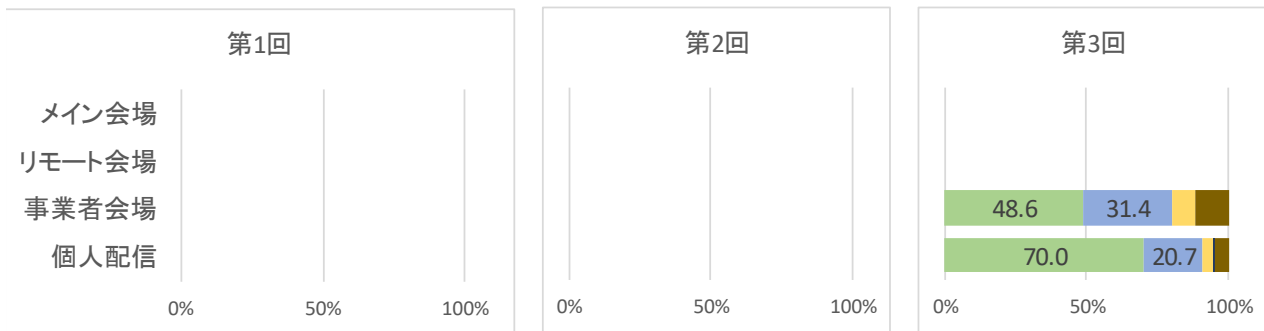
メイン会場 … 第1回 n=39 第2回 n=51 リモート会場 … 第2回 n=43
 事業者会場 … 第1回 n=57 第2回 n=35 第3回 n=35 個人配信 … 第3回 n=217

養成研修 10

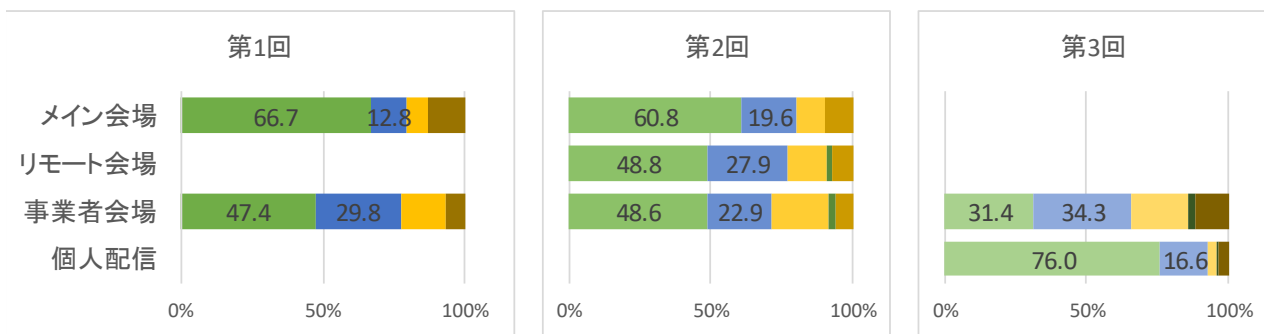
科目: 保育技術Ⅲ-けがと病気の対応 映像教材 - 家庭訪問保育での事故の予防と対応 集中度



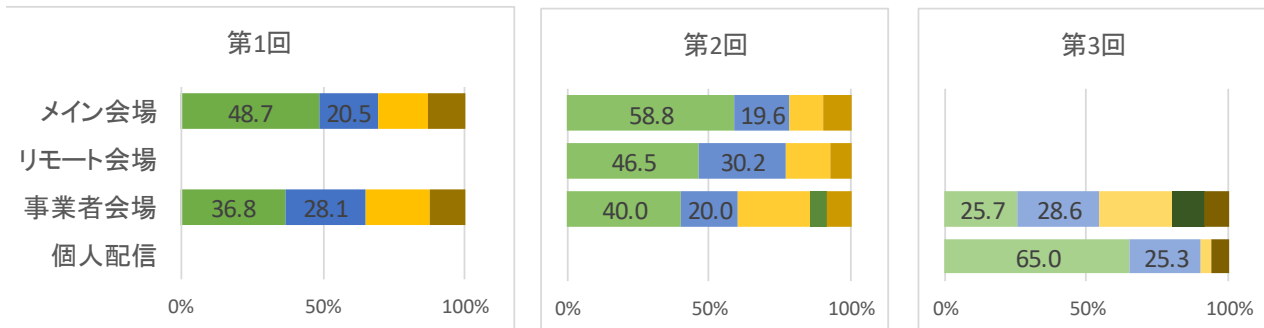
科目: 保育技術Ⅲ-けがと病気の対応 映像教材 - 家庭訪問保育での事故の予防と対応 わかりやすさ



科目: ディスカッション 集中度



科目: ディスカッション わかりやすさ



(とてもよく集中できた) 5 4 3 2 1 NA (まったく集中できなかった)

(とてもわかりやすかった) (まったくわからなかった)

養成研修アンケート: 自由記述(抜粋)

- ・内容の濃い充実した三日間の研修会だった。
- ・良い先生方が多く、わかりやすい研修だった。
- ・普段、ベビーシッターの仕事をするうえで疑問に感じていた事が色々とわかり、より仕事への理解が深まった。
- ・ひとつの講義ごとに質問を受けつけてもらえる時間があると、より理解を深められると思う。
- ・講演者の声が聞き取りにくく、話していることがわからない場面が多々あった。
- ・声が聴き取りにくい（早口など）。
- ・今回はマスク着用のため、講師の方にも大変なことも多かったと思うが、大きな張りのある声の先生は気持ちよく、眠気もとんだ。
- ・先生によって音量の大きさが違って、聞き取りにくいときもあった。その点も改善してもらえれば、他に問題ない。
- ・オンライン環境がいまいち悪く、特に音声に関しては最悪で集中度が半減された。二日目以降は改善され、研修に集中できた。
- ・座席によって見えにくい場合があったのではないかな。
- ・画面の活字の色は、薄紫色や緑などの薄い色は避け、黒にしてもらったほうが見やすい。
- ・スクリーンが見にくい。文字が小さくて読めない場合、後方の席だったので、人や柱にさえぎられて読めないときもあった。
- ・席が後方だと見えにくいときもあり、席の入れ替えなどがあるとありがたい。
- ・パワーポイント画面が、後方からだと、会場の明るさや背景の色などにより読み取りにくかったり、実技においては説明してくださっている備品の細部が見えなかったりした。
- ・パワーポイントの字数が多く見づらいことがあった。また画面いっぱいを使用して下の方が見えないスライドもあった。フォントの大きさなどについて、ある程度ガイドを出した方がよいかなと思う。
- ・ずっとしゃべり続けているより、ビデオを観たり作業した方が飽きずにわかりやすいです。
- ・DVD、実技指導は、より集中することができた。
- ・コロナ禍の状況なので今回のように少人数で密にならない会場での開催は良いと思う。
- ・ひとつの会場に大人数での受講でないため、とても受講しやすく感じました。
- ・音声等、多少のトラブルはありましたが、密を避けられ、専門の先生方のお話を伺うことができ、良かったと思います。
- ・通いやすい場所で受講できたのでとても助かりました。
- ・研修ふりかえりシートの書く欄がもうすこし大きめだとよかったです。書ききれないところもありました。
- ・研修ふりかえりシートは、意外と作成に時間がかかり、正直に言って大変だったが、必然的に勉強を再確認することになり、良かったと思う。

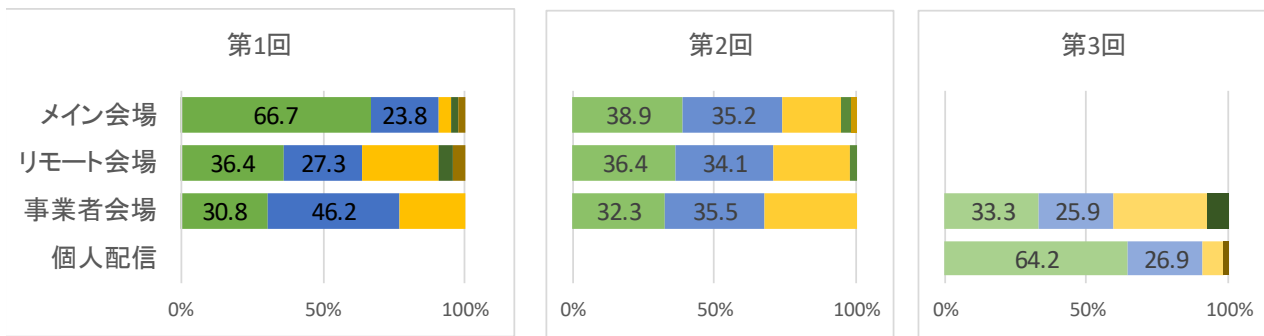
- ・仕事の性質上、孤立しがちであり、考えも固まっていってしまうため、このような経験、機会を得られて本当に良かったと感じている。
- ・普段ひとりでお仕事していると、壁にぶち当たり、戸惑うことも多いので、他の方とのコミュニケーションを取り共有することでより良い保育に挑めるのではないかと思います。
- ・個人宅での託児の仕事を始めて、このやり方で大丈夫かなと心配なこともあったが、今回研修を受け色々なことを再確認でき、実りのある研修だった。
- ・”テキストの〇ページ”や”〇行目”等とご指示いただいた方が、内容を扱いやすかった。(ほとんどの講師の方はその進め方だったのでよかった)
- ・地方にいるシッター達に、オンラインで受講できる方法は本当にありがたく思う。
- ・オンライン受講だったが、思っていたより集中し、理解できた。
- ・オンラインでのディスカッションはかなり厳しいものがあると思う。会話もしづらくまとまらないので、今後もされるのならば改善課題になると思う。(事業者会場)

<個人配信の受講者の自由意見>

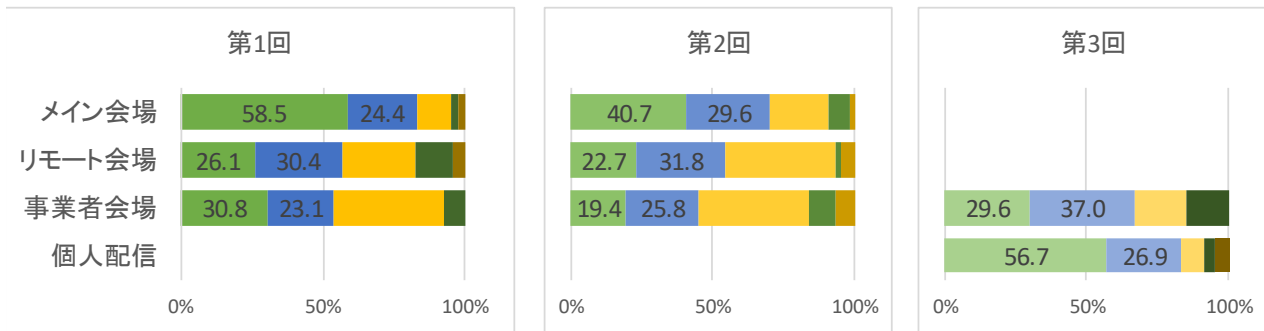
- ・Zoomでの受講は初めてだったが、予想以上に手ごたえがあり驚いた。特に講師がカメラをしっかり見ていると、一対一で受講しているような感覚を味わい、集中できた。
- ・先生のお顔が良く見え、集中できた。
- ・自宅でオンライン受講をさせていただき、大変リラックスして集中することができた。一対一で受講しているような親近感があり、細かいところまで理解することができて、この仕事に誇りを持つことができた。
- ・自宅で、本当の授業のように問題なく受けることができ、本当に感謝です。
- ・Zoomによる研修は効果的で理解しやすかったが、一日の研修時間が長く、目への負担が大きいと感じた。
- ・オンライン研修、移動することなくストレスフリーで受講できたことはとてもよかった。ただ、一度入室すると休憩時に退室できないのは困った。
- ・ディスカッションでは、直接対面で討議するより、リラックスして皆さん楽しく会話がはずんだように思う。
- ・オンライン研修会の受講ガイドは活字も大きく見やすく、初心者にとって大変わかりやすく有難い内容だった。
- ・拘束時間が長いため、休憩を長めにしてほしい。
- ・講義内容は保育は自分の子供でしか経験がないので、ビデオ等の具体的な日常の業務が見ることができて理解しやすかった
- ・退出したわけでもないのに勝手に切れ、もう一度入りなおさなければならないということが二回ほどあった。
- ・ディスカッション時に切れてしまい、他の機器で入りなおすと最初のグループと違うグループに入り、かなりお話が進んでいて戸惑った。

現任研修 アンケート1

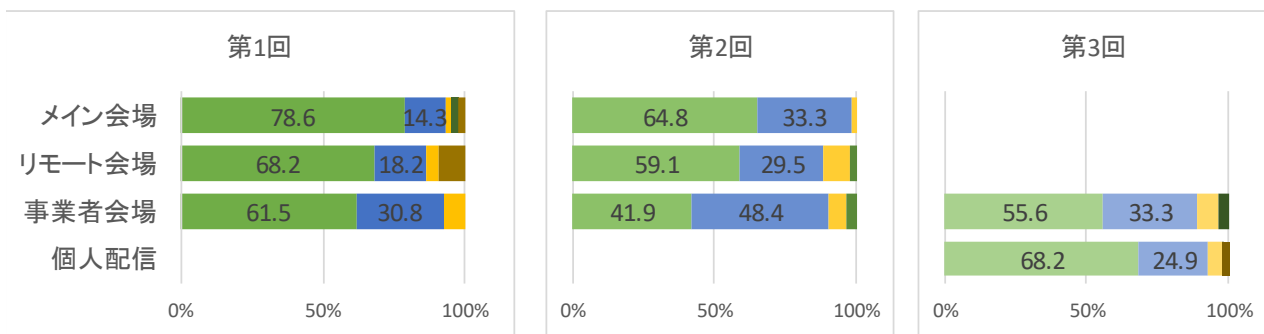
科目: 保育制度における家庭訪問保育の動向 集中度



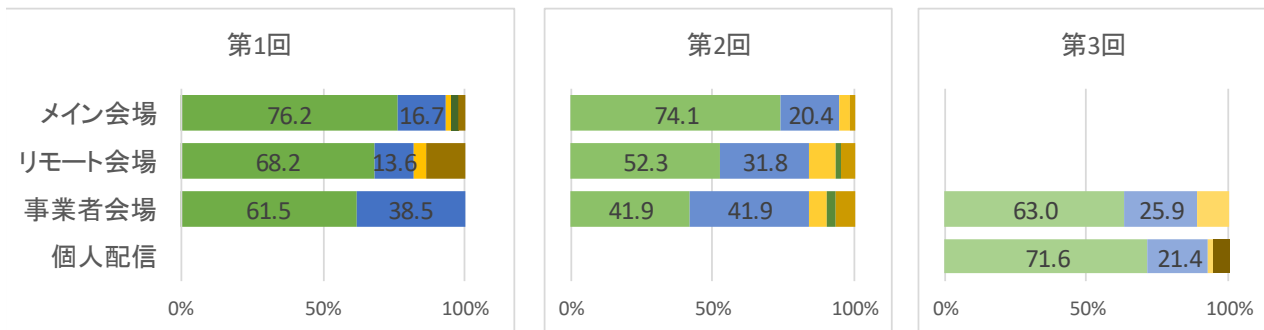
科目: 保育制度における家庭訪問保育の動向 わかりやすさ



科目: 小児保健Ⅱ－子どもの健康管理Ⅱ 集中度



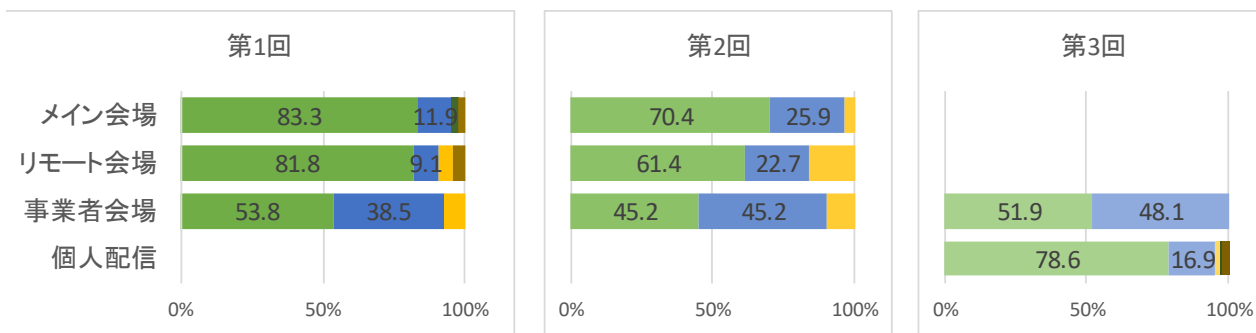
科目: 小児保健Ⅱ－子どもの健康管理Ⅱ わかりやすさ



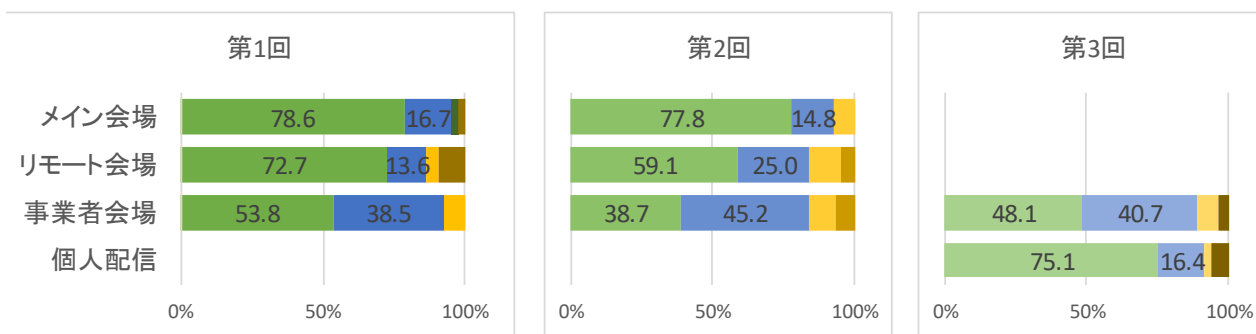
メイン会場 … 第1回 n=42 第2回 n=54 リモート会場 … 第1回 n=22 第2回 n=44
 事業者会場 … 第1回 n=13 第2回 n=31 第3回 n=27 個人配信 … 第3回 n=201

現任研修 アンケート 2

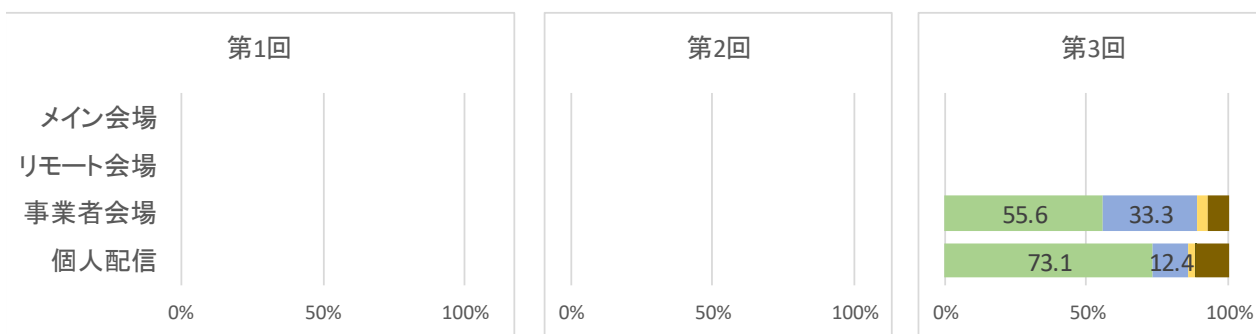
科目:心肺蘇生法 集中度



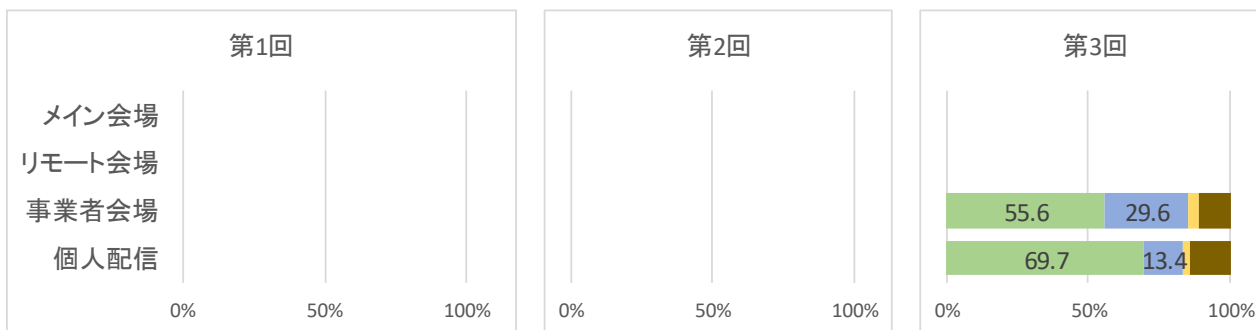
科目:心肺蘇生法 わかりやすさ



科目:心肺蘇生法 - 映像教材 集中度



科目:心肺蘇生法 - 映像教材 わかりやすさ

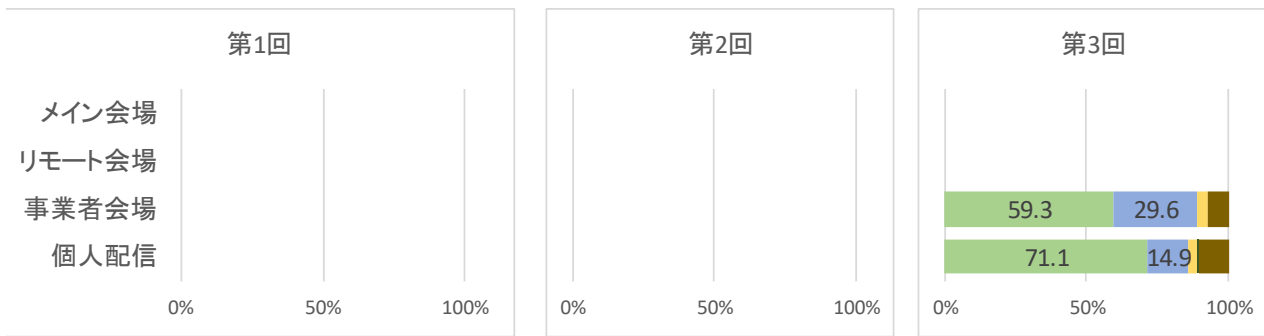


(とてもよく集中できた) 5 4 3 2 1 NA (まったく集中できなかった)

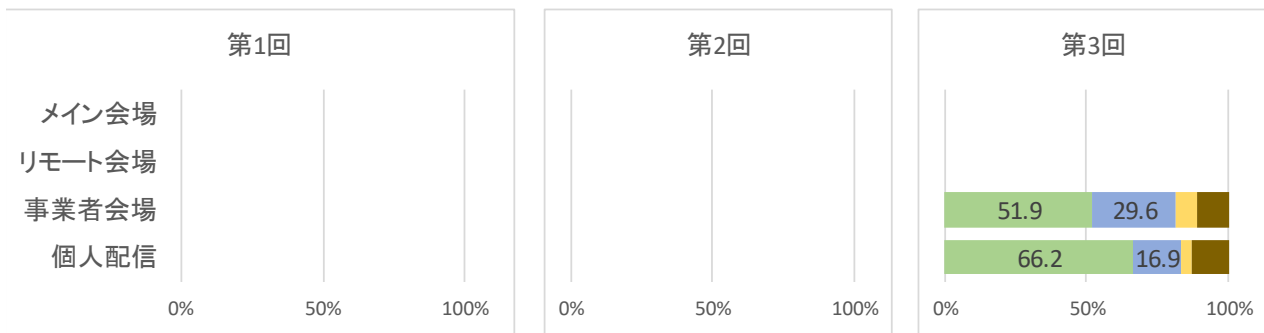
(とてもわかりやすかった) (まったくわからなかった)

現任研修 アンケート 3

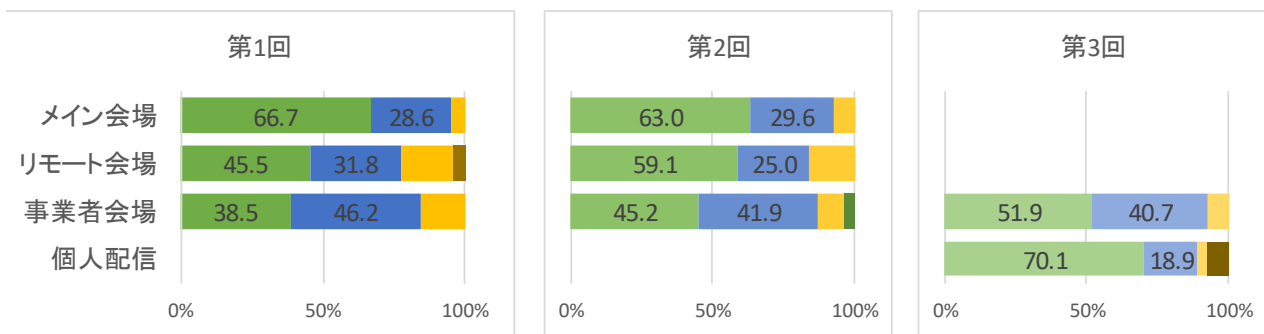
科目:心肺蘇生法 - 実技演習 集中度



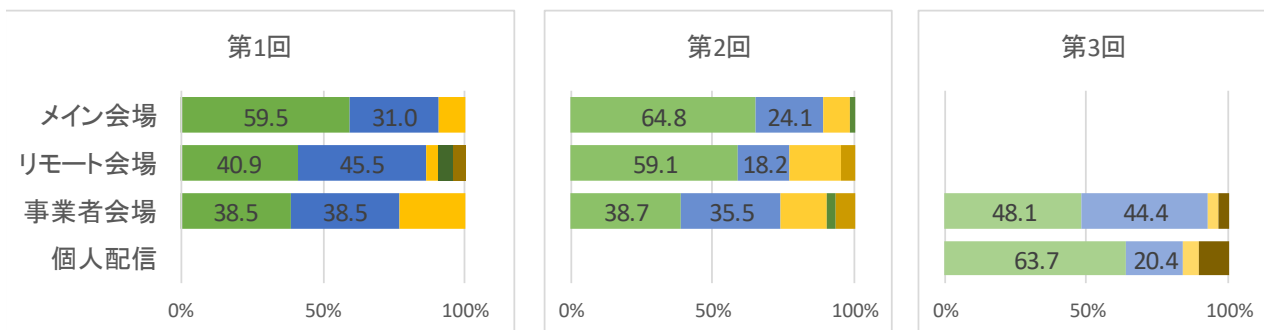
科目:心肺蘇生法 - 実技演習 わかりやすさ



科目:家庭訪問保育の保育内容 集中度



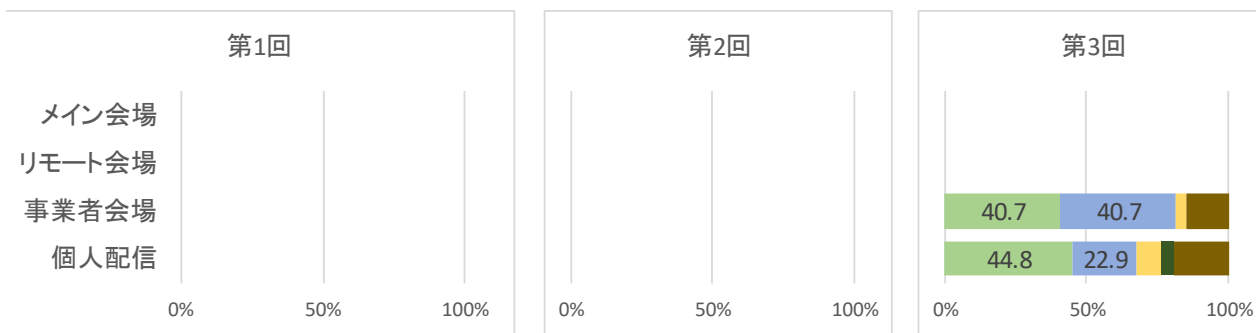
科目:家庭訪問保育の保育内容 わかりやすさ



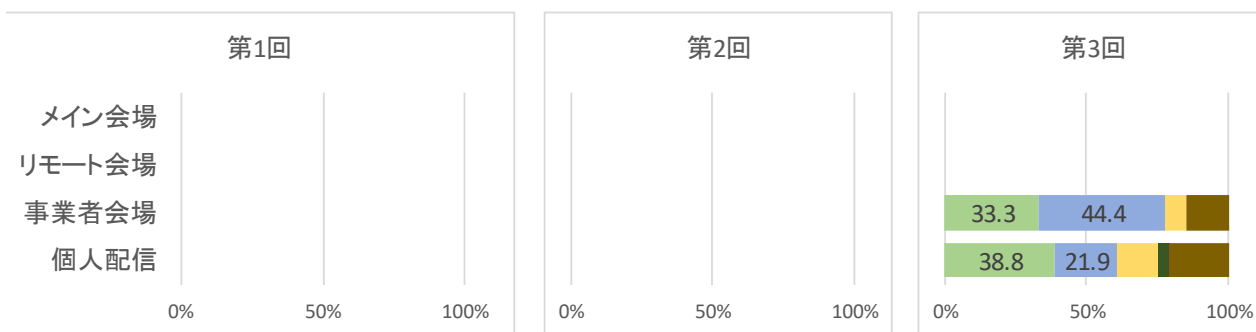
メイン会場 ... 第1回 n=42 第2回 n=54 リモート会場 ... 第1回 n=22 第2回 n=44
事業者会場 ... 第1回 n=13 第2回 n=31 第3回 n=27 個人配信 ... 第3回 n=201

現任研修 アンケート 4

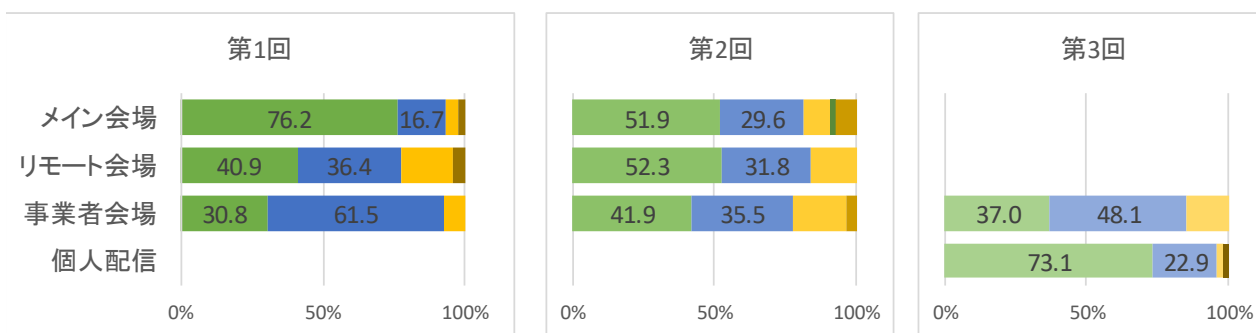
科目:家庭訪問保育の保育内容－演習計画づくり 集中度



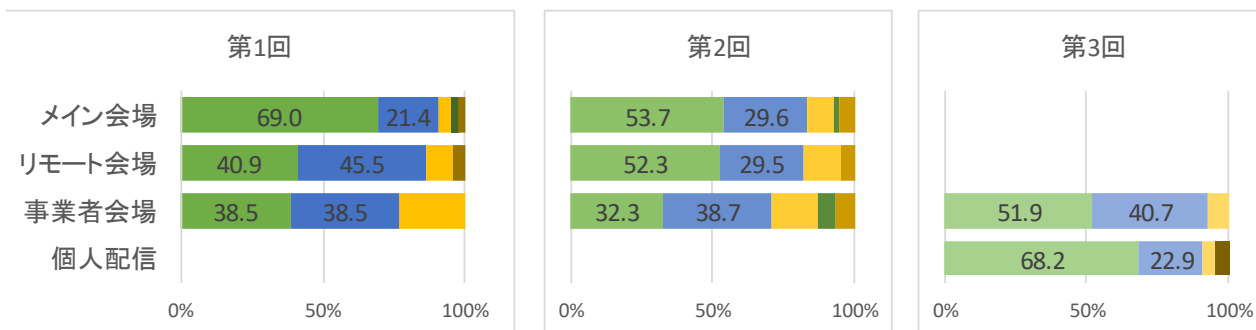
科目:家庭訪問保育の保育内容－演習計画づくり わかりやすさ



科目:家庭訪問保育における環境整備 集中度



科目:家庭訪問保育における環境整備 わかりやすさ

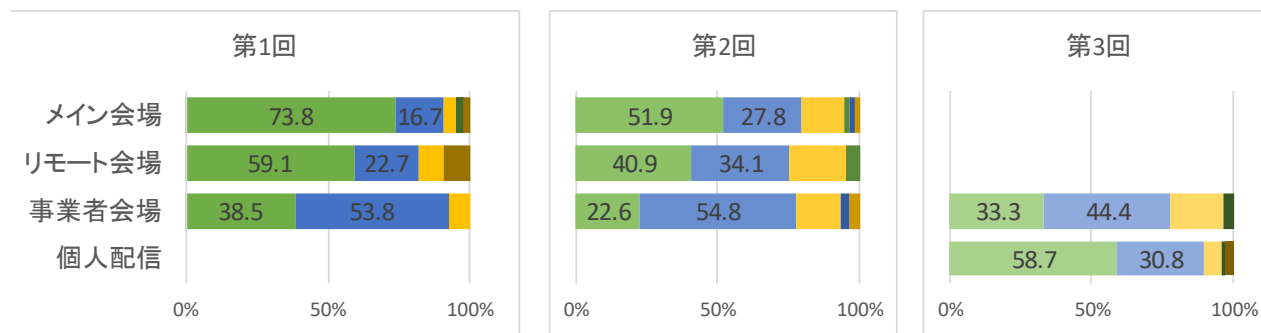


(とてもよく集中できた) 5 4 3 2 1 NA (まったく集中できなかった)

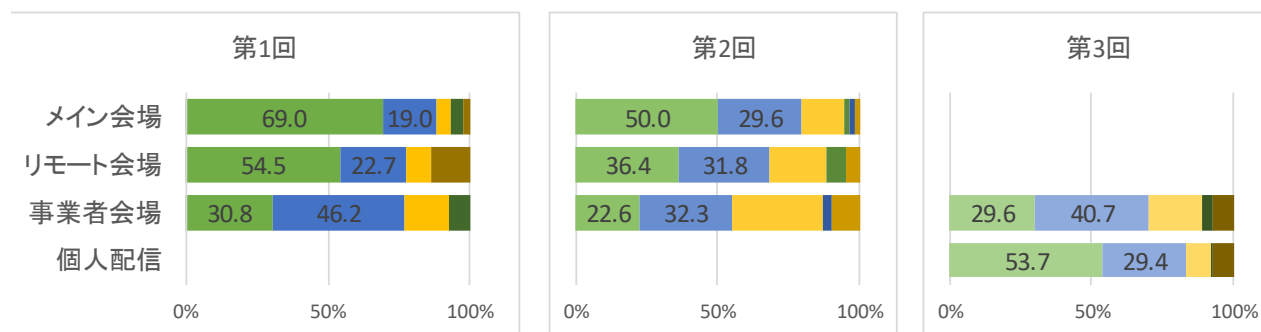
(とてもわかりやすかった) (まったくわからなかった)

現任研修 アンケート 5

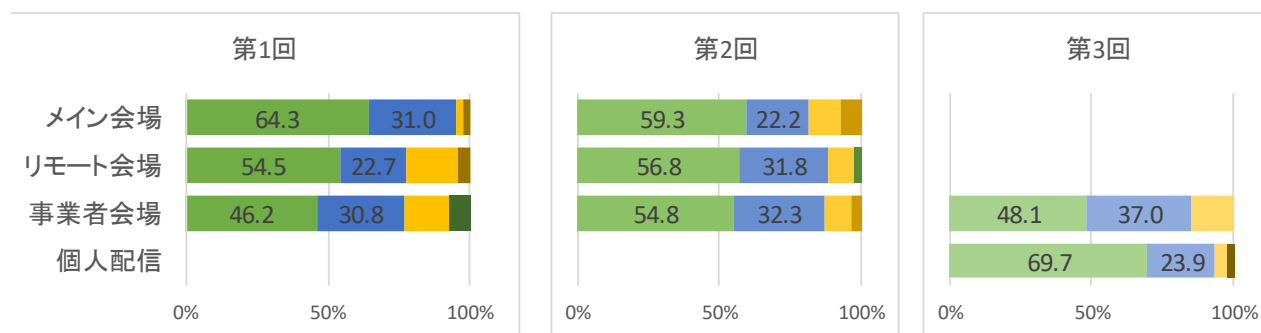
科目:家庭訪問保育者の使命と役割 I - 運営 集中度



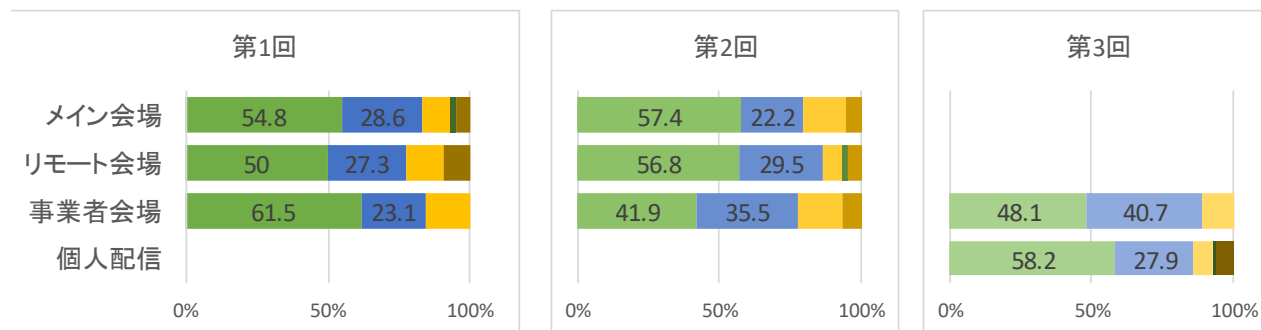
科目:家庭訪問保育者の使命と役割 I - 運営 わかりやすさ



科目:家庭訪問保育者の使命と役割 II - 職業倫理と配慮事項 集中度



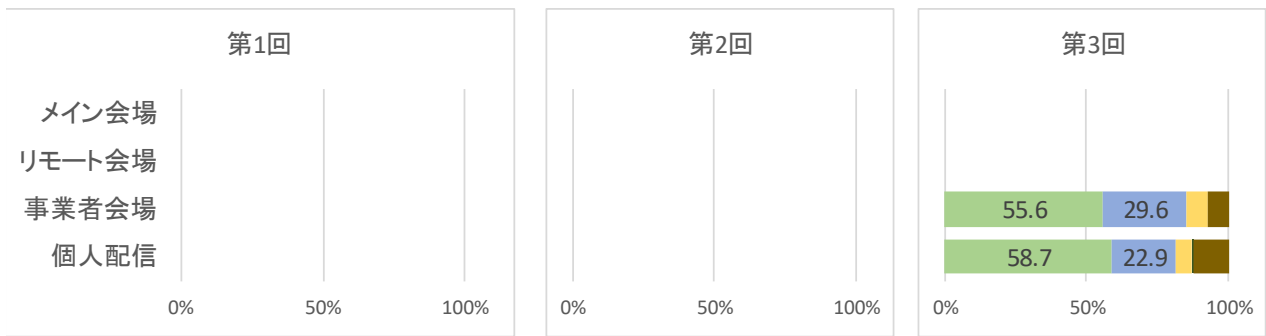
科目:家庭訪問保育者の使命と役割 II - 職業倫理と配慮事項 わかりやすさ



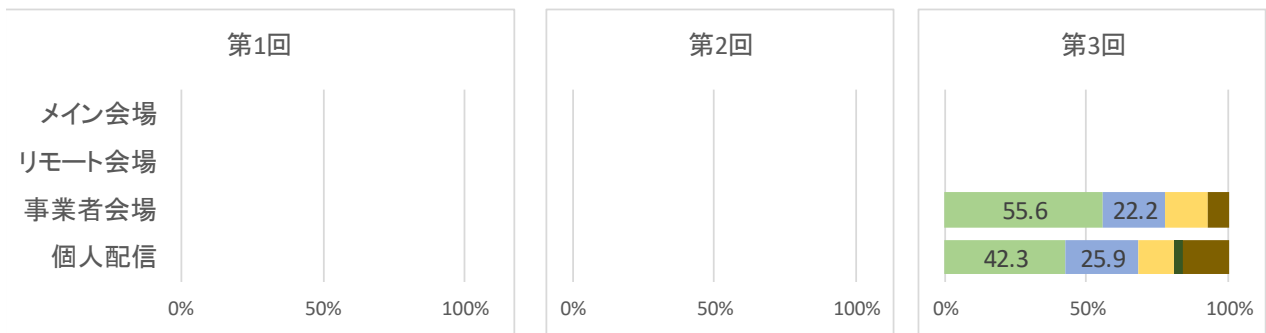
メイン会場 … 第1回 n=42 第2回 n=54 リモート会場 … 第1回 n=22 第2回 n=44
 事業者会場 … 第1回 n=13 第2回 n=31 第3回 n=27 個人配信 … 第3回 n=201

現任研修 アンケート 6

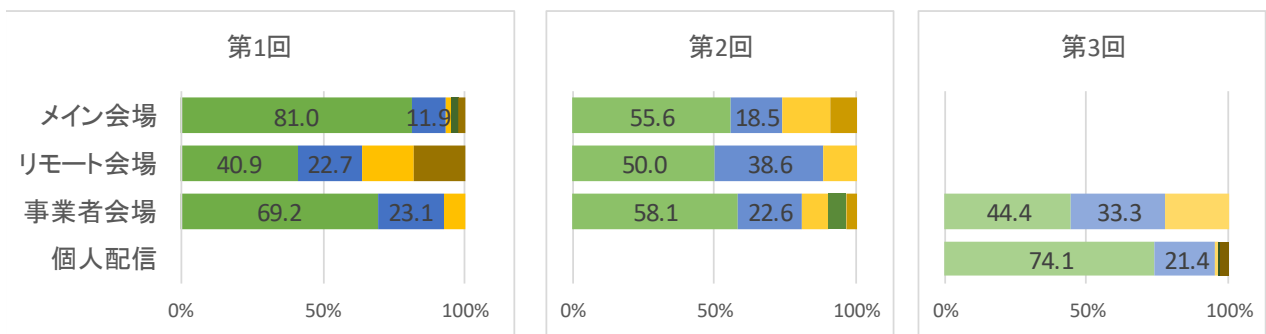
科目:家庭訪問保育者の使命と役割Ⅱ- 演習 集中度



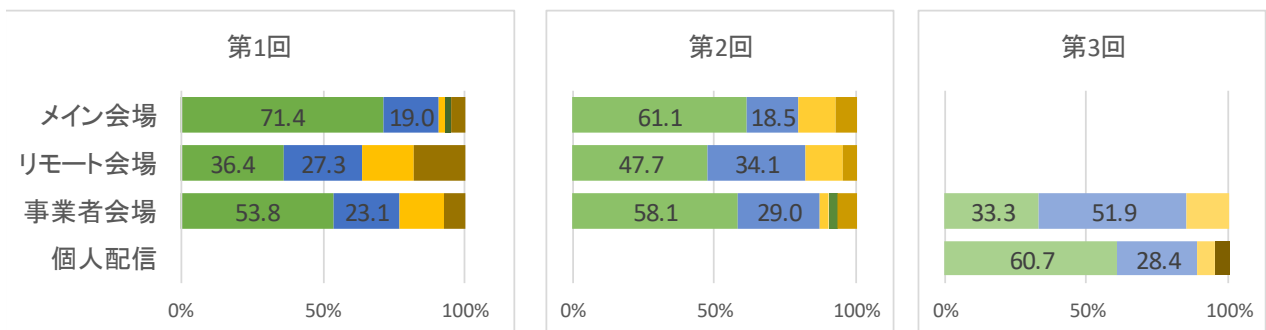
科目:家庭訪問保育者の使命と役割Ⅱ- 演習 わかりやすさ



科目:保護者への支援 集中度



科目:保護者への支援 わかりやすさ

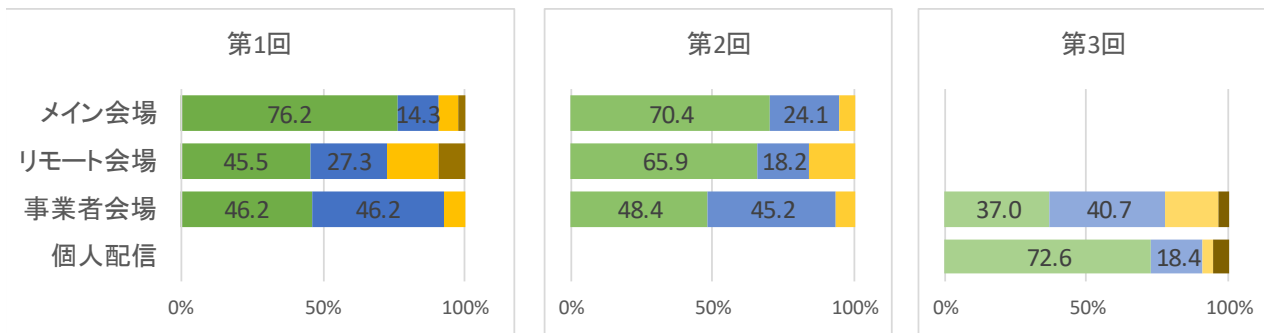


(とてもよく集中できた) 5 4 3 2 (まったく集中できなかった) 1 NA

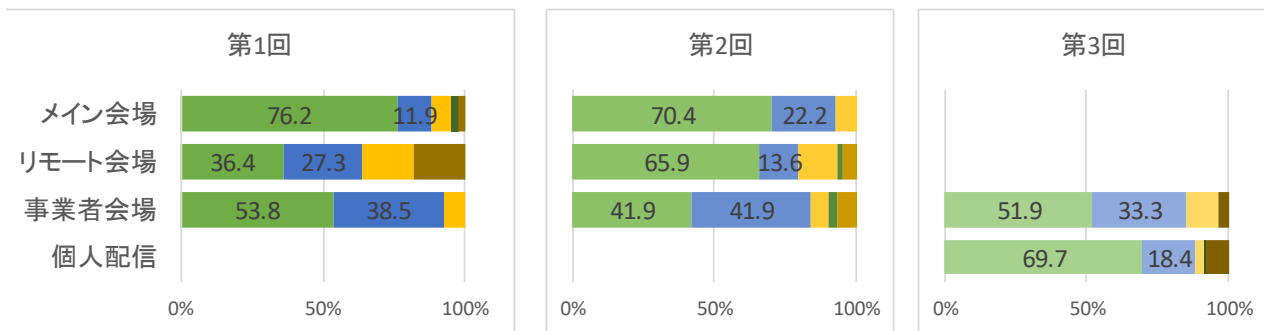
(とてもわかりやすかった) (まったくわからなかった)

現任研修 アンケート7

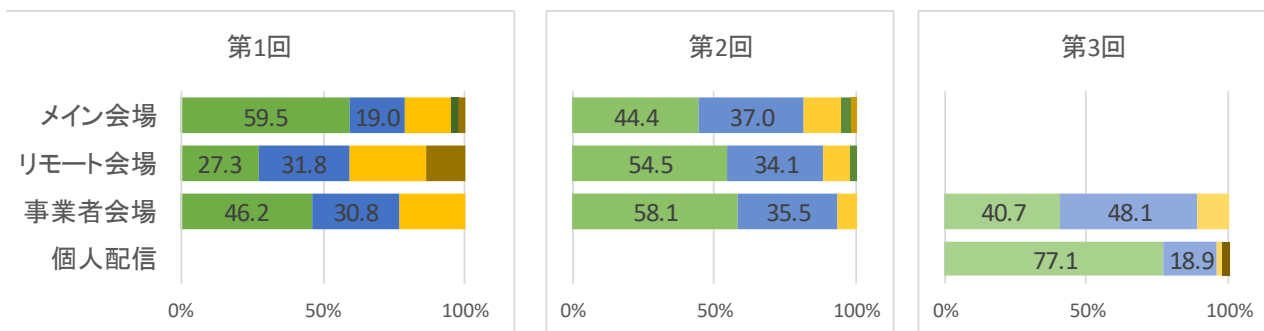
科目:子どもの発達Ⅱ- 特別に配慮を要する子どもへの対応 集中度



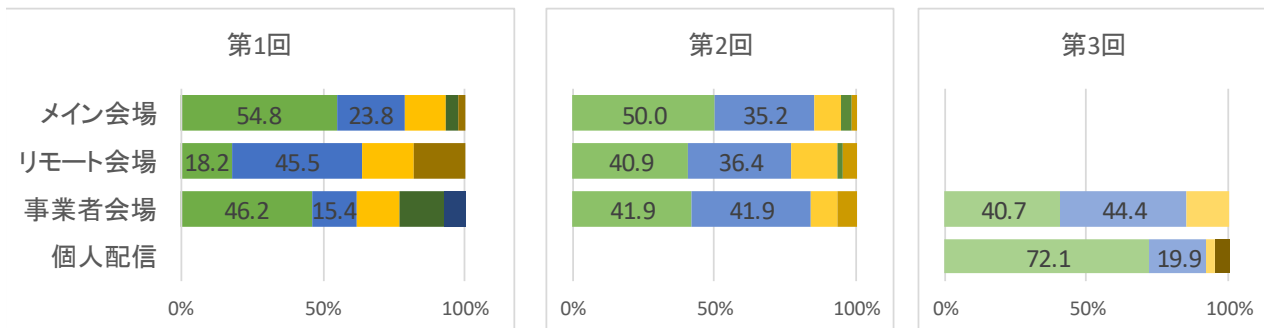
科目:子どもの発達Ⅱ- 特別に配慮を要する子どもへの対応 わかりやすさ



科目:保育技術Ⅳ- 子どもの食事 集中度



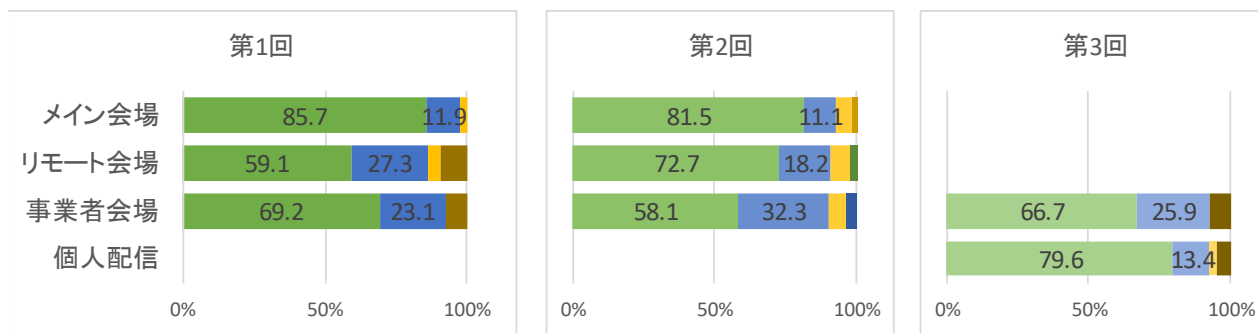
科目:保育技術Ⅳ- 子どもの食事 わかりやすさ



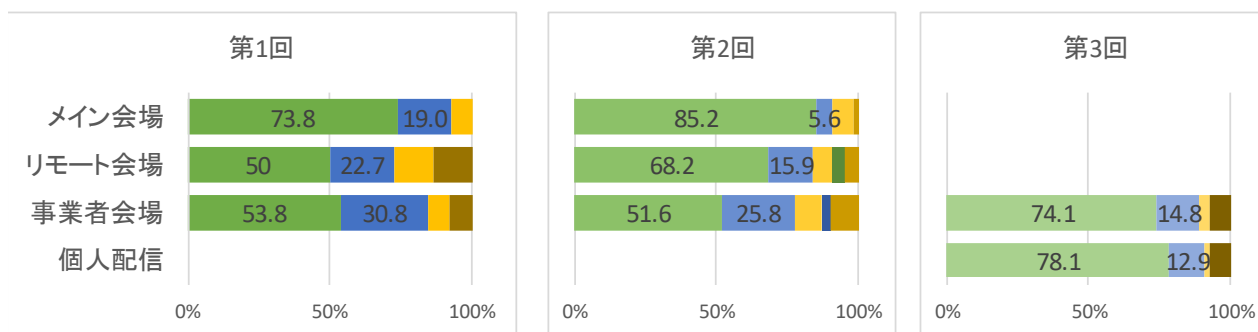
メイン会場 … 第1回 n=42 第2回 n=54 リモート会場 … 第1回 n=22 第2回 n=44
事業者会場 … 第1回 n=13 第2回 n=31 第3回 n=27 個人配信 … 第3回 n=201

現任研修 アンケート 8

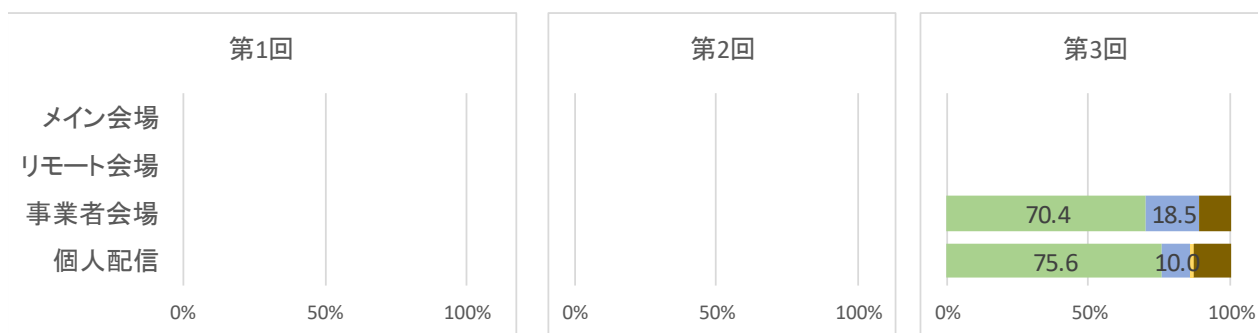
科目:保育技術Ⅴ- 3歳以上の遊び 集中度



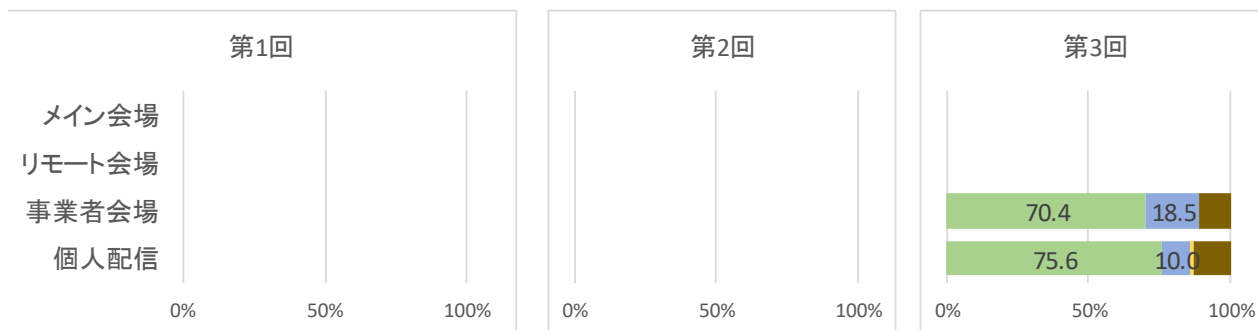
科目:保育技術Ⅴ- 3歳以上の遊び わかりやすさ



科目:保育技術Ⅴ- 実技 - 手づくりおもちゃ 集中度



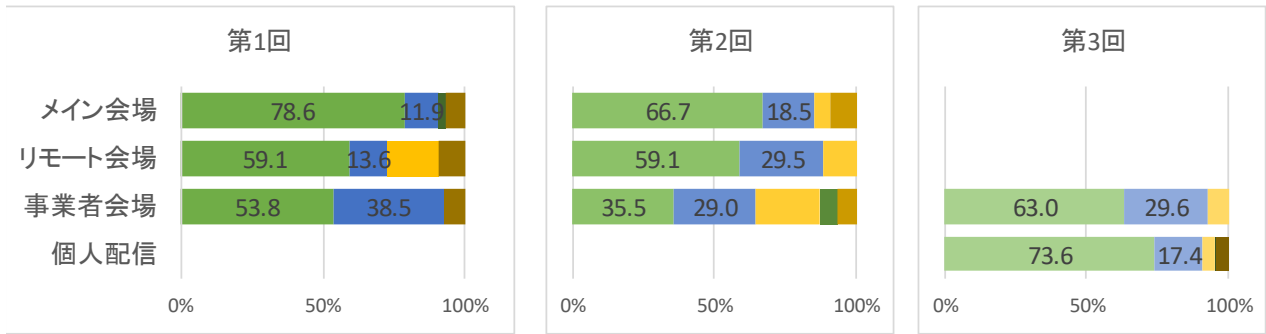
科目:保育技術Ⅴ- 実技 - 手づくりおもちゃ わかりやすさ



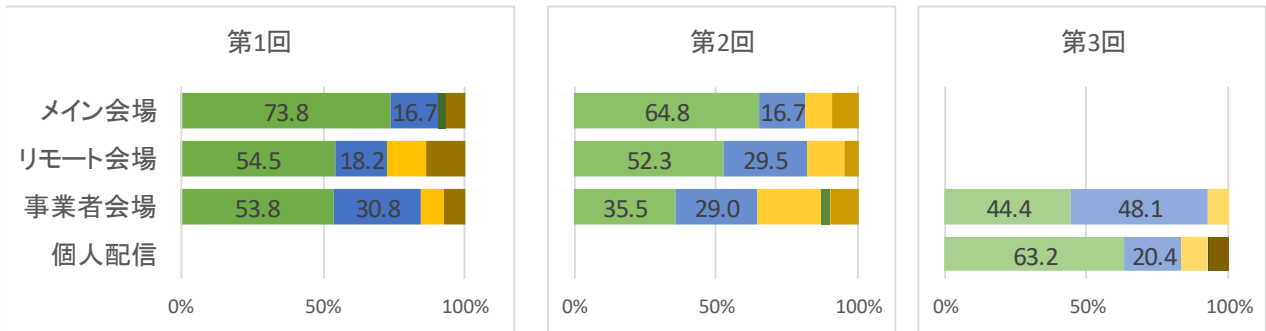
(とてもよく集中できた) 5 4 3 2 1 NA
 (とてもわかりやすかった) (まったく集中できなかった) (まったくわからなかった)

現任研修 アンケート 9

科目:ディスカッション 集中度



科目:ディスカッション わかりやすさ



メイン会場 … 第1回 n=42 第2回 n=54 リモート会場 … 第1回 n=22 第2回 n=44
 事業者会場 … 第1回 n=13 第2回 n=31 第3回 n=27 個人配信 … 第3回 n=201

現任研修アンケート 自由記述(抜粋)

- ・ベビーシッターをいろいろ経験してきたが、今回受講してみて、事業所では学べなかったことを細かく学ぶことができ、とても参考になった。
- ・先生方のお話を直接聞くことができ、大変勉強になった。
- ・最初から最後まで集中して受講できる内容に工夫されていて良かった。重複する内容も度々出てきて、自分の中で復習や再確認できたのもよかった。
- ・教科によっては、先生が次から次へと先へ行ってしまい、途中でわからなくなったこともあった。
- ・ページ数、段落を教えていただけると確認しながら学べたかと思う。
- ・スライドにページ数が出るのが良かった。
- ・スライドの展開が早くて、写す時間が少なく感じた。資料が欲しいと思った。
- ・実際の現場で困ったときの対処のしかた等、質問ができる時間があれば良いのかと思った
- ・質問がしやすい雰囲気であったら良いと思った
- ・研修の時間帯（終了時間）をもう少し早く設定していただけると助かる人が多いと思う。お迎えの時間に間に合わず参加が難しいという方の話をよく耳にする。
- ・全体の時間が、10分でも20分でも良いのでもう少し前に設定されていると、自身も含め、子育て中や家庭の事情がある方などももっと参加しやすいかと思う。
- ・シッターが夕方からのニーズが多いと研修でも話されているのなら、せめて4時頃までに終わるスケジュールを組んでいただきたい。
- ・研修会后、三日間ともケア（仕事）が入っていて、寝不足の時は大切な講義であるのに集中力に欠けてしまい残念だった。
- ・仕事しながら三日間は難しい。一週間くらいで1コマずつ取れるようだと、参加できるスタッフも増えるかもしれない。
- ・ディスカッション中の音楽が気になった。個人的希望としては、音がない方が良い。
- ・コロナ感染予防のため、グループセッションができなかったのはとても残念だが、他の方の意見や考えがいくらかでも聞けたのは参考になり、これから仕事をするにあたり励みになる。
- ・発表や実技があると、他の方々の意見も聞けて参考になり大変勉強になり、印象に残った。
- ・グループ討議がなかなかできないので、この部分だけ別日にZoomでやっても良いのでは。他の受講者の方が書いたものも読んでみたいと思った。（会場参加）
- ・ディスカッション、実技が楽しくおもしろかった。（第3回）
- ・日ごろ、1人で仕事をすることが多いので、このように他のベビーシッターの方々と交流したり、知識や情報を得ることができるのは、大変ありがたい。
- ・席が後方だったこともあり、前方スクリーンで、色のついた背景に文字があるときは、文字がとても見づらかった（見えないものもあった）。
- ・養成研修に比べて、リモートでの参加でもストレスを感じる部分がほとんどなく、参加しやすかった。たくさんの工夫を、ありがとうございました。
- ・どの講義も盛りだくさんで、興味深く聴いた。リモートでの勉強にも慣れ、楽しく受講でき

た。

- ・動画を観たり、工作したりするのは気分転換になり楽しかった。一方的に先生の講義を聴くだけでなく、学んだ事を文字に整理することでより一層理解を深めることができた。

<個人配信の受講者の自由意見>

- ・音声途切れた場合、自分だけなのか不安になった為しばらく腕を×印にし表示し待ったが、チャットを使われたり、マイクで話しかけたりされる方もいたりで統一されていなかったの
で、何か最初に決め事を作っておいてもらいたかった。
- ・zoomの機能の練習で手を上げる、ミュートを全体で繰り返したのがよかったと思います。
- ・ミュートの使い方が理解できてない方がいたので、雑音も気になった。
- ・オンラインだと色々な人と直接お話ししたりできないと思っていたが、同じような立場で仕事
をしている方からそれぞれの意見をお聞きすることができ、勇気をいただいた。先生方のお話
も、最前列で受講した様に集中できた。
- ・お話やパワーポイントなどは、会場での受講よりも一対一の感じがあってわかりやすいし、集
中できた。
- ・パソコンを見ながらひとり部屋で聞いたので集中して受講でき、音量も自分で調節しよく聞こ
えて、画面からも内容が伝わりやすかったと感じた。
- ・リモートでの受講でしたが、実際に会場で受ける以上にわかりやすかったように思う。
- ・集合研修ならではのメリットはもちろんあると思うが、これだけの時間をなかなか確保できな
いうえ、往復の時間も考えると今回のようなオンライン研修は参加しやすかった。
- ・静かな環境で集中して研修を受けられたので、よかったです。
- ・オンラインでの演習は非常に難しかった。スマホの画面で参加者全員が見れなかった。
- ・グループディスカッションは初めの頃は緊張したが、何度か重ねるうちに少しずつ慣れてき
た。
- ・グループディスカッションも、全国の方々との話し合いの場では、とても楽しく実体験等から
話される方々の事など、とても参考になった。
- ・シッター同士の横のつながりは全く無いのでどんな人がどんな思いで同じ仕事をしているの
か？知る機会となりとても興味深かった。
- ・ディスカッションを取り入れた講義が思いの外活気があり多くの意見が聞け現場の立場での現
実的な例も話し合われ、とても良いと思った。
- ・ふりかえりシートのマスが小さい。講義の内容に対してあまりに小さく、文字を書くのに苦労
した。オンラインだからこそ、もう少しボリュームのあるふりかえりシートでも良い
- ・時間の都合で流すことができなかった映像があった。期間限定で観られるサイトなどをご案内
いただけるとうれしい。
- ・講義の内容展開として、パワーポイント利用されるケースが多く見られ、テキストと語表現が
異なるケースも数々ありました。レジュメの内容をパワーポイントに準じた作りにしてもらえ
ると、メモを取り易く更に講義に集中して参加できる。

eラーニング試作版として制作した DVD の一部は、養成研修、現任研修でも部分的に活用し、受講者に集中度とわかりやすさについて回答してもらい、「訪問型保育の業務の流れ」の利用実態や、「さまざまな訪問型保育」の障害児保育については、いずれも良好な評価を得た。

集中度、わかりやすさ共に、メイン会場の方が評価が高い傾向は見られるが、両会場とも3以上の評価が9割以上を占めていた。

5 (とても良く集中できた) 5 . . . 4 . . . 3 . . . 2 . . . 1 (全く集中できなかった)

表 5-16 映像教材のわかりやすさ

5 (とてもわかりやすかった) 5 . . . 4 . . . 3 . . . 2 . . . 1 (全くわからなかった)

76

映像教材の活用については、「映像があると、気分転換になる」がメイン会場で非常に高い割合で選択されていたことに対し、リモート会場は、「映像があると、気分転換になる」に続いて、「講師が生で話した方が良い」、「映像の方がわかりやすい」と意見が分かれていた。

表 5-17 講義の中で、このような映像教材を使用することについて、どのように思うか。(複数回答)

	講師が生で話した方が 良い	映像の方が わかりやすい	映像があると、気分 転換になる	生で話しても、映像を 視聴しても変わらない	音声や画像 がうまく接続できてな かった	その他	総数
メイン 会場	10 23.8	6 14.3	27 64.3	8 19.0	0 0.0	4 9.5	42 100.0
リモート 会場	15 30.6	13 26.5	18 36.7	2 4.1	0 0.0	1 2.0	49 100.0
全体	25 27.5	19 20.9	45 49.5	10 11.0	0 0.0	5 5.5	91 100.0

自由意見

【4階メイン会場】

<見え方>

- 灯りはもう少し暗くした方が見やすい。
- 一番後ろの席のため、スクリーンが見にくい。

<科目全体について>

- 法律に書かれている用語・文言がどうしても多くなるので、絵を多くするか悪い例の動画を流してどこが悪いと思うか？などを考える→それがどうしてダメなのか？を説明してくれるなどもう少し簡単に噛み砕いて説明していただけたらと思った。
- 昨日の研修後、22時までシットイングで、今日は朝から眠気と戦っていましたが、先生のお話はスッと入ってきました。「子どもである前に一人の人間」という言葉がすごく心に響きました。子ども寝る時間なのに寝ない・・・など悩み、正直イライラすることもあったが、考え方を変えなければならないと思った。

<講義のメリハリ>

- 講義も映像も、両方の方がわかりやすい。
- 講師の先生の生のお話（心に響きます）と映像と、両方を使い分けていただくことでメリハリがあって良いと思った。
- 字が多く、頭に入らなかった。もっとイラストや吹き出しの中に言葉を書いて、メリハリをつけた方が見やすいと思う。

<配付資料>

- 内容が難しいため資料でもらえたら理解しやすいと思った。
- レジュメも手元にあるとより良いと思う。

<わかりにくさ>

- 映像で話している内容や表が、テキスト内ではどこにあたるのかがわからない部分があった。
- 映像に写真などが入ると、もっと良かった。
- スライド内に文字が多すぎて（文字が小さくて）、目で追いつくことに気を取られ、先生の説明が耳から入りづらかった。

<生で話される力には適わない>

- 先生のお話は生で話されているときに、とても強く一番必要だと思われることが伝わってきた。そのため、映像はとても聞きやすくわかりやすかったが、生で話される力には敵わない。

【6階リモート会場】

<生で話す方が良い>

- 文字で見られるのはよかったが、字が小さくたくさんあり、要点がわかりづらかった。先生が生で話している方が、抑揚がついていて聞きやすかった。
- もう少し字を大きくしてほしい。先生の映像小さくても良いと思う。
- 6階は基本的に映像ですので大差は感じなかったが、大変丁寧でわかりやすかった。
- 映像をタブレットで観る方が、メモが取りやすい。
- 映像を使用するにしても生で話しても、難解な言葉が多く（もっと平たい安易な言葉と併用されたらよかったと思う）、しかも話すスピードも速く、ついていくのが大変だった。
- 楽しかったです。
- 先生の声、話し方、スピード、とても頭に入りやすく分かり易かった。とても興味をもって受講でき楽しかった。
- 話し方は良かったが、難しい言葉で理解できていないことが多い。
- 映像の文字が小さくぼやけていたので、また席も後ろに近いため、まったく読めなかった。残念です。テキストでも確認できるようであれば、場所を伝えてくださると有難い。
- テキストとスライド、またはレジュメ等で補足していただきながら、生のお話を伺えたらより良いと思った。
- 生の声も大事である。体験談がためになる。映像もひと通りの流れ視覚で確認できるので必要である。（時間の関係でカットされて残念）
- 映像中の資料等、コピーなどがあると有難い。書き写す時間がなかった。
- 講師が話している映像が説明の画像と合わさっていてとても見やすかった。効果音もよかった。
- 言葉が聞き慣れてなく、難しく感じたが、映像に切り替わることで流れが変わって気持ちが向いた。でも聞いているうちに、やはり難しくて集中が切れてしまった。
- 途中、眠気が襲って集中できない場面があった。資料、レジュメがあるとうれしい。参加型（書き込むなど）だと午後の講義が受けやすいのかなと思った。

4) 修了評価の検討

今回実施したベビーシッター養成研修、現任研修では、受講者に各科目ごとのふりかえりシートの提出を義務づけ、講義受講とふりかえりシートの提出をもって、科目修了とした。ふりかえりシートは受講日毎に1枚提出することとし、科目名と記入欄を設けた用紙を配布した。記入欄は普通サイズの大きさの文字で記入すると、100字程度の記入ができるものである。

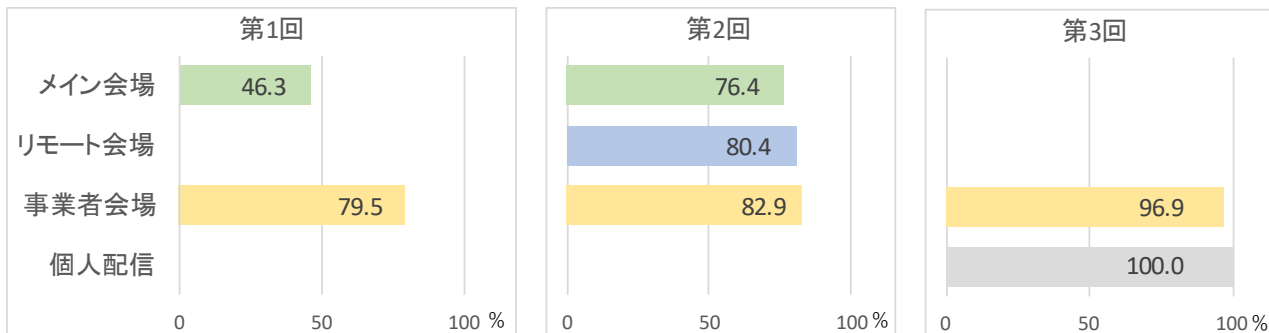
ふりかえりシートの目的は、学んだことをふりかえり、学びの中から大切と思ったことを抽出して記入することにより、定着を図ることである。

提出されたふりかえりシートについては、内容、分量、総合判定の3つについて、ABC評価を行った。次ページ以降の図では、総合判定Aランクの割合を80～86ページのグラフに示した。

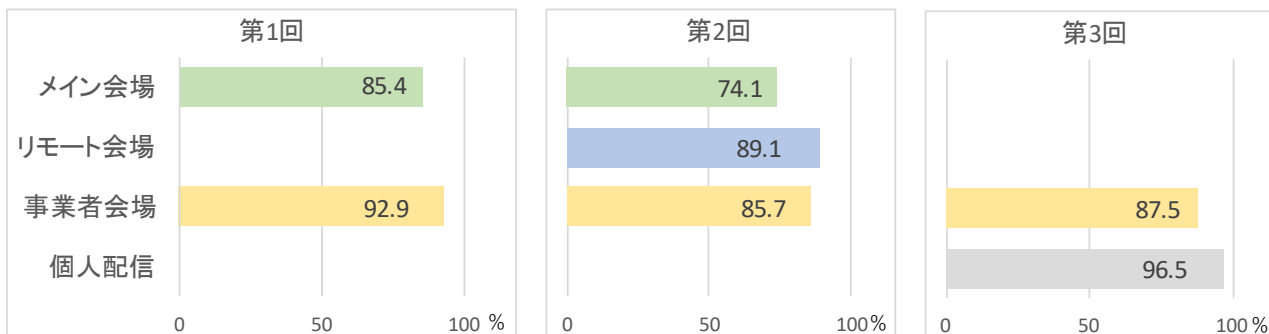
この結果を見ると、会場別に差は見られなかった。また、細かい文字で書き切れない内容を記入してくる受講者が非常に多く、むしろ個人配信の受講者の方が評価が高い科目も多く見られている。その要因として、会場で記入してもらう場合は、研修終了後に急いで帰ろうとする受講者が多く、休憩時間などを使って、記入する姿も見られるが、自宅で記入する場合は、落ち着いて記入する時間がとれることが考えられる。また、会場まで移動する時間を記入の時間に当てることができているとも考えられる。

養成研修 ふりかえりシート of 総合判定Aの割合 1

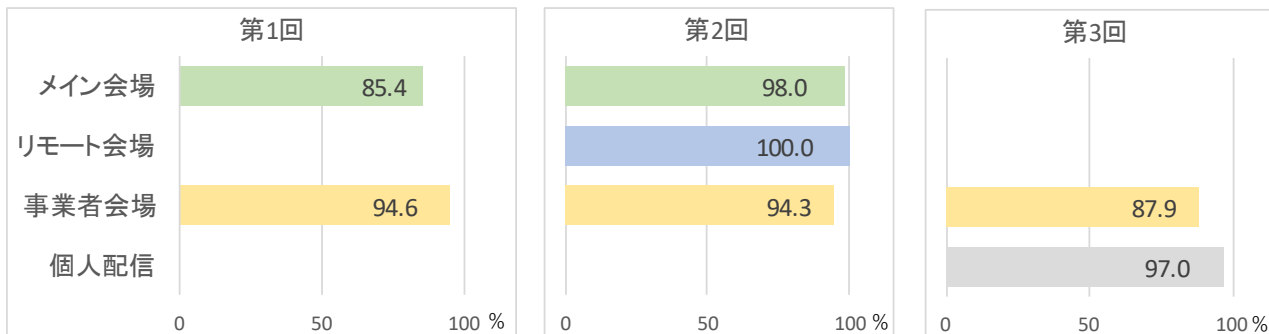
科目:オリエンテーション - 家庭訪問保育の概要



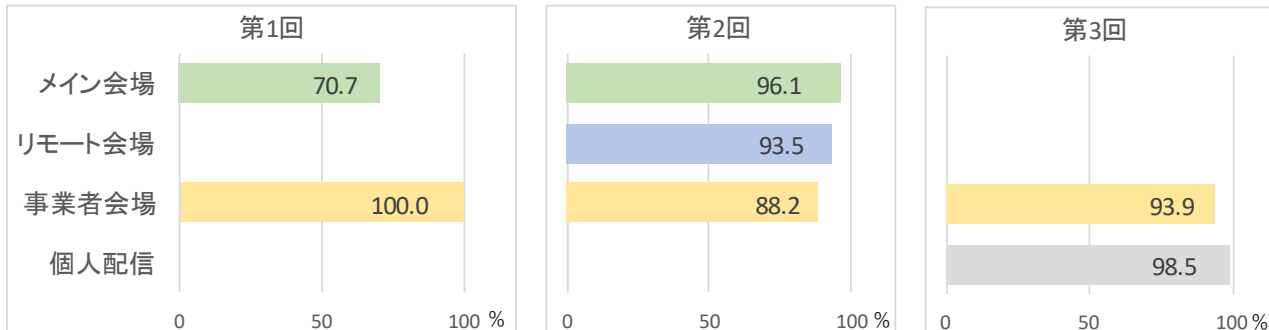
科目:一般形家庭訪問保育の業務の流れ



科目:保育マインド - 家庭訪問保育者の心得



科目:乳幼児の生活と遊び

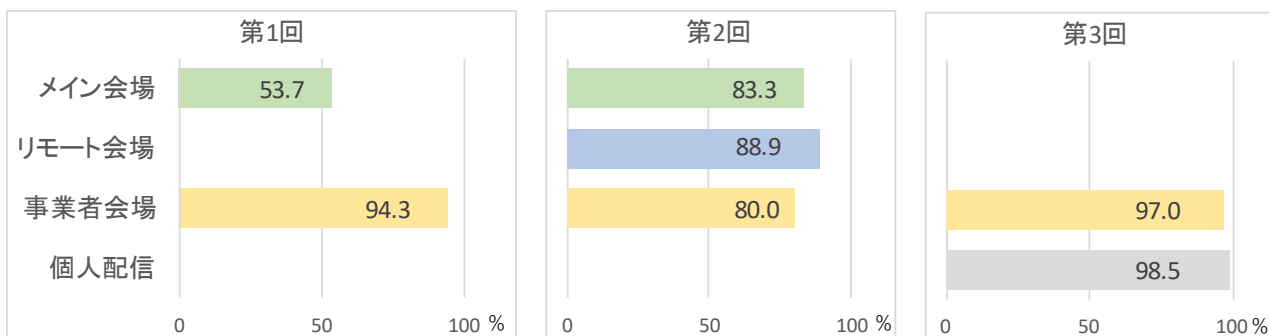


養成研修 参加者総数 (一部科目受講者がいるため、科目毎に n は異なる)

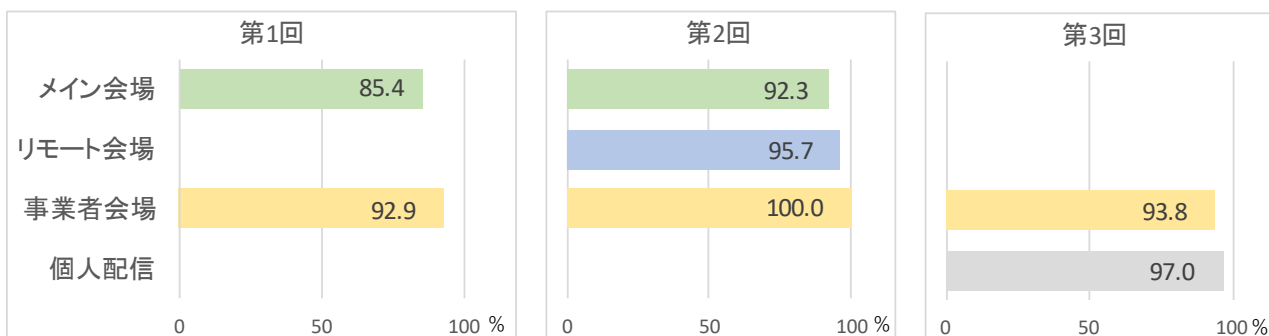
メイン会場・・・第1回 n=42 第2回 n=55 リモート会場・・・第2回 n=48
 事業者会場・・・第1回 n=69 第2回 n=35 第3回 n=35 個人配信・・・第3回 n=218

養成研修 ふりかえりシート of 総合判定Aの割合 2

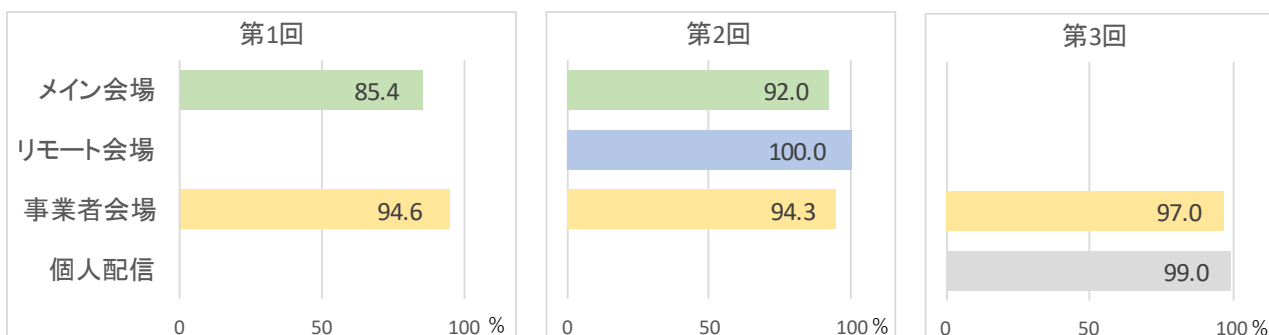
科目:乳幼児の発達 I – 乳幼児の発達と心理



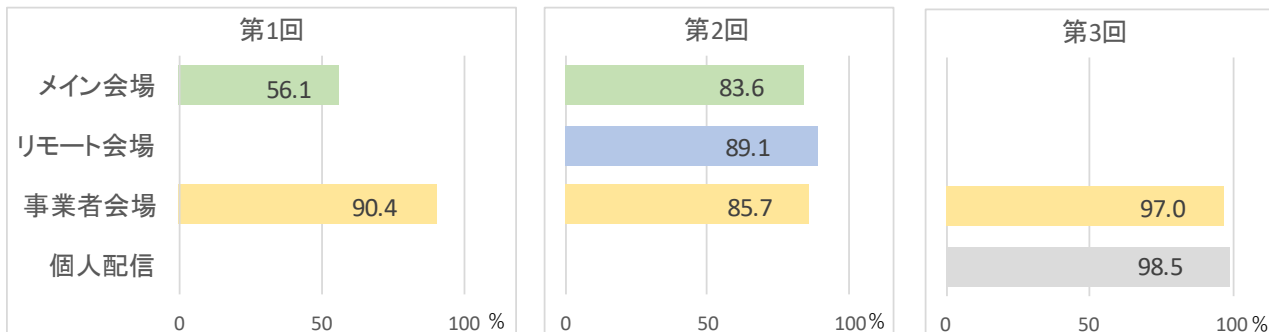
科目:小児保健 I – 子どもの健康管理 I



科目:事故安全 – 安全の確保とリスクマネジメント



科目:子ども虐待

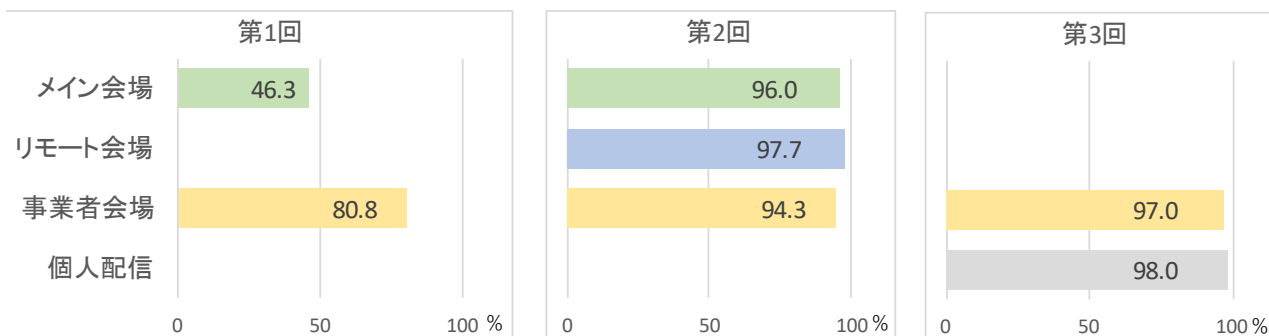


養成研修 参加者総数 (一部科目受講者がいるため、科目毎に n は異なる)

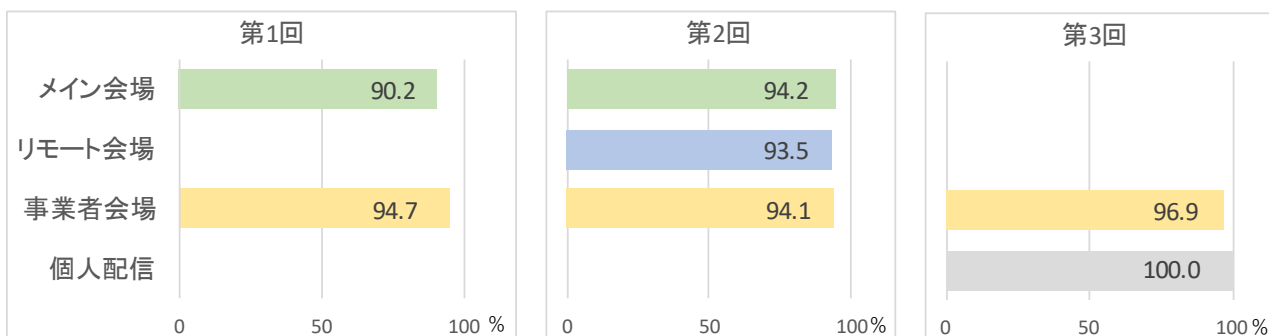
メイン会場 … 第1回 n=42 第2回 n=55 リモート会場 … 第2回 n=48
 事業者会場 … 第1回 n=69 第2回 n=35 第3回 n=35 個人配信 … 第3回 n=218

養成研修 ふりかえりシート of 総合判定Aの割合 3

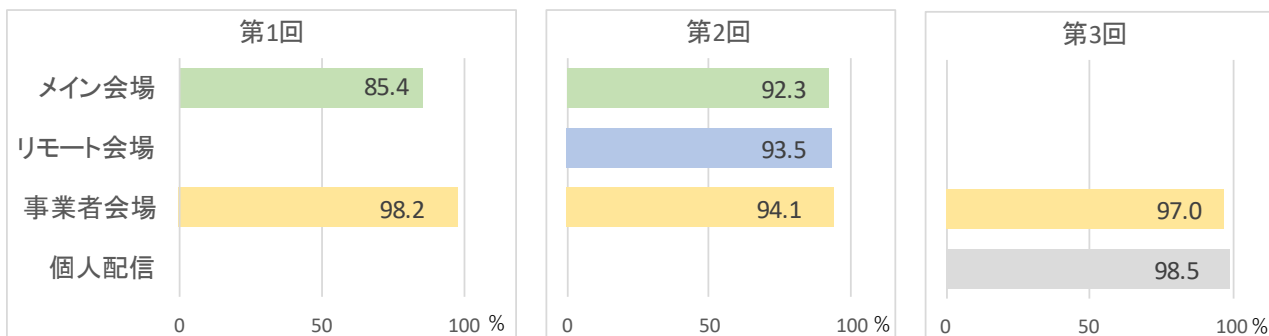
科目: さまざまな家庭訪問保育



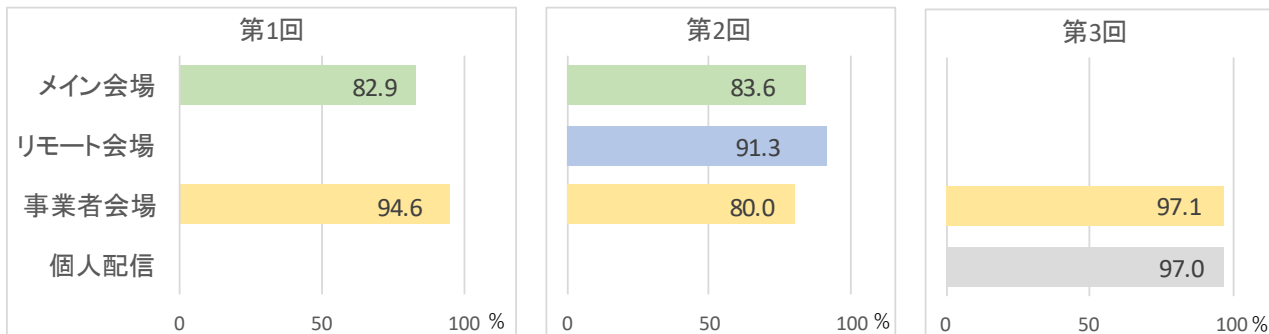
科目: 保育技術Ⅰ－3歳未満のお世話



科目: 保育技術Ⅱ－3歳未満の遊び



科目: 保育技術Ⅲ－けがと病気の対応

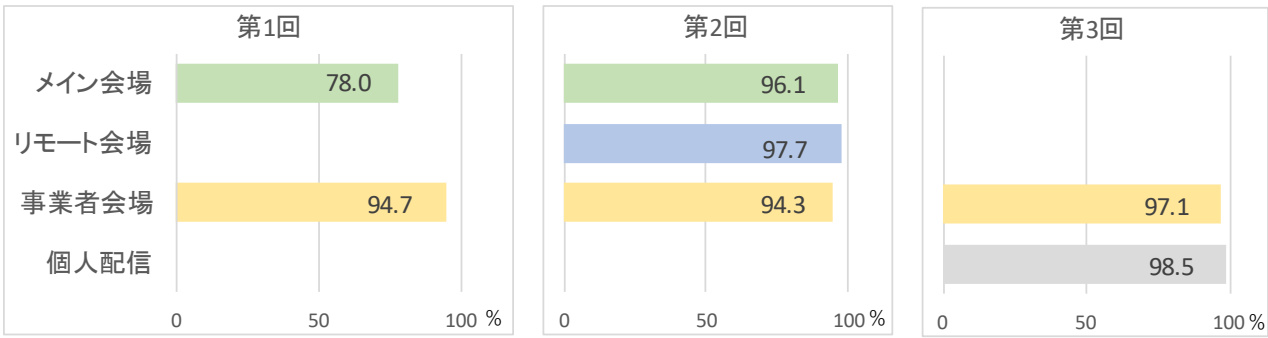


養成研修 参加者総数 (一部科目受講者がいるため、科目毎に n は異なる)

メイン会場	・・・	第1回	n=42	第2回	n=55	リモート会場	・・・	第2回	n=48
事業者会場	・・・	第1回	n=69	第2回	n=35	第3回	n=35	個人配信	・・・
								第3回	n=218

養成研修 ふりかえりシート of 総合判定Aの割合4

科目:ディスカッション

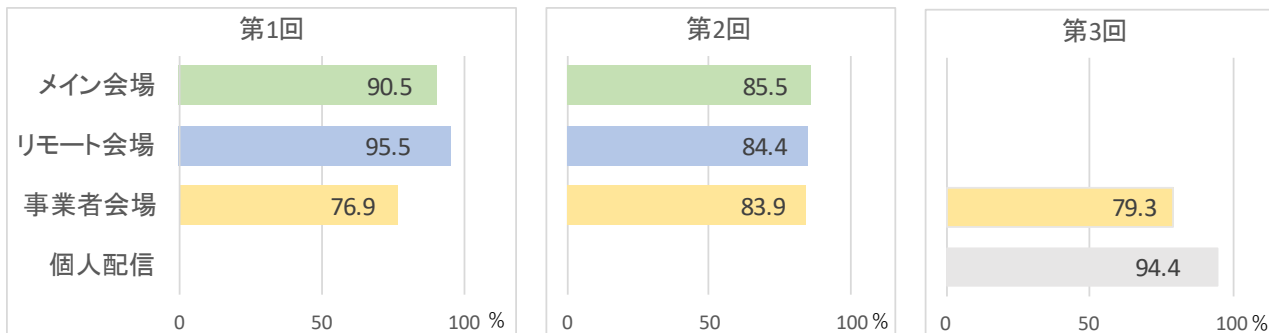


養成研修 参加者総数 (一部科目受講者がいるため、科目毎に n は異なる)

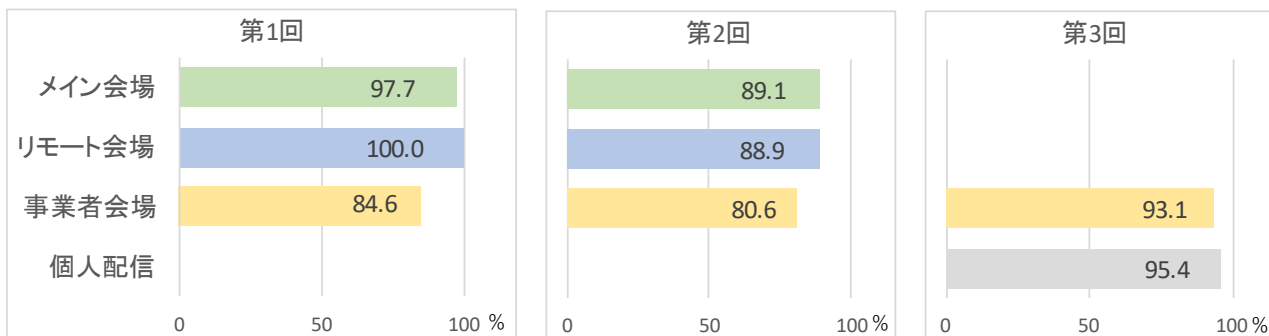
メイン会場	・・・	第1回	n=42	第2回	n=55	リモート会場	・・・	第2回	n=48		
事業者会場	・・・	第1回	n=69	第2回	n=35	第3回	n=35	個人配信	・・・	第3回	n=218

現任研修 ふりかえりシート の総合判定Aの割合1

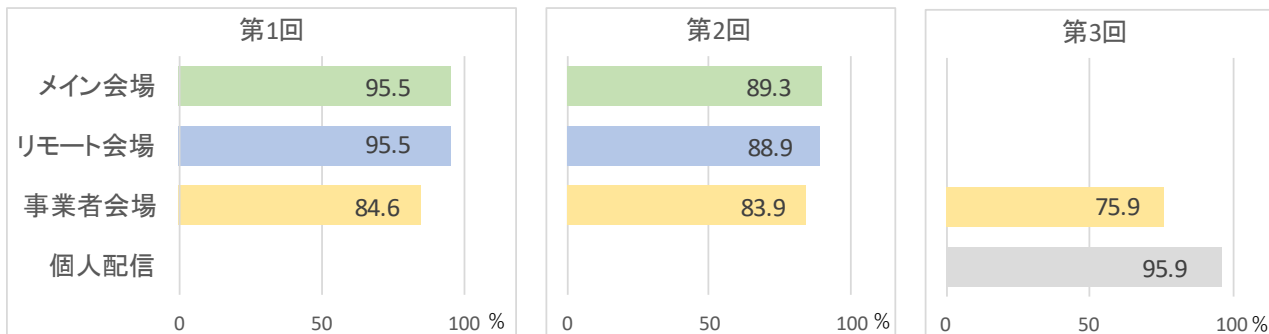
科目:保育制度における家庭訪問保育の動向



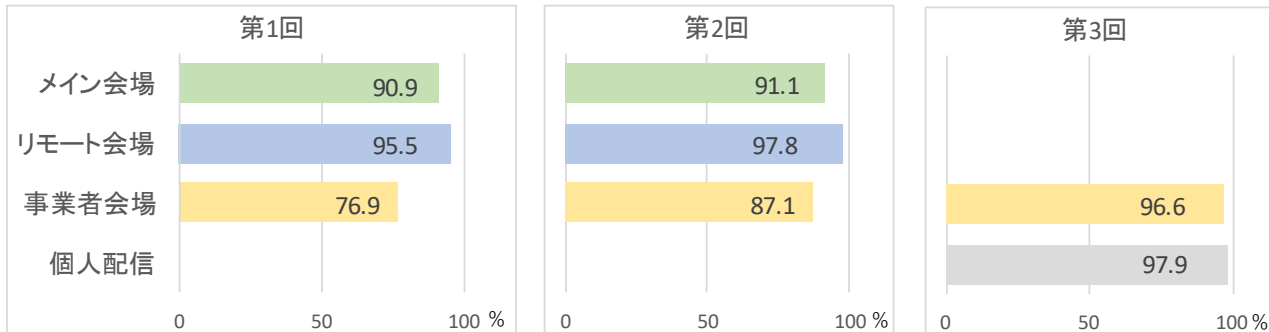
科目:小児保健Ⅱ－子どもの健康管理Ⅱ



科目:心肺蘇生法



科目:家庭訪問保育の保育内容

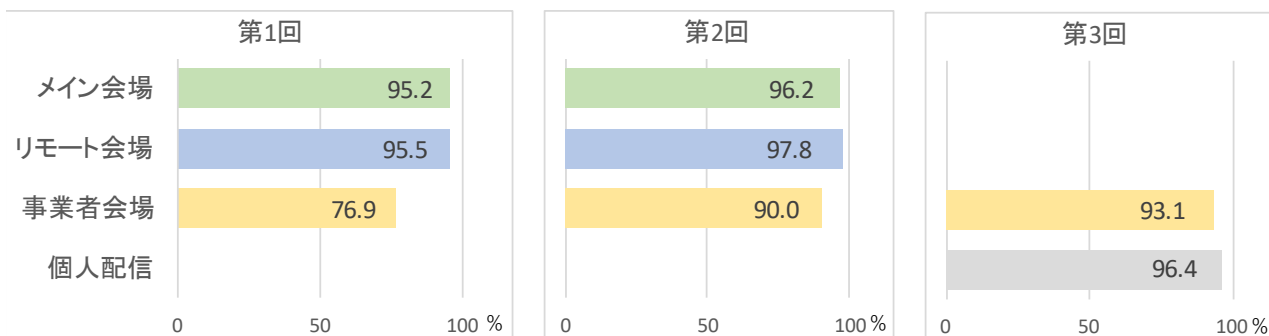


現任研修 参加者総数 (一部科目受講者がいるため、科目毎に n は異なる)

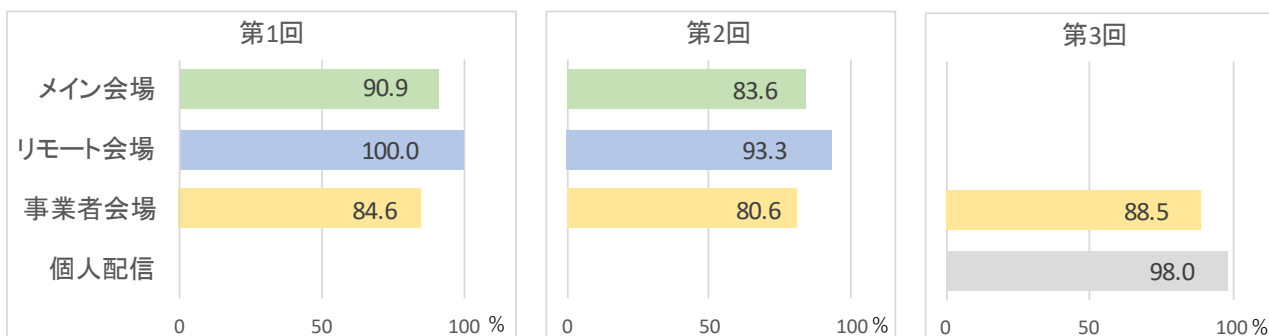
メイン会場・・・第1回 n=45 第2回 n=57 リモート会場・・・第1回 n=24 第2回 n=46
 事業者会場・・・第1回 n=13 第2回 n=31 第3回 n=30 個人配信・・・第3回 n=209

現任研修 ふりかえりシート の総合判定Aの割合 2

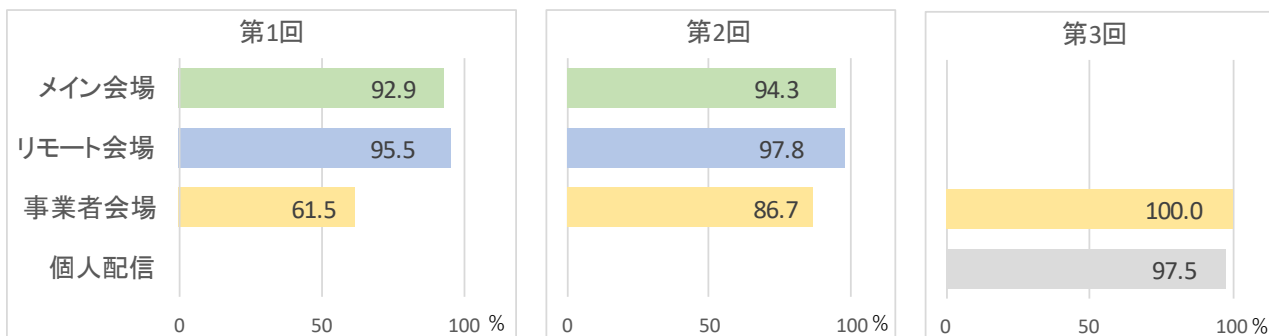
科目:家庭訪問保育における環境整備



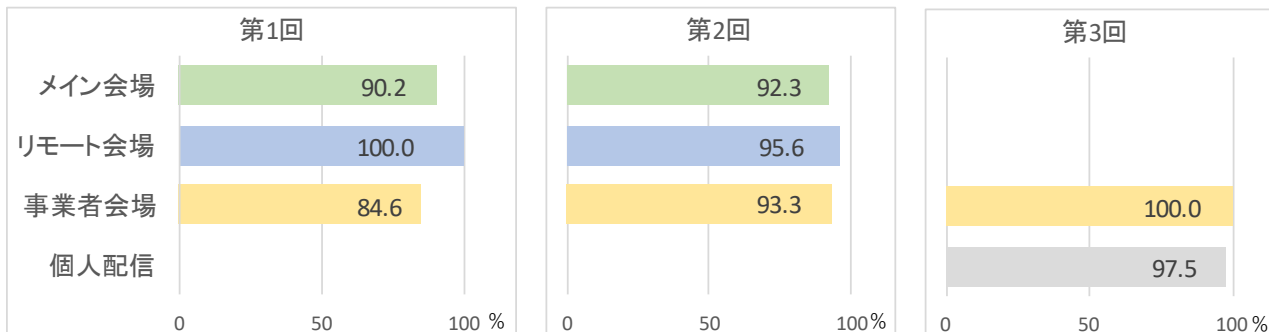
科目:家庭訪問保育者の使命と役割 I - 運営



科目:家庭訪問保育者の使命と役割 II - 職業倫理と配慮事項



科目:保護者への支援

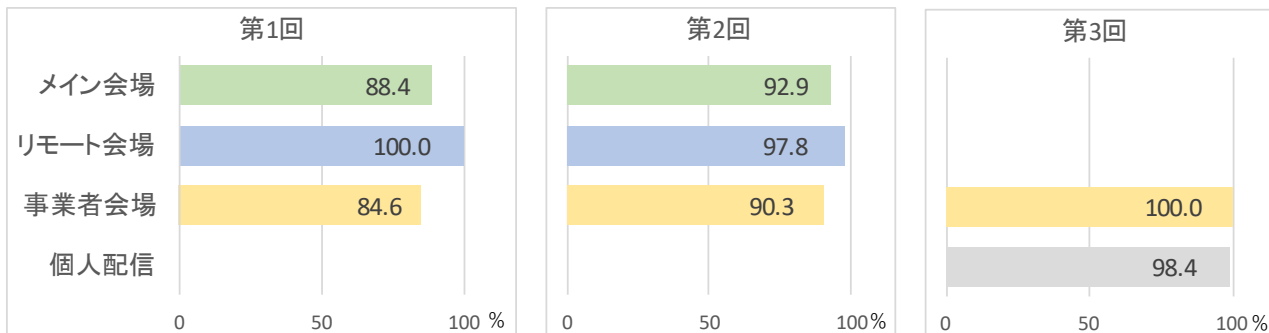


現任研修 参加者総数 (一部科目受講者がいるため、科目毎に n は異なる)

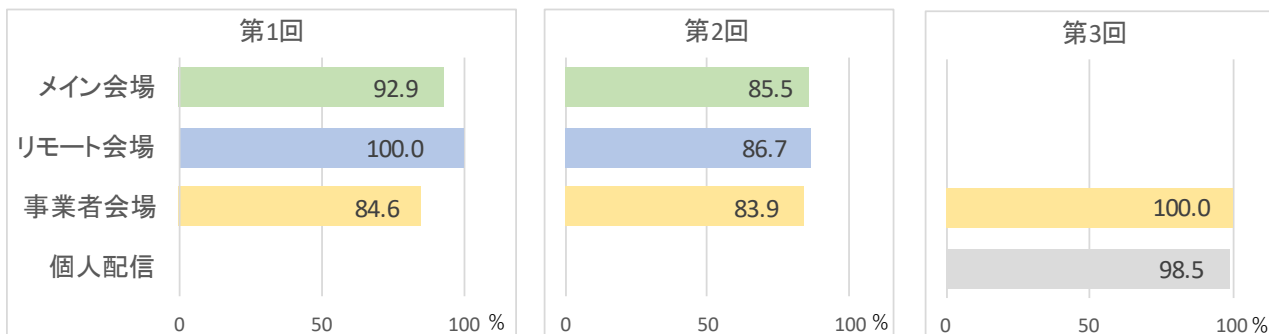
メイン会場 … 第1回 n=45 第2回 n=57 リモート会場 … 第1回 n=24 第2回 n=46
 事業者会場 … 第1回 n=13 第2回 n=31 第3回 n=30 個人配信 … 第3回 n=209

現任研修 ふりかえりシート の総合判定Aの割合 3

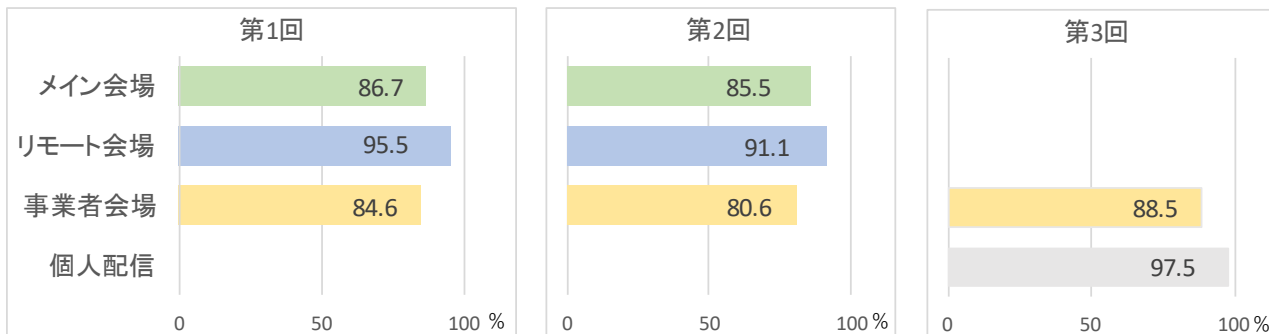
科目:
 子どもの発達Ⅱ- 特別に配慮を要する子どもへの対応



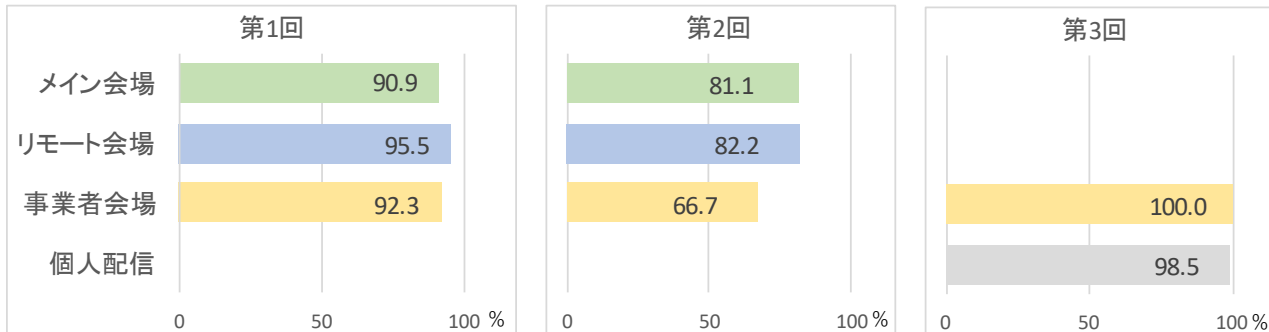
科目:
 保育技術Ⅳ- 子どもの食事



科目:
 保育技術Ⅴ- 3歳以上の遊び



科目:
 ディスカッション



現任研修 参加者総数 （一部科目受講者がいるため、科目毎に n は異なる）

メイン会場 ・ ・ ・ 第1回 n=45 第2回 n=57 リモート会場 ・ ・ ・ 第1回 n=24 第2回 n=46
 事業者会場 ・ ・ ・ 第1回 n=13 第2回 n=31 第3回 n=30 個人配信 ・ ・ ・ 第3回 n=209

5) ライブ配信による研修の結果と今後の課題

ACSA が実施した第 1 回～第 3 回の養成研修、現任研修について、アンケートの結果やふりかえりシートの評価、また、受講者や会場を設定した事業者等の意見を総合的に検討し、リモート会場へのライブ配信や個人へのライブ配信の学習効果を検討した結果、全 3 回の研修実施を通して、受講態度、習熟度等に違いは見られないため、ライブ配信による集合会場での研修や個人配信は有効であると考えられる。

この効果が得られた一因として、講師がライブで話している講義を受けていることや演習や実技を通して、個人配信であっても、一緒に学んでいる人がいることを実感できたことがあげられる。

ただし、自由意見等にもあげられた映像や音声の技術的トラブルを回避する体制の確立が必要なことは言うまでもない。また、今回の受講者の属性として会員事業者に所属する訪問型保育者が多かった点、また、認可外保育施設指導監督基準の改正により、早期に研修修了することが必要な保育経験者が多く参加していることから、今後対象者が一般に拡大され、初任者を対象とする研修に変わった際に、同様の傾向が出るとは限らず、研修実施体制の課題の解消に向けて今後も取り組むことが必要である。

具体的には、以下について検討することが必要である。

受講者管理	本人確認 受講態度のモニター体制 離席状態（モニター前にいない）や遅刻への対応に関するルール作り 接続が途切れがちな保育者への対応 講義中の接続トラブル等に関する問い合わせへの対応 提出物の回収、内容確認 個人配信の場合は、オンライン上でのアンケートの実施等
技術面	安定した接続の確保 音声トラブル、映像トラブルの回避 演習の実施方法の検討
講師	リモート会場や個人配信の受講者への働きかけ 実技や演習の効果的な進め方 パワーポイント等の資料の改善（フォーマットや文字サイズの統一） 資料配付の検討

また、個人配信の場合は、講師はスタジオから講義をすることが望ましい。リモート会場へのライブ配信については、集合研修会場からでも、スタジオからでも可能であるが、例えば併存するときに演習や実技等の説明が煩雑にならないように配慮することも必要である。

6) 地方自治体の研修実施の意向

認可外の居宅訪問型保育事業の届出先である都道府県、政令指定都市、中核市については、認可外の居宅訪問型保育者向けの研修の実施意向を調査した。調査時期は2021年3月8日～19日である。回収率は表5-18の通りである。

表5-18 回収率

	送付数	回収数
都道府県	47	36
	100.0	76.6
政令指定都市	20	16
	100.0	80.0
中核市	60	38
	100.0	63.3
全体	127	90
	100.0	70.9

居宅訪問型保育者または認可外の居宅訪問型保育者が対象になりうる研修は現在も、今後も多くはない。認可外の居宅訪問型保育事業に対する集団指導を行った自治体が2か所あげられていたが、多くの自治体であげられていたのは認可外保育施設に勤務する保育従事者向けの研修であり、その例として、①事故の防止に関すること、②子どもを理解するための基礎知識、③保育所保育指針の内容、④保育所におけるアレルギー対応ガイドラインの内容、⑤園外活動等における安全対策に関すること、⑥施設が順守・留意すべき内容等に関することがあげられていた。これらは、P.21で触れた基礎的分野に該当するものである。

その傾向は今後も大きく変わるようには見受けられなかった。

表5-19 令和2年度実施した研修（居宅訪問型保育者が含まれる）

	居宅訪問型 保育 基礎研修	家庭的保育 事業 基礎研修	子育て支援 員研修 （地域保育 コース）	居宅訪問型 保育事業者 保育者を 対象とする 研修	無回答	全体
都道府県	1	0	29	7	5	36
	2.8	0.0	80.6	19.4	13.9	100.0
政令指定都市	1	0	8	5	4	16
	6.3	0.0	50.0	31.3	25.0	100.0
中核市	0	1	5	11	13	38
	0.0	2.6	13.2	28.9	34.2	100.0
全体	2	1	42	23	22	90
	2.2	1.1	46.7	25.6	24.4	100.0

表 5-20 今後実施する予定の研修（居宅訪問型保育者が含まれる）

	居宅訪問型 保育 基礎研修	家庭的保育 事業 基礎研修	子育て支援 員研修 (地域保育 コース)	居宅訪問型 保育事業者 保育者を 対象とする 研修	無回答	全体
都道府県	1	0	28	6	6	36
	2.8	0.0	77.8	16.7	16.7	100.0
政令指定都市	2	0	10	5	3	16
	12.5	0.0	62.5	31.3	18.8	100.0
中核市	0	1	7	13	13	38
	0.0	2.6	18.4	34.2	34.2	100.0
全体	3	1	45	24	22	90
	3.3	1.1	50.0	26.7	24.4	100.0

次に、今年度の研修実施で試行したベビーシッター養成研修や現任研修を、ライブ配信の手法を活用して、地方自治体が会場を設けることにより、基準を満たすための研修が実施できることについて説明をした上で、ライブ配信の導入意向を尋ねた結果、導入（検討）したいという回答は全体でも 1 割弱だが、わからないが約半数であった。

また、届出をした認可外の居宅訪問型保育事業者への情報提供については、過半数が情報提供すると回答した。

表 5-21 ACSA 研修のライブ配信について

	導入 (検討) したい	導入する予 定はない	わからない	その他	無回答	全体
都道府県	3	11	20	1	1	36
	8.3	30.6	55.6	2.8	2.8	100.0
政令指定都市	2	5	8	0	1	16
	12.5	31.3	50.0	0.0	6.3	100.0
中核市	3	14	19	1	0	38
	7.9	36.8	50.0	2.6	0.0	100.0
全体	8	30	47	2	2	90
	8.9	33.3	52.2	2.2	2.2	100.0

表 5-22 ACSA 研修の情報提供について

	情報提供 する	情報提供 しない	わからない	その他	無回答	全体
都道府県	22	0	10	3	1	36
	61.1	0.0	27.8	8.3	2.8	100.0
政令指定都市	10	2	3	0	1	16
	62.5	12.5	18.8	0.0	6.3	100.0
中核市	20	2	16	0	0	38
	52.6	5.3	42.1	0.0	0.0	100.0
全体	52	4	29	3	2	90
	57.8	4.4	32.2	3.3	2.2	100.0

本調査研究で作成した試作版DVDを活用した研修を実施したいかどうか尋ねたところ、実施したいという回答は全体で1割にも満たなかったが、「わからない」が6割を締めていたことから、試作版DVDやテキストの内容を知らせていくことにより、徐々に普及させる可能性が無いとは言えない。

今回の調査では、認可外の居宅訪問型保育事業の届出先になっている地方自治体で、認可外の居宅訪問型保育事業の研修が現在も今後も実施されていない状況が把握できたが、地方自治体がそういった研修にかかる情報提供を担ってもらえることが明らかになったため、今後はACSAが主催するライブ配信による研修を、地方自治体との連携により、全国に広げていく可能性が見られた。

表5-23 試作版DVDを活用した研修の実施

	実施したい	実施する予定はない	わからない	無回答	全体
都道府県	1	11	23	2	36
	2.8	30.6	63.9	5.6	100.0
政令指定都市	2	5	8	1	16
	12.5	31.3	50.0	6.3	100.0
中核市	2	14	22	0	38
	5.3	36.8	57.9	0.0	100.0
全体	5	30	53	3	90
	5.6	33.3	58.9	3.3	100.0

Ⅳ 研究のまとめと今後の課題

1. 認可外の居宅訪問型保育事業等に係る研修内容の検討

認可外の居宅訪問型保育事業にかかる研修として、保育士や看護師の有資格者、また、子育て支援員研修（地域保育コース）の修了者で、訪問型保育に特化した研修を受講していない者が受講することを推奨する補足研修として、①訪問型保育者の業務の流れ、②子ども家庭福祉における訪問型保育のシラバスを作成し、テキストを作成した上で、DVDを作成した。

また、フォローアップ研修、現任研修については、認可外の居宅訪問型保育者としての働き方はその頻度や時間数もさまざまであるため、経験年数で区切るのではなく、すべての現任の保育者を対象とした研修を定期的、継続的に行うことが必要である。その内容として、基礎的分野については、最近の児童福祉行政、子どもの心身の発達と保育、子どもの健康管理、安全の確保とリスクマネジメント、特別に配慮を要する子どもへの対応、保護者理解と対応、実技講習として、乳幼児の事故への対応や、あそび・子どものケアなどをあげた。これらは認可外保育施設従事者向けの研修として、自治体等が行う研修を受講することも可能であると考えられる。

さらに、上記の研修を居宅訪問型保育に特化した内容とする研修も考えられる。認可外の居宅訪問型保育については、対象児童の年齢が幅広い点や、保育する時間帯、子どもの状態もさまざまであるという特性に配慮した研修が必要となる。

認可外の居宅訪問型保育に特化した研修内容として、③さまざまな訪問型保育、④訪問型保育者の使命と役割、⑤訪問型保育における保護者への支援、⑥事例検討などをあげ、③さまざまな訪問型保育、④訪問型保育者の使命と役割については、シラバスを作成し、テキストを作成した上で、DVDを作成した。

2. e-ラーニング活用による研修機会確保方策の検討

認可外保育施設指導監督基準の改正に伴い、認可外の居宅訪問型保育者は保育士または看護師、その資格を有していない場合は、指定された研修の受講を終了することが必要となった。しかし、全国的にそれらの研修が実施されていないことから、e-ラーニングの活用を視野に入れ、研修機会の確保方策を検討した。なお、本調査研究で言うe-ラーニングとは、e-ラーニングを広義に捉え、集合研修における映像教材の活用、DVD等のメディアに収録された講義動画の視聴、講義のライブ配信（遠隔地の会場への配信や個人への配信を含む）などの手法を広く包含した学習方法として検討を行った。

これらの研修は、保育士、看護師の有資格者ではない方が受講する研修であり、認可外の居宅訪問型保育者としての従事要件（基礎資格）となる研修であるため、以下を満たしていることが求められる。

- ①本人が受講していることを確認できる（本人確認）
- ②受講態度に問題がないこと（講義の間、受講していることが確認できる）

③従来から行われている対面の集合研修と同様の学習効果が得られていることが確認できる修了評価が行える

この視点に基づき、eラーニングを活用した研修方法を検討した結果、メイン会場で行われる講義をライブ配信によるリモート会場への配信と、講師がスタジオで講義をし、個人にライブ配信する2つの方法を試行し、上記の必要要件を満たすことができるか検証を行った。また、その研修の中で、1. で作成したDVDの一部を映写し、評価を得た。

ACSAが実施した第1回～第3回の養成研修、現任研修について、アンケートの結果やふりかえりシートの評価、また、受講者や会場を設定した事業者等の意見を総合的に検討した。リモート会場へのライブ配信や個人配信の学習効果を検討した結果、全3回の研修実施を通して、受講態度、習熟度等に違いは見られておらず、ライブ配信による集合会場での研修や個人配信は有効であると考えられる。

この効果が得られた要因として、講師がライブで話している講義を受けていることや演習や実技を通して、個人配信であっても、一緒に学んでいる人がいることを実感できたことがあげられる。とりわけ個人へのライブ配信では、コロナ禍の集合研修では実施できなかったグループディスカッションなどが可能となった点も大きかった。

ただし、自由意見等にもあげられた映像や音声の技術的トラブルを回避する体制の確立が必要なのは言うまでもない。また、今回の受講者の属性として会員事業者に所属する保育者が多かった点、また、認可外保育施設指導監督基準の改正により、早期に研修修了することが必要な保育経験者が多く参加していることから、今後対象者が一般に拡大され、初任者を対象とする研修に変わった際に、同様の結果が出るとは限らず、研修実施体制の課題の解消に向けて今後も取り組む必要がある。

3. 今後の認可外の居宅訪問型保育事業に係る研修

今回の調査研究を通じて、認可外の居宅訪問型保育事業に係る研修を行うにあたり、ライブ配信の手法を活用することにより、東京で実施する研修を全国各地で受信でき、また、研修の質も担保されることが明らかとなった。それを実行する上で整えなければならない運営体制について今後さらに検討を深めることが必要である。

とりわけ保育士や看護師の資格を有していない人が受講すべき研修については、本人確認や受講態度の確認、修了評価が必要になることから、eラーニング活用の中でも、ライブ配信であれば実施可能と考えられる。また、その配信先を必要とする地方自治体に広げることも可能であるし、地方自治体に情報提供の協力を要請することにより、研修を必要とする個人に研修を届けることが可能となる。

一方、フォローアップ研修や現任研修のような資質向上を目指して、基礎資格の上に積み上げていく研修については、オンデマンドの研修方法も有効であると考えられる。今回作成した、DVD教材については、ACSAのホームページ上で公開し、自由に閲覧することにもつなげ、保育者の自己研鑽に資することも可能である。

また、保育現場では一人で保育することの多い認可外の居宅訪問型保育者同士が情報交換をしたり、事例を共に検討するような機会も必要であることから、フォローアップ研修や現任研修でも個人へのライブ配信の活用が期待される。

参考資料

令和2年度ベビーシッター養成研修会〔第1回〕オンライン受講 事業者アンケート

事業者・運営ご担当の皆様へ

この度はベビーシッター養成研修会運営にご協力いただき、誠にありがとうございました。
今回の養成研修・現任研修は、保育者に義務づけられた研修を受講する機会が少ない地域や研修に参加する時間がとりにくい保育者の方が、受講しやすい仕組みを作るために、東京の本会場で行われている講義を、ライブ配信によって、各会場に配信する方法で行っています。

今回の研修については、厚生労働省令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「認可外の居宅訪問型保育事業等に係る研修の実施に関する調査研究」に基づき、本来は講師が直接講義をすることが望ましい研修ができない場合の方法を検討し、その効果や課題となることを検証するという目的も持っております。そのため、各会場で運営管理にあたっていたご皆様に、研修中に気づいたことなどを教えていただきながら、今後より良い研修を実施していきたいと考えています。

ご協力のほど、よろしくお願いします。

事業者名 ()
会場 () 自社会議室・研修室 () 貸し会議室等
参加者数 申込者数 () 名 出席者数 () 名
回答者氏名 連絡先

I. 準備段階

1. 準備段階で大変だったのはどのようなことですか。該当するものすべてに○をして下さい。

() 受講者の申込受付 () ACSA への受講申込手続き () 座席表作成等の準備
() 会場確保 () 必要機材の確保 () 研修の運営管理者の確保

【自由意見】

II. 技術面

今後ライブ配信先を広げるにあたり、事前に案内した方が良かったことなどご意見がありましたら、自由記述欄にご記入下さい。

2. ライブ配信を受信するためのPC等の設定に問題ありましたか。

() なかった () あった

【具体的にお書き下さい】

3. 受信時の映像の状況は問題ありませんでしたか。該当するものすべてに○をして下さい。

- | | |
|---|--|
| ☐ 特に問題なく見ることができた | ☐ 画像が停止することがあった |
| ☐ 画像が見にくいときがあった | ☐ その他 |

【具体的にお書き下さい】

4. 受信時の音声の状況は問題ありませんでしたか。該当するものすべてに○をして下さい。

- | | |
|--|--|
| ☐ 特に問題なく聞くことができた | ☐ 音声が途切れることがあった |
| ☐ 音声が聞こえにくいときがあった | ☐ その他 |

【具体的にお書き下さい】

5. 会場を映写した画面の設置に問題はありませんでしたか。該当するものすべてに○をして下さい。

- | | |
|--|---------------------------------------|
| ☐ 特に問題なく設置できた | ☐ 適切な置き場所がなかった |
| ☐ 受講者全体を写すことができなかった | ☐ その他 |

【具体的にお書き下さい】

6. その他、ライブ配信受信時の問題点があれば、自由にご記入下さい。

Ⅲ. 当日受付・出欠管理

7. 各科目毎の出欠確認はスムーズに行えましたか。該当するものすべてに○をして下さい。

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| ☐ 特に問題なく行えた | ☐ スムーズに行えなかった |
|------------------------------------|--------------------------------------|

【具体的にお書き下さい】

8. その他、当日の受付、出欠確認等、研修受講時の管理で問題があれば、自由にご記入下さい。

IV. 受講中の受講者の様子

9. 時間帯や講義内容（講師の話のみ、パワーポイントあり、動画、演習の有無等）により違いがあったかと思いますが、受講者は講義に集中できていたようでしたか。また、講義内容はわかりやすそうだったでしょうか。お気づきのことがありましたら、時間帯や講義内容等具体的に示しながら、感想をお書きください。

【具体的にお書き下さい】

10. (1) 演習の指示内容は映像を通じて、受講者に伝わっていましたか。該当するものすべてに○をしてください。

() 特に問題なく伝わっていた

() 何をしたら良いか伝わってなかった

【具体的にお書き下さい】

10. (2) 演習時のグループ分けや移動等、スムーズに進められましたか。

() 特に問題なかった

() スムーズに進められなかった

【具体的にお書き下さい】

11. (1) 実技の指示内容は映像を通じて、受講者に伝わっていましたか。該当するものすべてに○をしてください。

() 特に問題なく伝わっていた

() 何をしたら良いか伝わってなかった

【具体的にお書き下さい】

11. (2) 実技の進行具合はいかがでしたか。該当するものすべてに○をしてください。

() 特に問題なかった

() スムーズに進められなかった

【具体的にお書き下さい】

12. 演習や実技に関して、会場にいる運営担当者に質問等がありましたか。

() 特に質問はなかった

() 質問があった

【科目名や質問内容等、具体的にお書き下さい】

13. 今回、ライブ配信に Zoom ミーティングを使用しました。御社の Zoom のご利用状況を教えてください。

() 今回がはじめて

() 2回目

() 3回以上

14. Zoom 以外で利用したことがあるツールを教えてください。

() Teams

() Webex

() V-cube

() その他_____

15. 今後、このようなライブ配信を実施するにあたり、改善点等のご意見がありましたら、お書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

**令和2年度ベビーシッター現任研修会〔第1回〕オンライン受講
事業者アンケート**

事業者・運営ご担当の皆様へ

養成研修会に引き続き現任研修会のオンライン受講、ありがとうございました。

前回の養成研修会と今回の現任研修会の違いを把握したいと存じますので、アンケートにご協力のほどよろしくお願いいたします。

事業者名 ()
会場 () 自社会議室・研修室 () 貸し会議室等
参加者数 申込者数 () 名 出席者数 () 名
回答者氏名 連絡先

I. 準備段階

1. 準備段階で大変だったのはどのようなことですか。該当するものすべてに○をして下さい。

() 受講者の申込受付 () ACSA への受講申込手続き () 座席表作成等の準備
() 会場確保 () 必要機材の確保 () 研修の運営管理者の確保

【自由意見】

II. 技術面

今後ライブ配信先を広げるにあたり、事前に案内した方が良かったことなどご意見がありましたら、自由記述欄にご記入下さい。

2. ライブ配信を受信するためのPC等の設定に問題ありましたか。

() なかった () あった

【具体的にお書き下さい】

3. 受信時の映像の状況は問題ありませんでしたか。該当するものすべてに○をして下さい。

() 特に問題なく見ることができた () 画像が停止することがあった
() 画像が見にくいときがあった () その他

【具体的にお書き下さい】

4. 受信時の音声の状況は問題ありませんでしたか。該当するものすべてに○をして下さい。

- | | |
|--|---------------------------------------|
| ☐ 特に問題なく聞くことができた | ☐ 音声途切れることがあった |
| ☐ 音声が聞こえにくいことがあった | ☐ その他 |

【具体的にお書き下さい】

5. 会場を映写した画面の設置に問題はありませんでしたか。該当するものすべてに○をして下さい。

- | | |
|--|---------------------------------------|
| ☐ 特に問題なく設置できた | ☐ 適切な置き場所がなかった |
| ☐ 受講者全体を写すことができなかった | ☐ その他 |

【具体的にお書き下さい】

6. その他、ライブ配信受信時の問題点があれば、自由にご記入下さい。

Ⅲ. 当日受付・出欠管理

7. 各科目毎の出欠確認はスムーズに行えましたか。該当するものすべてに○をして下さい。

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| ☐ 特に問題なく行えた | ☐ スムーズに行えなかった |
|------------------------------------|--------------------------------------|

【具体的にお書き下さい】

8. その他、当日の受付、出欠確認等、研修受講時の管理で問題があれば、自由にご記入下さい。

IV. 受講中の受講者の様子

9. 時間帯や講義内容（講師の話のみ、パワーポイントあり、動画、演習の有無等）により違いがあったかと思いますが、受講者は講義に集中できているようでしたか。また、講義内容はわかりやすそうだったでしょうか。お気づきのことがありましたら、時間帯や講義内容等具体的に示しながら、感想をお書きください。

【具体的にお書き下さい】

10. (1) 演習の指示内容は映像を通じて、受講者に伝わっていましたか。該当するものすべてに○をしてください。

() 特に問題なく伝わっていた

() 何をしたら良いか伝わってなかった

【具体的にお書き下さい】

(2) 演習時のグループ分けや移動等、スムーズに進められましたか。

() 特に問題なかった

() スムーズに進められなかった

【具体的にお書き下さい】

11. (1) 心肺蘇生法の実技の指示内容は映像を通じて、受講者に伝わっていましたか。該当するものすべてに○をしてください。

() 特に問題なく伝わっていた

() 何をしたら良いか伝わってなかった

【具体的にお書き下さい】

(2)心肺蘇生法の実技の進行具合はいかがでしたか。該当するものすべてに○をしてください。

() 特に問題なかった

() スムーズに進められなかった

【具体的にお書き下さい】

12. (1) 遊びの実技の指示内容は映像を通じて、受講者に伝わっていましたか。該当するものすべてに○をしてください。

() 特に問題なく伝わっていた

() 何をしたら良いか伝わってなかった

【具体的にお書き下さい】

(2) 遊びの実技の進行具合はいかがでしたか。該当するものすべてに○をしてください。

() 特に問題なかった

() スムーズに進められなかった

【具体的にお書き下さい】

13. 演習や実技に関して、会場にいる運営担当者に質問等がありましたか。

() 特に質問はなかった

() 質問があった

【科目名や質問内容等、具体的にお書き下さい】

14. 今回、ライブ配信に Zoom ミーティングを使用しました。御社の Zoom のご利用状況を教えてください。

() 今回がはじめて

() 2回目

() 3回以上

会場名:

令和2年度 ベビーシッター養成研修会 アンケート

(アンケートは最終日に提出してください。)

- 1 今回参加していただいた講義についてお尋ねします。今回、受講していただいた研修において、講義に集中して受講できたか（集中度）、講義の内容はわかりやすかったか（わかりやすさ）についてもっとも近いところを1つ選んで○をしてください。

<回答の仕方>

集中できたか 5（とてもよく集中できた） ・ ・ ・ 1（まったく集中できなかった）

わかりやすかったか 5（とてもわかりやすかった） ・ ・ ・ 1（まったくわからなかった）

としたときに、各講座について、あなたの気持ちに最も近い数字を1つ選んで○をして下さい。

	科目名	集中できたか	わかりやすかったか
11月25日（水）	オリエンテーション－家庭訪問保育の概要	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	子ども虐待	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	保育技術Ⅲ－けがと病気の対応	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	一般型家庭訪問保育の業務の流れ	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	乳幼児の発達Ⅰ－乳幼児の発達と心理	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
11月26日（木）	乳幼児の生活と遊び	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	保育技術Ⅰ－3歳未満のお世話	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	小児保健Ⅰ－子どもの健康管理Ⅰ	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	保育技術Ⅱ－3歳未満の遊び	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
11月27日（金）	事故安全－安全の確保とリスクマネジメント	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	保育マインド－家庭訪問保育者の心得	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	さまざまな家庭訪問保育	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	ディスカッション	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

--

☐ ベビーシッター事業者に所属 ☐ ベビーシッター事業者からの業務委託

☐ ファミリーサポートセンター会員として従事 ☐ シルバー人材センター等地域の団体に登録

☐ 個人で依頼を受ける ☐ マッチングサイトに登録

☐ 保育施設で従事している ☐ 今後どのようにするかはまだ決めていない

☐ その他（）

☐ なし ☐ 1 年未満 ☐ 1 年以上 3 年未満 ☐ 3 年以上 5 年未満
☐ 5 年以上 7 年未満 ☐ 7 年以上 10 年未満 ☐ 10 年以上 15 年未満 ☐ 15 年以上

令和2年度 ベビーシッター現任研修会 アンケート

(アンケートはレポート・ふりかえりシートと一緒に提出してください。)

- 1 今回参加していただいた講義についてお尋ねします。今回、受講していただいた研修において、講義に集中して受講できたか（集中度）、講義の内容はわかりやすかったか（わかりやすさ）についてもっとも近いところを1つ選んで○をしてください。

<回答の仕方>

集中できたか 5（とてもよく集中できた） ・ ・ ・ 1（まったく集中できなかった）

わかりやすかったか 5（とてもわかりやすかった） ・ ・ ・ 1（まったくわからなかった）

としたときに、各講座について、あなたの気持ちに最も近い数字を1つ選んで○をして下さい。

	科目名	集中できたか	わかりやすかったか
3月5日 (金)	保育制度における家庭訪問保育の動向	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	家庭訪問保育における環境整備	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	小児保健Ⅱ-子どもの健康管理Ⅱ	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	心肺蘇生法（実技演習）	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	映像教材 心肺蘇生法	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
3月8日 (月)	実技講習 心肺蘇生法	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	保育技術Ⅳ -子どもの食事	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	保護者への支援	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	演習 「事例検討」	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	家庭訪問保育者の使命と役割Ⅰ-運営	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	家庭訪問保育者の使命と役割Ⅱ -職業倫理と配慮事項	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	映像教材「子どもの最善の利益を校了する保育」	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
3月9日 (火)	演習 「定義づくり」	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	保育技術Ⅴ -3歳以上の遊び	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	実技 手作りおもちゃ・手遊び	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	家庭訪問保育の保育内容	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
3月9日 (火)	演習 「保育の計画作成」	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	子どもの発達Ⅱ	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
	-特別に配慮を要する子どもへの対応	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
3月9日 (火)	ディスカッション	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

* 演習や実技については、説明がわかりやすかったか、進めやすかったかについて回答してください。

2 今回の受講方法や受講会場等をお聞かせください。(ご自身の対象項目に○を付けてください)

受講方法 事業者が用意した会場 PC タブレット スマホ

視聴場所 事業所(会社) 自宅 その他 ()

3 今回受講していただいた研修の内容及、受講方法などについての感想やご意見、このような研修を今後より受講しやすく改善するうえで、必要なことなどありましたら、以下にご自由ご記入下さい



4 現在、どのように家庭訪問保育に従事していますか。複数に該当する方は主な働き方を一つだけ選んでください。

☐ベビーシッター事業者に所属 ☐ベビーシッター事業者からの業務委託

☐ファミリーサポートセンター会員として従事 ☐シルバー人材センター等地域の団体に登録

☐ 個人で依頼を受ける ☐ マッチングサイトに登録

☐ 保育施設で従事している ☐ 今後どのようにするかはまだ決めていない

□その他（ ）

5 家庭訪問保育者としての経験年数をお選びください。

☐なし ☐1年未満 ☐1年以上3年未満 ☐3年以上5年未満

☐ 5 年以上 7 年未滿 ☐ 7 年以上 1 0 年未滿 ☐ 1 0 年以上 1 5 年未滿 ☐ 1 5 年以上

ご協力ありがとうございました

研修ふりかえりシート

受講番号_____ 受講者氏名_____

- 1, 今日の講義で大切だと思ったポイント、忘れないようにしたいと思ったことなどを科目毎に整理して記入してください（ボールペンで記入）。

オリエンテーション	
一般型家庭訪問保育の 業務の流れ	
小児保健Ⅰ -子どもの健康管理Ⅰ	
保育マインド -家庭訪問保育者の心得	
乳幼児の生活と遊び	

研修ふりかえりシート

受講番号_____ 受講者氏名_____

- 1, 今日の講義で大切だと思ったポイント、忘れないようにしたいと思ったことなどを科目毎に整理して記入してください（ボールペンで記入）。

子ども虐待	
保育技術Ⅰ -3歳未満のお世話	
乳幼児の発達Ⅰ -乳幼児の発達と心理	
保育技術Ⅱ -3歳未満の遊び	

研修ふりかえりシート

受講番号_____ 受講者氏名_____

- 1, 今日の講義で大切だと思ったポイント、忘れないようにしたいと思ったことなどを科目毎に整理して記入してください（ボールペンで記入）。

事故安全 -安全補確保とリスクマネジメント	
さまざまな家庭訪問保育	
保育技術Ⅱ -けがと病気の対応	
ディスカッション	

研修ふりかえりシート

受講番号_____ 受講者氏名_____

- 1, 今日の講義で大切だと思ったポイント、忘れないようにしたいと思ったことなどを科目毎に整理して記入してください（ボールペンで記入）。

保育制度における家庭訪問 保育の動向	
家庭訪問保育における環境 整備	
小児保健Ⅱ -子どもの健康管理Ⅱ	
心肺蘇生法 (実技演習)	

研修ふりかえりシート

受講番号_____ 受講者氏名_____

- 1, 今日の講義で大切だと思ったポイント、忘れないようにしたいと思ったことなどを科目毎に整理して記入してください（ボールペンで記入）。

保育技術Ⅳ －子どもの食事	
保護者への支援	演習グループのまとめ
家庭訪問保育者の 使命と役割Ⅰ －運営	
家庭訪問保育者の 使命と役割Ⅱ －職業倫理と配慮事項	演習グループのまとめ
保育技術Ⅴ －3歳以上の遊び	

研修ふりかえりシート

受講番号_____ 受講者氏名_____

- 1, 今日の講義で大切だと思ったポイント、忘れないようにしたいと思ったことなどを科目毎に整理して記入してください（ボールペンで記入）。

家庭訪問保育の保育内容	
子どもの発達Ⅱ ー特別に配慮を要する子ども への対応	
ディスカッション	

認可外の居宅訪問型保育事業等に係る研修の実施に関する 自治体向けアンケートのお願い

公益社団法人全国保育サービス協会
会長 草川 功

公益社団法人全国保育サービス協会では、厚生労働省「令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業」における「認可外の居宅訪問型保育事業等に係る研修の実施に関する調査研究」に取り組んでおります。本研究の成果の活用のご意向を、認可外の居宅訪問型保育事業の届け出先である、都道府県、政令指定都市、中核市のご担当者の皆様にお伺いします。

ご多用のところ短い回答期間で大変恐縮ですが、本調査は**3月22日（月）までに**
FAXまたはメールに添付する形でご回答ください。

FAX 03-5363-7456 / E-mail nagasaki@acsa.jp

地方自治体名	
担当課名	
ご担当者氏名	
連絡先電話または メールアドレス	

1. 認可外保育施設指導監督基準では、認可外の居宅訪問型保育事業について、保育士または看護師の資格を有していない者に対して、一定の研修受講を義務づけています。貴自治体では、認可外の居宅訪問型保育事業者向けの研修を実施していますか。今後の予定はいかがでしょうか。

(1) 今年（令和2年）度、居宅訪問型保育者向けの研修として実施した研修に該当するものに
○をしてください（複数回答）。

1. 居宅訪問型保育事業基礎研修
 2. 家庭的保育事業基礎研修
 3. 子育て支援員研修（地域保育コース）
 4. その他、居宅訪問型保育事業者または保育者を対象とする研修
- 具体的に研修名や対象者・内容等をご記入下さい。

(2) 今後、居宅訪問型保育者向けの研修として実施する予定の研修に該当するものに○をしてください（複数回答）。

1. 居宅訪問型保育事業基礎研修
 2. 家庭的保育事業基礎研修
 3. 子育て支援員研修（地域保育コース）
 4. その他、居宅訪問型保育事業者または保育者を対象とする研修
- 具体的に研修名や対象者・内容等をご記入下さい。

2. 公益社団法人全国保育サービス協会（ACSA）主催「ベビーシッター養成研修」、「ベビーシッター現任研修」の活用について

公益社団法人全国保育サービス協会では、認可外の居宅訪問型保育に従事する保育者で、保育士、看護師等の資格を有していない者に義務づけられる研修（③公益社団法人全国保育サービス協会が実施するベビーシッター養成研修、ベビーシッター現任研修）を年間3回程度実施しています。本研修は認可外の居宅訪問型保育に従事する保育者を対象とするもので、研修内容としても最も適している内容です。

今年度の研究事業で、これらの研修を「ライブ配信」の方法で、東京の本会場以外の会場で受信し、受講者に視聴していただけるシステムが有効であることが明らかになりました。今後、参加を希望される地方自治体が用意される会場でも、インターネット環境と機器（パソコン、プロジェクター、スクリーン等）を用意していただくことにより、受講が可能となりますが、このようなシステムの導入・活用の意向について、以下の質問にお答えください。

(1) ライブ配信を貴自治体の実施する研修の一環として、導入する可能性はありますか。該当する番号に○をしてください。

1. 導入したい（検討したい）
2. 導入する予定はない
3. わからない
4. その他

諸条件：

会場の用意	地方自治体
出欠管理	地方自治体
受講料	無料
資料代	養成・現任
各5000円（受講者負担）	

- (2) ライブ配信を個人配信として実施する（受講者が自宅等で受講する）場合、貴自治体に届出をしている認可外の居宅訪問型保育者に情報提供する可能性がありますか。該当する番号に○をしてください。

1. 情報提供する
2. 情報提供しない
3. わからない
4. その他

諸条件：

受講場所	安定したインターネット環境受講者の自宅等
出欠管理	A C S A
受講料	無料
資料代	養成・現任
	各 5 0 0 0 円（受講者負担）

3. 今年度の研究事業では、保育士、看護師等の有資格者や都道府県等が実施する「子育て支援員研修（地域保育コース）」の修了者で、訪問型保育固有の特徴や実務に関する研修を受講したことがない方を対象として、必要となる研修内容を網羅した映像教材を作成しました（補足研修教材：DVD 9 0 分×2本）。

また、現任者向けのフォローアップ研修に活用できる映像教材を作成しました（フォローアップ研修教材：DVD 6 0 分×2本）。

- (1) このような映像教材を活用して、認可外の居宅訪問型保育者を対象とした研修を実施するお考えはおありでしょうか。該当する番号に○をしてください。

1. 実施したい
2. 実施する予定はない
3. わからない

映像教材

【補足研修】

A：訪問型保育の業務の流れ（80 分）

B：子ども家庭福祉における訪問型保育（90 分）

【フォローアップ研修】

C：さまざまな訪問型保育（60 分）

D：訪問型保育者の使命と役割（60 分）

(2) 今回制作した、映像教材並びにテキストの送付をご希望されますか。DVDとテキストをお送りします。

1. 希望する
2. 希望しない

希望される場合は、下記に送付先の情報をご記入下さい。

郵便番号	
住所	
自治体名、担当課	
ご担当者氏名	

調査にご協力いただき、ありがとうございました。

映像教材の送付を希望された自治体には、準備が整い次第お送りします。